佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（小学校　国語科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校国語科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校国語科における学習評価の進め方
4　小学校国語科における学習評価事例
5　小学校国語科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領における学習評価はこのようになります。

◇新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◇各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◇新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を，言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　国語科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

⇒これまでの理念を引き継いでおり，国語科の教科目標は変わっていません。

2　評価の観点及びその趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する関心を深め，国語を尊重しようとする。	相手や目的，意図に応じ，話したり聞いたり話し合ったりし，自分の考えを明確にしている。	相手や目的，意図に応じ，文章を書き，自分の考えを明確にしている。	目的に応じ，内容をとらえながら本や文章を読み，自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに，文字を正しく整えて書いている。

評価の観点について

○　これまでと変わらず，学習指導要領の内容のまとまりに合わせた評価の観点となりました。「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価とする観点として位置付けられました。

○　新設された〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については，「A　話すこと・聞くこと」「B　書くこと」「C　読むこと」の各内容のまとまりの中に関連する事項が含まれており，「言語についての知識・理解・技能」の観点として評価することとなりました。

3　学年別の評価の観点の趣旨

	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第１・２学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する関心を深め，進んで話したり聞いたり書いたり，楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話したり，大事なことを落とさないように聞いたり，話題に沿って話し合ったりしている。	経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書いている。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりして本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに，文字を正しく丁寧に書いている。
第３・４学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する関心を深め，工夫をしながら話したり聞いたり書いたり，幅広く読書したりしようとする。	相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話したり，話の中心に気を付けて聞いたり，進行に沿って話し合ったりしている。	相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書いている。	目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに，文字を形や大きさ，配列，筆圧などに注意して書いている。

第５・６学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに，国語に対する関心を深め，適切に話したり聞いたり書いたり，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。	目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話したり，相手の意図をつかみながら聞いたり，計画的に話し合ったりしている。	目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。	目的に応じ，内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり，言葉の特徴やきまり，文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに，文字を書く目的や用紙全体との関係，点画のつながりなどに注意して書いている。

小学校国語科における学習評価の進め方

１　単元の学習指導における評価の観点の設定について

単元の学習指導で評価の観点を設定する際に大切なことは以下の２点です。

（１）　国語科の評価の観点の特徴を踏まえること

・「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」が，それぞれに基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられています。このことにより，この３つの観点のいずれかのみを取り上げて指導をしても，基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価することが可能です。

（２）領域を絞って評価すること

・（１）に述べた国語科の特徴を踏まえると，単元の指導計画を構想する際には，以下のように観点を絞った評価を行うことが基本となります。

これまでの観点（例）	これからの学習評価における観点（例）
国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 言語についての知識・理解・技能

これまでの学習指導案などの中には，単元の目標や評価規準などに５つの観点が列挙されているものもありました。今後は観点を絞り，より確実な指導とその評価を行っていきます。

◎「国語への関心・意欲・態度」

他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係するものであり，いずれの単元にも位置付けて評価を行うことが基本です。

◎「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」

その単元で重点的に取り上げて指導する観点を選んで設定します。１単元１領域に絞って指導と評価を行うことが多いですが，１単元を２領域以上で単元を構成する場合もあります。１領域に絞ることで重点的な指導ができます。２領域以上で単元構成を計画するときは，それらの領域を相互に密接に関連付けて指導することで，より高い指導の効果を得られる場合に限ります。

◎「言語についての知識・理解・技能」

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は各領域の指導を通して指導するものなので，どの

単元においても取り入れて評価を行います。なお，この事項の中の特定の事項をまとめて指導したり繰り返して指導したりする場合は，「国語への関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」の２観点のみを設定することになります。

２　評価規準の設定例を活用した単元構想について

評価規準を設定する際に大切なことは以下の４点です。

○児童の発達の段階を踏まえること
○単元の指導のねらいを明確にすること
○単元に取り入れる言語活動などに応じること
○単元によっては，複数の領域を組み合わせて指導と評価を行うこと。

実際に単元を構想する際には，以下のようなステップを踏むことになります。

1. その単元で取り上げる指導事項と言語活動を確かめます。
2. 児童の実態を把握した単元の目標を設定します。
3. 単元の評価規準を設定します。
4. 指導過程を構想し，その中での評価規準をより具体的に設定します。

ポイント１　　単元の評価規準の設定

各学校において，評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から示されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下，参考資料）に示されている評価規準の設定例を参考にして，教材等の特徴に即して，その記述を具体化したり，必要に応じて，いくつかの設定例を参考にしたりすることにより，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

参考資料によると，国語科では学習指導要領に示されている言語活動例ごとに，「評価規準の設定例」がまとめて示されています。この設定例を参考にして，例えば１年生の「話すこと・聞くこと」の単元に合わせ，言語活動を取り入れて評価規準を設定すると，次のようになります。

〈評価規準の設定例〉第１学年及び第２学年：「Ａ話すこと・聞くこと」【話す・聞く能力】

言語活動例：エ「知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり，それを聞いたりする言語活動」を通した指導

・聞き手に紹介したい事柄が伝わるよう，姿勢や口形，声の大きさや速さに注意して，はっきりした発音で話している。（指導事項ウ）→話すこと
・相手が紹介したい事柄の大事なことと，自分が聞きたい事柄の大事なこととを落とさないように聞き，質問したり感想を述べたりしている。(指導事項エ)→聞くこと

〈設定した評価規準(例)〉

・「すきなものクイズ」を行う中で，聞き手に分かるようはっきりとした声でクイズを出している。（ウ）
・「すきなものクイズ」を行う中で，話し手のクイズの内容を聞き，すきなものクイズに答えている。（エ）

ポイント２　　評価の方法

☆【国語への関心・意欲・態度】は，いつ，どの場面で評価するの？

この観点は，児童が学習内容に興味・関心をもち，話したり聞いたり，書いたり読んだり，読書をしたりすることに自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

単に，挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく，その授業の指導目標や学習活動を踏まえて，学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

具体的な評価場面

・授業や面談における発言や行動の観察

・作文，ノート，ワークシート，レポートの作成や発言内容

☆【話すこと・聞くこと】は，どうやって評価するの？

音声言語である「話すこと・聞くこと」の評価では，指導の重点を明確にして指導し，記録に残す評価を意図的・計画的に蓄積して観点別評価を進めていくことが大切です。しかし，授業の中では，すべての児童の状況を把握することが難しいことも考えられます。そこで，１つの単元では，右に挙げている指導事項アからオのうち，重点的に指導する事項を１～２項目取り上げて指導し，評価します。

⇒記録の方法としては，録音，録画，観察などがあります。デジタルカメラやレコーダー等を活用しましょう。

具体的な評価場面

［取材ア］

話題選びについて書き出した学習カード等

［話すことイ・ウ］

言葉遣いや姿勢や口形，声の大きさの状況等

［聞くことエ］

質問や感想の内容や質問・感想用カード等

［話し合いオ］

意見を書き出した学習カード，意見の内容，司会者としての発言の内容等

☆【読むこと】の評価は，何を基に評価するの？

この観点は，言語活動を通した指導により，児童一人一人が理解したことや解釈したこと，考えを形成したこと等を適切に評価することが大切です。実際の授業場面では，指導のねらいに即して児童に表現させたもの等で評価をしていきます。これまでに指導したことが不十分だと判断した場合，その部分に応じての適切な指導は必要です。記録に残す評価としては，話したり書いたりした内容から読む能力が身に付いたかどうかを評価することが大切です。

具体的な評価場面

・発言やつぶやきの内容

・紹介メモや紹介カードの内容

・読書カードの記録の内容

※指導のねらいに即して児童が表現したもの（ワークシートやカード等）と発言内容を組み合わせて評価を行う場合もあります。

⇒ワークシート等に人物の気持ちを書かせる場合も，指導のねらいに沿って評価し，「書くこと」の評価はしないことになります。

小学校国語科における学習評価事例　1

■　単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

事例１の教材では，単元の評価規準の設定及び１単位時間毎の評価を示します。これまでは，１単位時間に複数の領域の評価規準を設定していましたが，今回の学習指導要領に則して，１単位時間に１領域の評価規準を設定します。

１　単元名　　お話の世界に入って音読劇をしよう　　第２学年「Ｃ　読むこと」

教材名　　「お手紙」光村図書２年下，東京書籍２年上

２　単元の目標

○　音読劇をすることを通して，場面の様子を登場人物の行動や会話から想像を広げて読み取ることができる。

３　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・音読劇をするという目的をもって進んで読み，意欲的に音読劇に取り組もうとしている。	・登場人物の行動や会話を中心に，場面の様子について想像を広げながら読み，音読劇に生かしている。（ウ）	・助詞「は」，「へ」，「を」を文中の中で正しく使って簡単な手紙を書いている。（イ(ｴ)） ・主語と述語に気を付け，書き方を理解して簡単な手紙を書いている。（イ(ｶ)）

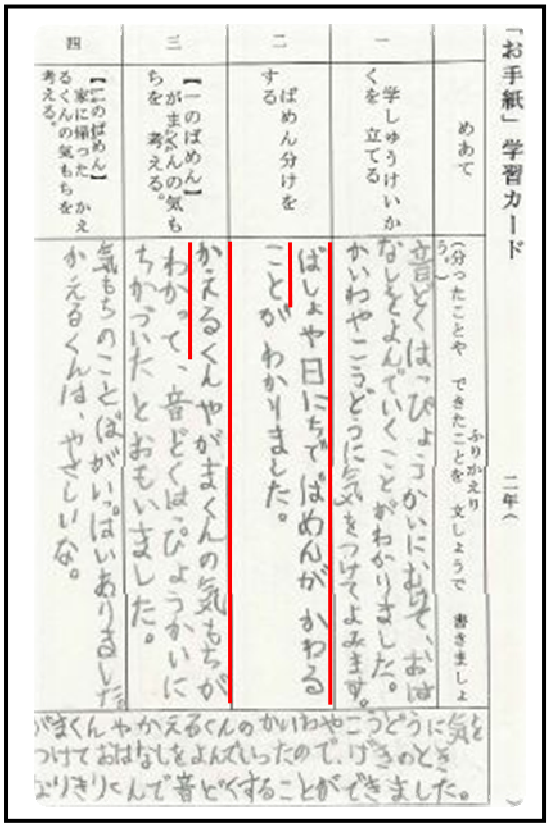
４　指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習過程における評価規準と評価方法
一	1	①手紙をもらった経験などを出し合い，話の大体の流れを把握する。 ②音読劇をすることを知り，学習計画を考え，今後の学習の見通しをもつ。	○手紙についてのイメージを自由に出させる。 ○音読劇をするという目的を示し，それに向かって計画を立てることを把握させる。	[関] 音読劇を成功させるために，単元計画について進んで話し合おうとしている。 〔発言内容，学習計画の記述内容〕 児童の話し合おうとする態度を積極的に評価します。
二	2	③登場人物を確認する。 ④出来事を整理し，場面分けをする。	○登場人物を確認させる。 ○時間や場面の移り変わりに注目させ，場面を分けさせる。	[読ウ] 場面の変化に気付き，場面を分けている。〔ワークシートの記述〕 時間や場面の移り変わりに着目して場面分けできているか，ワークシートの記述の内容を評価しましょう。
	3	⑤手紙をもらえず悲しんでいるがまくんの気持ちを読み取る。 【１の場面】	○役割読みをすることで，それぞれの立場や気持ちを理解させる。	[読ウ] がまくんのさびしい気持ちを読み取っている。

			○読み取ったことを基に想像した気持ちをワークシートに書かせ，それが音読発表会の台本となることを知らせる。	〔ワークシートの記述・発言内容・音読の状況〕 登場人物の行動や会話に着目しながら記述しているかどうかを中心に評価します。
	4	⑥がまくんの思うかえるくんの気持ちを読み取る。【２の場面】	○言動に合わせて動作化を取り入れることで，かえるくんの気持ちを考えさせる。 ○がまくんの動きに接続語や主語のないことが，テンポのよさを表していることに気付かせる。	［読ウ］かえるくんのがまくんを思う気持ちを読み取っている。 〔ワークシートの記述・発言内容・音読の状況〕 ［言ィ(ｶ)］主語のない文章があることに気付き，場面の様子を想像している。 〔発言内容・音読の状況・観察〕
	5	⑦二人の言動を比較し，それぞれの気持ちを読み取る。【３の場面前半】	○繰り返し出てくる文章や挿絵の表情，会話文に着目し，動作化を取り入れて読ませることで，気持ちを考えさせる。	［読ウ］二人の気持ちの違いを読み取っている。 〔ワークシートの記述・発言内容・音読の状況〕
	6	⑧がまくんの気持ちの変化と二人の心の通い合いを読み取る。 【３の場面後半】	○挿絵の表情，会話文に着目し，動作化を取り入れて読ませることで，気持ちを考えさせる。 ○動作化を通して，【１の場面】との違いに気付かせる。	［読ウ］二人の心が通じ合っていく様子を読み取っている。 〔ワークシートの記述・発言内容・音読の状況〕
	7	⑨二人の心の通い合いを読み取る。 【４の場面】	○挿絵を比較し，二人の表情の変化に気付かせる。 登場人物の行動や会話から様子を読み取っているか，ワークシートの記述によって評価します。	［読ウ］幸せな二人の様子を読み取っている。 〔ワークシートの記述・発言内容・音読の状況〕 読み取ったことを音読に生かしているかどうかを中心に評価します。繰り返しの学習の中で高まりが見られた場合には，その状況を積極的に評価しましょう。
三	8	⑩グループに分かれて，音読劇発表会に向けての話し合い及び練習をする。	○教材を通して身に付けた力を確認し，音読劇に生かすことを伝える。 ○台本の見直しをさせるとともに，読み方の工夫・改善をさせる。	［関］音読劇に向けて進んで話し合おうとしている。〔発言内容・観察〕 ［読ウ］読み取ったことを基に音読劇の練習をしている。 〔音読の状況・観察〕
	9 10	⑪クラス全体で「なりきり音読劇発表会」を開く。	○台本に記入していることを生かしながら音読させる。	［関］進んで音読劇に取り組んだり，友達の音読の良いところを探しながら聞こうとしたりしている。

			○自分の音読と比較しながら発表を聞かせる。	〔音読発表・発言内容・観察〕
四	11	⑪「お手紙」を読んで，おもしろかったところや気に入ったところなどを出し合い，交流する。	○お話を読んでおもしろかったところや気に入ったところなどを出し合う。 ○アーノルド＝ローベルの他の作品について紹介する。	**[読ウ]**話のおもしろかったところや気に入ったところなどを紹介している。〔紹介の内容〕 紹介内容に，読み取った内容が生かされているかを評価しましょう。 **[関]** アーノルド＝ローベルの他の作品の紹介を，興味をもって聞こうとしている。 〔発言内容・観察〕
	12	⑫もらったらうれしくなるような「ぽかぽかお手紙」を学級の友達に書く。	○「お手紙」の二人の関係を思い出させ，自分が書きたい友達のことについて考えさせる。 ○友達の名前，伝えたいこと，自分の名前を入れて書かせる。	**[言イ(ｴ)]**，**[言イ(ｶ)]** 主語や述語，「○○さんへ」という助詞を正しく使って手紙を書いている。 〔手紙の記述〕 これまでに培ってきている言語についての知識・理解・技能を生かして手紙を書く活動を取り入れますが，「書く能力」の評価はしません。「ウ言語についての知識・理解・技能」で評価をします。

※児童ａのワークシート


「お手紙」学習カード　二年へ

めあて

一　学しゅうけいかくを立てる

二　ばめん分けをする

三　【一のばめん】がまくんの気もちを考える。

四　【二のばめん】家に帰ったかえるくんの気もちを考える。

（分ったことや できたことを ふりかえり 文しょうで 書きましょう）

音どくは、ぴょうかいにむけて、おはなしをよんでいくことがわかりました。かいわやこうどうに気をつけてよみます。

ばしょや日にちで ばめんが かわることが わかりました。

かえるくんやがまくんの気もちがわかって、音どくは、ぴょうかいにちかづいたとおもいました。

気もちのことぼがい。はいありました。かえるくんは、やさしいな。

がまくんやかえるくんのかいわやこうどうに気をつけておはなしをよんでいったので、げきのときよりきりくんで音どくすることができました。

「読む能力」（ウ）登場人物の行動や会話を中心に，場面の様子について想像を広げながら読み，音読劇に生かしている。

〈２時目〉

「場めんわけをすることができた」と記述していれば，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断します。

児童ａは，

「場所や日にちで場めんがかわること」と記述しているので，場面の変化に気付いて場面分けが適切にできているので，「読むこと」の評価は「十分満足できる」状況（Ａ）と判断しました。

〈３時目〉

「がまくんのさびしい気もちをそうぞうすることができた」と記述していれば，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断します。

児童ａは，

「かえるくんやがまくんの気もち」が分かったと記述しているので，会話や行動から人物の気持ちを想像することができているので，児童ａの「読むこと」の評価は「十分満足できる」状況（Ａ）と判断しました。

小学校国語科における学習評価事例　2

■　領域の関連を図る指導と評価が分かる事例

事例２の教材では，領域を関連付けた単元の指導と評価の方法を示します。「Ｂ　書くこと」と「Ｃ　読むこと」を関連付けることにより，双方の指導の効果を高めます。その単元構想の特徴を踏まえて評価を行う事例です。

１　単元名　　組み立てを考えて物語を書こう　　第３学年「Ｂ　書くこと」「Ｃ　読むこと」
　　教材名　　「三年とうげ」光村図書３年下

２　単元の目標

（１）物語の組み立てをとらえ，登場人物の気持ちの変化や情景を想像し，物語を読んで考えたことを伝え合い，一人一人の考えについて違いのあることに気付くことができる。

（２）経験したことや想像したことなどから物語の材料を決め，書く上での必要な事柄を集め，物語の組み立ての型を使って文章を表現し，「自分の物語」を書くことができる。

３　単元の評価規準

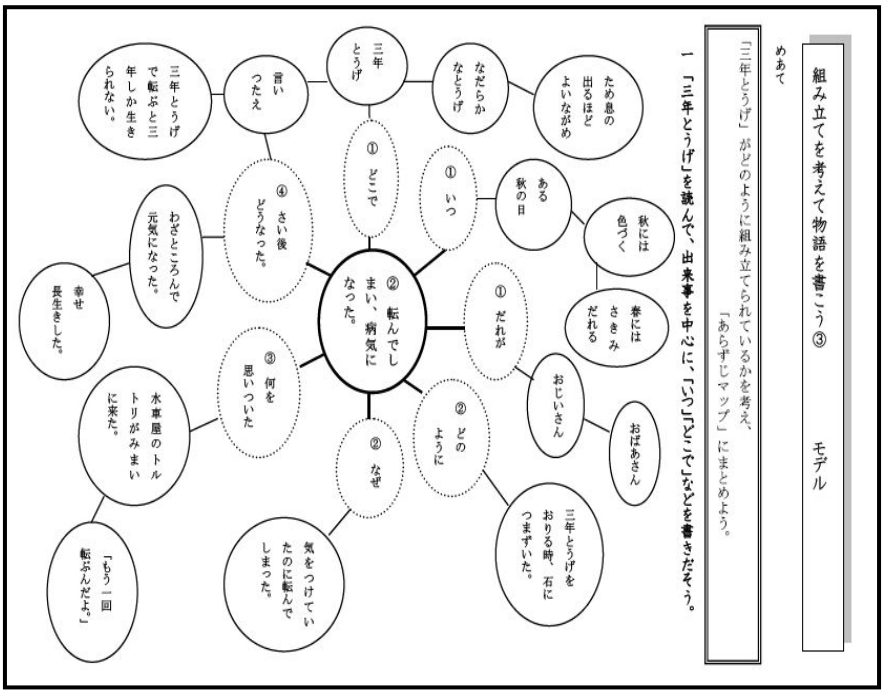
国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語の組み立てに興味をもち，想像を広げたり友だちと交流したりしながら，楽しんで物語を読み，自分の物語を書こうとしている。	・物語の内容に応じて必要な情報をそろえている。（ア） ・場面の移り変わりをとらえて物語の組み立てを考え，書いている。（イ）	・物語がどのように組み立てられているかを考え，整理しながら読み，登場人物の気持ちを想像している。（ウ） ・物語を読んで感想を交流し合い，感じ方の違いに気付いている。（カ）	・文章中で使われている言葉に着目し，表現するための語句を増やしている。（イ（オ））

３　指導と評価の計画（全 12 時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	学習過程における評価規準と評価方法
事前	課外	○　自分に起こった出来事をワークシートに書く。	○例文を示したワークシートを用意し，書かせていくようにする。	
一	1	①　「三年とうげ」の読み聞かせを聞き，感想を話し合う。 学習課題を決める。	○おもしろいと思ったところと理由について話し合わせ，物語の組み立てに興味をもたせる。 ○「組み立てを考えて物語を書こう。」という学習課題へとつなげる。	[関] 自分がおもしろいと思ったところとその理由を伝えようとしている。 〔ワークシートの記述・発言内容〕 ワークシートの記述と発言とを合わせて，「関心・意欲・態度」の評価します。
～　中　略　～				
二	4	④　「はじまり」の部分を読み取り，書き方を知る。 「出来事が起こる」部分を読み取り，書き方を知る。	○「はじまり」の部分は，物語が繰り広げられる場（時・場所・人物など）の紹介が書かれていることを読み取らせ，書き方に気付かせる。	[読ウ]前半の部分に，作者が何をどのように書いているか，ワークシートに整理しながら読み取っている。

			○出来事が起こる部分は，登場人物が困ることが書かれていることを読み取らせ，書き方に気付かせる。	「自分の物語」に取り入れるために，まとまりごとにどのようなことがどのように書いてあるのか，読み取ったことを記述したワークシートの内容によって「読む能力」の評価をします。 ［言イ（オ）］文章で使われている言葉に着目し，表現するための語句を増やしている。 〔ワークシートの記述・発言内容〕
～　中　略　～				
四	8	⑧　あらすじマップ（**資料１**参照）を基に組み立てメモを書く。	○あらすじマップで書き出した事柄を，四つの場面に分け，組み立てメモに，物語の組み立てを考えながら，短い文で書かせる。	［書イ］あらすじマップを基にして，場面の移り変わりを考えて，物語の組み立てメモに書いている。 〔組み立てメモの記述〕 「自分の物語」を書くときに，あらすじマップを基にして書いた組み立てメモ（**資料２**参照）の内容によって「書く能力」の評価をします。
～　後　略　～				

資料１



この「あらすじマップ」は，教材文の読み取りの際に，教師がモデルとして作成したものです。モデルを示し，文章の組み立てを理解させます。

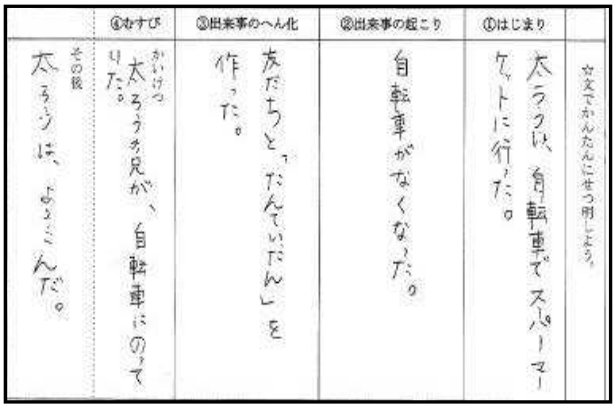
「自分の物語」を書くときには，自分で「あらすじマップ」を作ることになります。自分で作った「あらすじマップ」を参考にして，書く題材を多く書き出すことにつながります。自分で作った「あらすじマップ」を基に書いた「組み立てメモ」の内容によって，「書く能力」の評価をします。

資料２（四次８時目で記入）

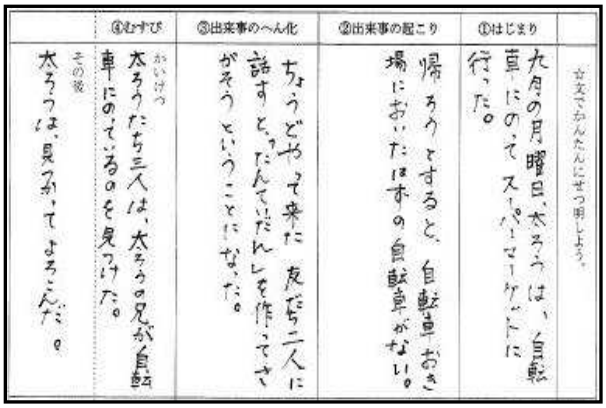
○四次８時目における評価規準

→　「書く能力」（イ）あらすじマップを基にして，場面の移り変わりを考えて，物語の組み立てメモに書いている。

【児童ｂ】



【児童ｃ】



○児童の状況と判断の考え方

【児童ｂ】あらすじマップを基にして，場面の移り変わりを考えて，書きたいことを四つに分けて組み立メモに書いているので，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断しました。

【児童ｃ】あらすじマップに書いた内容から書きたいことや必要なことを取り出して，物語の移り変わりを考えて，全体がつながるように組み立てメモに書いているので，「十分満足できる」状況（Ａ）と判断しました。

小学校国語科における学習評価事例　３

■　１単位時間の中で，指導に生かす評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価の違いが分かる事例

単元名　「新聞の読み方を考えよう」

教材名　「新聞を読もう」光村図書５年

　　「新聞記事を読み比べよう」東京書籍５年上

指導事項Ｃ　読むこと　イ　・読む目的に応じて，見出しやリード文，本文などの記事の構成や種類，紙面の構成などに注意して読んだり，記事を比べて読んだりするなど，効果的な読み方の工夫について考える。

教科書会社での教材名は異なりますが，どちらも日常生活の中で身近な新聞を題材にして，効果的な読み方の工夫について児童に考えさせる教材です。

１　本時の目標

　○　新聞の編集の特徴を理解し，見出し・リード文・本文の役割を理解することができる。

２　本時に位置付けた評価規準

　○　二つの記事を読み比べることで，報道記事の書き方の特徴に気付き，筆者の意図や興味付けの仕方の違いを捉えている。　【読む能力】

3　本時の指導と評価の計画

○学習内容　・学習活動	◇評価方法の具体とその進め方
①新聞を読んで，興味をもったことや，記事がどのような書き方になっているのかを調べる。 ・報道記事の特徴をつかむ。（見出し・リード文・本文・写真・逆三角形の構成） ・新聞をいろいろな角度から読みながらグループで話し合い，それぞれが興味をもった話題や書き方について，記事を示しながら発表する。 ・新聞について理解したことをノートに書く。	**【報道記事の特徴をつかむことについての指導とそれに基づく適切な評価を適切に行い，学習内容②において少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）と判断できるようにします。】** **◇グループ活動の観察◇ノートの記述内容** ※報道記事の特徴への気付きをグループ活動での発言内容やノートの記述内容から評価します。特徴として見付けた内容や数を発表させたり，グループ内での発言内容を全体で紹介させたりするなど，評価したことを指導に生かします。 この時点で「努力を要する」状況（C）にある児童については，以下のような支援を行います。 **支援：新聞記事の特徴に目が向くように，拡大した記事の該当部分を黒板への掲示物等で示す。同じグループの他の児童の発言やノートの内容を参考にするよう助言する。** ここでの評価は，指導に生かす評価であり，記録に残す必要はありません。
②二つの記事を読み比べて，新聞の編集の仕方や書き方から，筆者の意図や興味付けの仕方の違いを捉える。 ・二つの新聞の写真や見出しを比べ，気付いたことをグループで話し合う。 ・グループでの話合いを基に，書かれている内容や受ける印象の違いを考え，学習カードに書く。 ・新聞を読む学習のまとめとして自己評価カードを書き，交流する。 	**◇学習カードの記述内容◇自己評価の記述内容** 「おおむね満足できる」状況（B） ［ア］二つの記事を読み比べて，編集の仕方や書き方についての気付きをグループで出し合い，学習カードに書いている。 ［イ］新聞を読む学習のまとめとして，編集の仕方や書き方についての気付きを自己評価カードに書いている。 例えば，［ア］が「おおむね満足できる」状況（B）で，［イ］が「十分満足できる」状況（A）の場合，まとめの学習としての自己評価カードの記述内容を重視して，「十分満足できる」状況（A）と評価します。 ※複数の評価の方法を組み合わせて評価する場合，どの評価規準を重視するかは，児童の実態や教師のねらいに応じて考えます。 **ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので確実に記録に残します。** **また，ここですべての児童について，最低でも「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるように，それまでに形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っておくことが大切です。** 通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価として，児童全員の評価を確実に記録します。

小学校国語科における学習評価の進め方Q＆A

Q　もともと理解領域でもある「読むこと」や「聞くこと」の評価が特に難しいのですが，どのようにしていけばよいでしょうか。

A　「読むこと」では，言語活動例を基にして児童の思考や判断が働くような表現活動を具体的に単元に取り入れることが大切です。表現物の出来ばえではなく，読み取ったことや知識・技能を活用して表現している部分を捉えて適切に評価することが必要になってきます。また，「聞くこと」では，何を聞くのか，どう聞くのか，どんな言葉で質問するのかなどの聞くことの過程をきちんと指導した上で，評価をします。聞く場面において，指導のねらいに沿った質問や感想を言えるようにする場面を設定することも大切です。これらのことが，聞く能力の実現状況を評価するということにつながります。

Q　１単元ですべての領域の評価規準を設定して評価を行ってきましたが，これまで通りの評価の方法でよいでしょうか。

A　国語科においては，１つの指導事項を年間で複数回繰り返して取り上げて指導することが多いです。これは，国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返されながら能力の定着を図ることを基本としているためです。ですから，これまで通りすべての評価規準を設定し評価するのではなく，１単元において１領域を設定することで，より適切な指導と評価を行っていきます。

　１単位時間では，単元の評価規準の中から，本時の指導のねらいを達成するために目標を設定し，そのねらいが達成できたかどうかの教師自身の評価としても位置付けることにもなります。ねらいを絞ることにより指導の効果が上がることを考えると，評価も絞ることになります。１単位時間には１回から２回の評価を行うことが，評価の信頼性と妥当性を高めます。また，指導のねらいを達成するためには，すべての児童が，「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるようにしたいものです。そのためには，それまでの学習過程において，学習状況について，形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことが大切です。

Q　毎時間の評価の記録はどのようにするのですか？

A　本時に位置付けた評価規準に基づいて，あらかじめ教師用チェックリストなどを作っておくとよいと思います。記録はできるだけ簡便にして（例えば，Ｂは空欄，Ａのみに○，Ｃは気になる点をメモなど），効率的に評価できるようにしておきましょう。

【例】（表１）単元の観点別評価表（※この場合は「読む能力」）

評価の観点		読　む　能　力				特　記　事　項
単元の評価規準		ウ 人物の行動や会話への着目	ウ 好きな部分の抜き出しとその理由	オ 読書紹介の内容	カ 紹介したい作品選び	※「おおむね満足できる」状況（B）評価については，「・」で示す。 ※「十分満足できる」状況（A）評価については，そのときの状態について，特に必要と判断した場合のみ記述する。 ※「努力を要する」状況（C）評価については，具体的な支援について記述する。
No.	児童名					
1	児童１	・	・	・	・	
2	児童２	A	A	・	A	好きな部分の記述と理由を的確に書いている。
3	児童３	C	・	C	C	行動の部分を見付けることができていなかったので，動作化を経験させた後に，人物の気持ちを想像させた。

Q　収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

A　本事例では，観点ごとに１つまたは２つの評価規準を設定しています。単元における観点別の評価を総括する場合は，同一観点内の複数の評価規準を，**①重み付けをせずに均等に扱う場合**と，**②重み付けをして総括する場合**とが考えられます。ここでは，①と②に分けて例を示します。

【例】①重み付けをせずに均等に扱う場合

（表１）単元の観点別評価表（※この場合は「話す・聞く能力」）

評価の観点		国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力				言語についての知識・理解・技能			特　記　事　項
単元の評価規準		A 話す・聞く	総括	ア 話題設定	ア 必要な事柄	エ 聞く	総括	ウ 語句のまとまり	カ 主語と述語の照応	総括	
No.	児童名										
1	児童１	A	A	A	A	B	A	A	A	A	大切なわけを複数挙げている。
2	児童２	A	A	A	B	B	B	B	B	B	宝物を実際に見せたいと意欲的である。
3	児童３	B	B	A	B	C	B	A	B	A	
4	児童４	B	B	B	C	C	C	B	C	B	どんな宝物か，個別に聞き出す。

※個人内評価について，特に伸びが顕著であるものは，随時特記事項等に記録しておきます。このことが，次単元以降の指導や保護者への説明資料，指導要録に記載する基礎的な資料になります。

評価項目が偶数の場合，評価結果のＡやＢが同数になったときの総括の仕方については，児童の実態や教師のねらいに応じて考えます。

（表１）の例の「言語についての知識・理解・技能」においては，

【児童３】（Ａ），（Ｂ）なので（Ａ）と総括しています。

【児童４】（Ｂ），（Ｃ）なので（Ｂ）と総括しています。

【例】②重み付けをして総括する場合

（表２）単元の観点別評価表（※この場合は「話す・聞く能力」）

評価の観点		国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力				言語についての知識・理解・技能			特 記 事 項
本単元の重点		◎	総括	◎	○	○	総括	◎	○	総括	
単元の評価規準		A 話す・聞く		ア 話題設定	ア 必要な事柄	エ 聞く		ウ 語句のまとまり	カ 主語と述語の照応		
No.	児童名										
1	児童１	A	A	A	A	B	A	A	A	A	大切なわけを複数挙げている。
2	児童２	A	A	A	B	B	**A**	B	B	B	宝物を実際に見せたいと意欲的である。
3	児童３	B	B	A	B	C	B	A	B	**A**	
4	児童４	B	B	B	C	C	**B**	B	C	**B**	どんな宝物か，個別に聞き出す。

※単元のねらいを設定するときには，特に重点的に取り上げて指導する指導事項を設定することがあります。そのような場合，ここで示す重み付けをして観点別評価の総括を行うことが考えられます。この表では，「本単元の重点」欄を設け，単元で評価する事項を○，そのうち特に重点的に評価する事項を◎で示しています。

本リーフレットは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　社会科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校社会科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校社会科における学習評価の進め方
4　小学校社会科における学習評価事例
5　小学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　社会科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

→下線部が「民主的，平和的な」から「平和で民主的な」へと改められました。その趣旨は従来通りです。※下線は，教育センターによる。

2　評価の観点及びその趣旨

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べ，社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し，社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察，調査したり，各種の資料を効果的に活用したりして，必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き，特色及び相互の関連を具体的に理解している。

これまでと変わったところは？

○　**「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」が「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」に整理されています。**

3　学年別の評価の観点の趣旨

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
第３学年及び４学年	地域における社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べ，地域社会の一員としての自覚をもつとともに，地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて**思考・判断したことを適切に表現している。**	地域における社会的事象を的確に観察，調査したり，地図や各種の具体的資料を活用したりして，**必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。**	地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動，地域の地理的環境，人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。

第5学年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心をもち，それを意欲的に調べ，国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性，産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに，国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し，社会的事象の意味について**思考・判断したことを適切に表現している。**	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり，地図や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を活用したりして，**必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。**	我が国の国土と産業の様子，国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。
第6学年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心をもち，それを意欲的に調べ，我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに，平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し，社会的事象の意味についてより広い視野から**思考・判断したことを適切に表現している。**	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を的確に調査したり，地図や地球儀，年表などの各種の基礎的資料を活用したりして，**必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。**	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産，日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

※太文字や下線は，発達の段階を踏まえた指導や評価を行う際の留意点。教育センターによる。

小学校社会科における学習評価の進め方

評価規準は，どうやって設定するの？

評価規準の設定にあたっては，各学校において，題材に合う評価規準の設定例を国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）を基に，必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり，いくつかの設定例を参考にして設定したりするなどの工夫が大切です。なお，参考資料では，以下のように学習指導要領の記述形式を踏まえて設定されています。

学習指導要領の記述形式

A　（社会的事象）　について，次のこと（ア，イ，ウ…）を　**B**　（学習の仕方）　して調べ，**C**　（社会的事象の意味，特色，相互の関連など）　を考えるようにする。

※次のこと→（ア　調べる対象）（イ　調べる対象）（ウ　調べる対象）

事例における評価規準設定の基本形

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・A に関心をもち，それを意欲的に調べている。	・A について，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。	・B して，A について必要な情報を集め，読み取っている。	・（ア，イ，ウ）を理解している。
・よりよい社会を考えようとしている。 ※各学年の態度に関する目標を踏まえた具体的な姿。	・○と○とを（比較，関連付け，総合など）して，C を考え適切に表現している。	・調べたことを（地図，図表，レポートなど）にまとめている。	・C を理解している。

例えば，中学年の内容⑶については，学習指導要領では次のように示されています。評価規準の設定例の記述を基にして，評価規準を設定するとあとの表のようになります。

⑶ A　地域の人々の生活にとって必要な飲料水，電気，ガスの確保や廃棄物の処理 について，次のことを B　見学，調査したり資料を活用したり して調べ，C　これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な環境の維持と向上に役立っていること を考えるようにする。

ア　飲料水，電気，ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

イ　これらの対策や事業は計画的，協力的に進められていること

評価規準設定例（小単元で「ごみの処理」を選択した場合）

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち，それを意欲的に調べている。	・ごみの処理にかかわる対策や事業について，学習問題や予想，学習計画を考え表現している。	・ごみ処理の仕組みや施設などを観点に基づいて見学，調査したり，地図や統計などの資料を活用したりして，ごみの処理にかかわる対策や事業について必要な情報を集め，読み取っている。	・廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを理解している。 ・ごみの処理にかかわる対策や事業は計画的，協力的に進められていることを理解している。
・地域社会の一員として，ごみの減量や資源の再利用などの取り組みについて考えようとしている。	・ごみの処理にかかわる対策や事業と自分たちの生活とを関連付けて，人々の健康な生活や良好な生活環境の維持に役立っていることを考え適切に表現している。	・調べたことを白地図や新聞などにまとめている。	・ごみの処理にかかわる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

※下線は，学習指導要領の記述を基にした部分。教育センターによる。

各観点の評価方法は？

☆【社会的事象への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

児童が学習内容に関心をもち，調査や作業，話し合いなどの学習活動に自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかの学習状況を評価するものです。また，学習して身に付けた見方や考え方などを社会生活の中でどのように生かそうとしているのか，社会の形成にどのようにかかわろうとしているのかについても評価していく必要があります。

→　例えば，活動の様子の観察，発言の内容，ワークシートの記述の内容（作業状況や学習後の感想）等で評価することができます。具体的には，「意欲的に調べようとしているのか」，「社会的事象の特色やよさを考えようとしているのか」，「社会的事象に対する思いや願い」などが考えられます。

☆【社会的な思考・判断・表現】は，どうやって評価するの？

社会的事象から学習問題を見いだして追究し，事象の特色や相互の関連，意味などについて思考・判断したことを適切に表現しているかどうかを評価するものです。説明や論述，話し合いなどの言語活動を中心として評価することが求められています。その際，思考・判断した結果としての表現の内容だけでなく，思考・判断の過程についても評価していく必要があります。

→　例えば，発言の内容，ワークシートの記述の内容等で評価することことができます。

☆【観察・資料活用の技能】は，どうやって評価するの？

社会的事象を的確に観察，調査したり，各種の資料を効果的に活用したりして，必要な情報をまとめているかを評価するものです。資料を基にして，グラフや地図に表したり，新聞などにまとめたりしたことをこれまで同様に評価する必要があります。

→　例えば，活動の様子の観察（評価事例１，２参考），ワークシートや作品の記述の内容等で評価することができます。

☆【社会的事象についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

社会的事象の様子や働き，特色及び相互の関連などの習得すべき知識や重要な概念を理解しているかどうかを評価するものです。身に付けさせるべき知識や概念は何かについて，学習指導要領を基にそれぞれの単元や取り上げる事例に応じて，明確にしておく必要があります。

→　例えば，発言の内容，ワークシートの記述の内容，単元末のペーパーテスト等で評価することができます。

小学校社会科における学習評価事例　1

■　単元全体を通した学習評価の進め方が分かる事例

事例１の単元では，８時間の学習計画を立て，バランスよく観点別評価を行うことの例を示しています。１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定するのが適当となっていますので，ここでは１単位時間に１つの評価規準を設定しました。また，１単位時間ごとの評価規準については，単元の評価規準と学習内容を踏まえながら設定しています。

1　単元名　わたしたちのくらしと食料生産　　【第５学年　内容（２）】

2　単元の目標

食料生産に携わる人々の仕事の内容や思いについて考えさせることを通して，食料生産の仕事が自分たちのくらしを支えていることを理解させ，現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりすることができるようにする。

3　単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
①我が国の食料生産について関心をもち，それを意欲的に調べている。 ②我が国のこれからの食料生産の在り方について考えようとしている。	①我が国の食料生産について，学習問題や予想，を考え表現している。 ②調べたことと食料自給率の問題を相互に関連付け，我が国のこれからの食料生産の在り方について考え適切に表現している。	①資料やインターネットを活用して，我が国の食料生産について必要な情報を集め，読み取っている。 ②調べたことを整理して白地図などにまとめている。	①食料生産に携わっている人々の努力や工夫，食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。 ②我が国の農業や水産業は，国民の食料を確保する重要な働きを果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解している。

4　単元の指導と評価の計画（８時間）

○指導のねらい　・学習活動	評価規準	評価の方法の具体とその進め方
第１時 ○　我が国の食料生産について関心や疑問をもつ。 ・献立表や広告から気付いたことを発表する。 ・米づくりや水産業の様子について学習したことを想起する。	献立表や広告，既習内容を基にしながら，日本の食料生産のさかんなところやその特徴について関心をもち，意欲的に調べようとしている。 **【関心・意欲・態度①】**	**行動観察，発言，ワークシートの記述** 献立表や広告などを見ての気付きや我が国の食料生産への関心，調べることへの意欲を活動の様子の観察と発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第２時 ○　くだものづくりのさかんな地域について調べ，特徴をまとめる。 ・リンゴとみかんの生産の多い都道府県を白地図上にまとめる。 ・みかんの生産量の変化の資料から，外国との関係に気付く。	リンゴとみかんの生産の多い都道府県を白地図上にまとめ，その特徴を南北などの位置や気温の違いから読み取っている。 **【技能②】**	**行動観察，発言，ワークシートの記述** くだものづくりのさかんな地域について調べたことを白地図に整理したり，資料から必要な情報を読み取ったりして特徴をまとめているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。

第３時 ○　野菜づくりのさかんな地域について調べ，特徴をまとめる。 ・野菜の生産の多い都道府県を白地図にまとめる。 ・野菜づくりがさかんな理由を「地形」「気候」「位置」の視点から考える。	野菜の生産の多い都道府県の特徴や野菜づくりに携わる人々の工夫や努力を「地形」「気候」「位置」の３つの視点から総合して考え，適切に表現している。 **【思考・判断・表現①】**	**発言，ワークシートの記述** 野菜づくりのさかんな地域について調べたことを基にして，生産者の願いや意図と３つの視点を関連づけて考えているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第４時 ○　畜産業のさかんな地域について調べ，特徴をまとめる。 ・牛や豚，にわとりの生産の多い都道府県を白地図にまとめる。 ・新聞記事を基に，食の安全性の問題に気付く。	牛や豚，にわとりの生産の多い都道府県を白地図上にまとめ，その特徴を南北などの位置や土地の様子の違いから読み取っている。 **【技能②】**	**行動観察，発言，ワークシートの記述** 畜産業のさかんな地域について調べたことを白地図に整理したり，資料から必要な情報を読み取ったりして特徴をまとめているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第５時 ○　主な食料の輸入先や主な国の食料自給率のグラフから問題に気付く。 ・教師が提示した資料を見たり，ゲストティチャーの話を聞いたりする。	食料生産に携わっている人々の工夫や努力，食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。 **【知識・理解①，②】**	**発言，ワークシートの記述** 我が国の食料生産の特徴や自給率の問題について理解することができたか発言内容やワークシートの記述内容から評価する。
第６時・７時 ○　食料自給率についての資料を基に，自分なりの考えをまとめる。 ・図書やインターネットなどを使って調査活動をする。 ・「日本は食料自給率をあげるべきか，維持するべきか」自分の考えをもつ。	図書やインターネットを活用して，我が国の食料自給率について必要な情報を集め，読み取っている。 **【技能①】** 資料を基にして，我が国のこれからの食料生産の在り方について，自分なりの考えをもとうとしている **【関心・意欲・態度②】**	**行動観察，ワークシートの記述** 図書やインターネットから我が国の食料自給率の問題についての資料を集めているか活動の様子のの観察とワークシートの記述内容から評価する。 **ワークシートの記述** 日本は食料自給率をあげるべきか，維持するべきかについて自分の考えをもとうとしているかをワークシートの記述内容から評価する。
第８時 ○　これからの食料自給の在り方について話合う。 ・同じ考えをもつ友達と意見交換をする。 ・学級全体で話し合い，自分の考えをまとめる。	調べたことと食料自給率の問題を相互に関連付け，我が国のこれからの食料生産の在り方について考え，適切に表現している。 **【思考・判断・表現②】**	**発言，ワークシートの記述** 話し合ったことを基に，それぞれの良い点と問題点を踏まえた上で，自分の考えを適切に表現しているかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。

小学校社会科における学習評価事例　2

■　１単位時間の中で，指導に生かす評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価の違いが分かる事例

単元名　　新しい国づくりはどう進められたの　【第６学年　内容（１）キ】

１　本時の目標

○　明治時代になって欧米の文化が広く取り入れられ，人々の生活が大きく変化したことについてまとめることができるようにする。

２　本時に位置付けた評価規準

○　資料を基にして，人々の生活の変化を整理し，その特徴をまとめている。【観察・資料活用の技能】

３　本時の指導と評価の計画

主な学習活動	評価方法の具体とその進め方
1　江戸時代の生活の様子と明治時代の生活の比較し，違いに気付く。	**【資料から必要な情報を読み取ることについての評価とそれに基づく適切な評価を行い，学習活動３において少なくとも「おおむね満足できる」状況」(Ｂ)と判断できるようにする。】** **発言，ワークシートの記述** 江戸時代の生活の様子を表した絵と明治時代の生活の様子を表した絵を比較させ，どんなところが違うのか（変わっているのか）について読み取ることができたかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。違いとして見つけたところに印をつけたり，「江戸時代は・・だけど，明治時代は・・」など分かりやすく説明したりしているものを紹介するなどして，評価したことを指導に生かす。 ★「○○は明治時代になって何になっているか」と具体的に問い掛け，支援する。 **ここでの評価は，指導のための評価であり，記録に残す必要はない。**
2　教科書や資料集を基にして，明治時代になっての人々の生活の変化についてまとめ，発表する。	**【資料を効果的に活用してまとめることについての評価とそれに基づく適切な評価を行い，学習活動３において少なくとも「おおむね満足できる」状況」(Ｂ)と判断できるようにする。】** **行動観察，ワークシートの記述** 教科書や資料集から調べたことを基に，欧米の文化が広く生活の中に取り入れられたことを自分なりに整理してまとめているのかを活動の様子の観察やワークシートの記述の内容から評価する。「衣」「食」「住」「教育」など観点ごとに整理したり，年表を使いながら整理したりしながら分かりやすくまとめているものを紹介するなどして，評価したことを指導に生かす。 ★似ているものや同じ仲間になりそうなものはないか問い掛け，支援する。 **ここでの評価は，指導のための評価であり，記録に残す必要はない。**
3　文明開化について，調べたことを基にしてまとめる。	**ワークシートの記述** 調べたことを基にして，観点や具体例を挙げながら欧米の文化が広く生活の中に取り入れられたことに触れているかをワークシートの記述の内容から評価する。 ○「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と判断するめやすを以下の２つの条件を満たしていることとした。 ・観点や具体例を挙げながら生活の中で変化したことを整理していること。 ・欧米の文化が生活の中に取り入れられたことに触れて，文明開化についてまとめていること。 **ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので，確実に記録に残す。**

※　表の中の★は，努力を要する児童に対する具体的な手立てを示している。

小学校社会科における学習評価事例　3

■　「社会的な思考・判断・表現」の評価の進め方が分かる事例

中学年において，「昔の道具」の単元において，道具の変化について調べたことを基に，人々のくらしの移り変わりと道具の変化がもたらした影響について考え，表現する学習を展開する場合の評価方法について示します。

単元名　　昔の道具【中学年　　内容（５）ア】

本単元は，10時間単元です。主な単元の流れは以下の通りです。

第１次（１～４時）…洗濯の道具の移り変わりについて体験活動したり，まとめたりする。
第２次（５～８時）…グループごとにテーマを決め，昔と今の道具について調べたり発表したりする。
第３次（９～10時）…これまでの学習を振り返り，人々の生活の移り変わりと道具の変化がもたらした影響について考える。

本時である10時目は，９時目にまとめた昔と今の道具の共通点と相違点を基に，道具の変化が人々の生活にどのような影響を与えたかについて考えることができるようにする展開案です。

１　本時の目標

○　道具の変化が人々の生活にどのような影響を与えたかについて考えることができる。

２　本時に位置付ける評価規準

○　道具の変化と人々の生活の変化を関連付け，道具の変化が生活に与えた影響について考え適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

３　本時の指導と評価のポイント

主な学習活動	評価方法の具体とポイント（○）
１　前時の学習を想起する。 ２　昔と今の道具の良い点と困る点について整理する。 ３　昔と今の道具どちらが優れているか話し合う。 ４　道具の変化が人々の生活に与えた影響について考え，ワークシートにまとめる。	**発言，ワークシートの記述** 学習活動２，３の中で見出された「時間」「環境」「お金」「便利」「労力」「安全」などの観点を基にして，道具の変化が人々の生活に与えた影響について気付いているか，昔と今を比較しながら適切に表現しているかどうかを発言内容やワークシートの記述内容から評価する。 ○話合いの中での発言内容だけですべての児童を評価することは難しいため，発言内容とワークシートの記述内容とを組み合わせて評価することが大切である。その際，発言内容では「おおむね満足できる状況」(Ｂ)と評価していたが，ワークシートの記述内容を評価することで「十分満足できる状況」(Ａ)と最終的に評価することもある。 ○学習活動４においては，「道具の変化によって人々のくらしに

	どのようなよいことや困ることが起こったでしょうか」等，ねらいに即した的確な発問をすることが大切である ○「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と判断するめやすを以下の内容が両方とも表現されていることとした。 ・昔の道具と今の道具について１つの観点を基に，比較しながら考えている。 ・道具の変化が人々のくらしに与えた影響を考えている **（児童のワークシート記述例ｂ児）** なお，「複数の観点を挙げながら比較して考えている表現」や「人々のくらしに与えた影響を具体的に考えている表現」が見られる場合には，「十分満足できる」状況(Ａ)と判断した。 **（児童のワークシート記述例ａ児）**

（児童のワークシート記述例）

ｂ児

例えば，照明の道具では，昔は火を使っていたので，火事の心配があった。でも，今では，安心してくらせるようになった。

ｂ児は，昔と今の道具について，「安全」の観点を挙げながら比較し，今の人々の生活に与えたよさをまとめて記述することができているので，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した。

ａ児

例えば，お米をたく道具では，昔は時間がかかりその場から離れられなかったけど，今ではスイッチを押すだけで決めた時刻にできるので，その間は別のことができるようになった。

ａ児は，昔と今の道具について，「時間」や「便利」の観点を挙げながら比較し，今の人々の生活に与えたよさをまとめて記述することができているので，「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した。

小学校社会科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ１　「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点は，発言や挙手の回数，忘れ物の回数などで評価してもよいでしょうか？

Ａ１　それらは学習態度であり，学習指導においては大切なことではありますが，それに偏った評価をすべきではないと考えます。「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点では，学習の対象となる社会的事象に対しての関心や意欲，態度を評価します。したがって，教師は単元を構成する際に，本単元で学習の対象となる社会的事象は何なのかということを明確にしておく必要があります。評価方法としては，児童の活動の様子や発言の内容で評価することが考えられます。しかし，それだけ

では全ての児童を評価することが難しいことも考えられますので，単元の中で意図的に感想や疑問などを記述させる場面を設定し，その記述内容を参考にすることも有効です。これらの方法を組み合わせながら，単元全体を通して長いスパンで多面的に評価することが大切です。

Ｑ２　「観察・資料活用の技能・表現」の観点が「観察・資料活用の技能」と変更されましたが，これからどのように評価したらよいでしょうか？

Ａ２　中央教育審議会の児童生徒の学習評価の在り方について(報告)では，教科によって違いがあることを前置きした上で，基本的には現在の「技能・表現」で評価している内容は，今後も「技能」で評価することが適当であることが示されています。つまり，「観察・資料活用の技能」になりましたが，評価の方法や内容については，これまで通りと考えることができます。

この観点では，観察や調査を行う際に学習問題に即して観点や質問事項を決めて，詳しく見たり聞いたりする技能，また，資料を基に情報を集めたり，読み取ったり，それをまとめたりする技能を評価します。「小学校学習指導要領解説社会編（ｐ20，ｐ50，ｐ72～73参照」には，「社会的事象を観察・調査すること」と「資料を効果的に活用すること」について，児童の発達の段階を踏まえた育てたい技能について具体的に示してあります。そこで，それらを基に見学や調査，新聞などの作品づくりを通して，どのような技能を評価するのかを明確にした上で，「どのような資料を集め」「何を読み取り」「どのように整理してまとめているか」などを評価していくことが大切です。

Ｑ３　「社会的な思考力・判断力・表現力」は，どのように評価したらよいでしょうか？

Ａ３　児童が学習の対象となる社会的事象に対して，思考・判断したことを「話す」「書く」といった言語活動を通して表現される内容について評価をします。具体的には，「何を根拠としているのか」，「どのように表現しているか」などが考えられます。どの程度の表現内容を「おおむね満足できる」状況(Ａ)と判断するのか，「十分満足できる」状況(Ｂ)と判断するのかを，「かかわる立場」や「社会的な価値」の内容，論理性などを基にして決めておき，評価することが大切です。そのためには，教師が事前に期待する児童の発言やワークシートの記述内容を想定して，「おおむね満足できる」状況と十分満足できる」状況(Ｂ)を具体的に考えておくことが必要です。

評価の実際については，事例３を参照してください。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　算数科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校算数科における教科目標，評価の観点のその趣旨について
3　小学校算数科における学習評価の進め方
4　小学校算数科における学習評価事例
5　小学校算数科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・<u>表現</u>」**
「技能・<u>表現</u>」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　算数科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

算数的活動を通して，数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え，表現する能力を育てるとともに，算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

→　これまでと同様に,「算数的活動を通して」という文言を目標の冒頭に位置付けてあり，算数的活動を重視する考えは変わっていません。また,「筋道を立てて考え，表現する能力を育てる」というように,「表現する（能力)」の文言が付加されており，考える能力と表現する能力とが互いに補完しあう考えにあることを明確にしています。

2　評価の観点及びその趣旨

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
数理的な事象に関心をもつとともに，算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ，見通しをもち筋道立てて考え表現したり，そのことから考えを深めたりするなど，数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち，それらの意味や性質などについて理解している。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　「数学的な考え方」の観点は，これまでと同じ文言です。しかし，その趣旨では,「日常の事象を数理的にとらえること」や「見通しをもち筋道を立てて考え表現すること」などが数学的な考え方の基礎となることを示してあります。さらに，考えを表現したことから，その考えを広げたり深めたりすることが重要であることを強調してあります。そのため，この観点では，基礎的・基本的な知識及び技能を活用して，考えたことを，数，式，図，言葉などに表し，説明したり伝え合ったりするといった学習活動を通して評価することを大切にする必要があります。

○　これまでの「数量や図形についての表現・処理」の観点は,「数量や図形についての技能」と文言が改められました。これまで使っていた「表現」は，数，式，図，表，グラフに表すといった数学的な表現という捉えで「技能」の中に含めてこの観点で評価することになります。また，考えたことを表現することについては，前述の通り「数学的な考え方」の観点で評価することになります。

3　学年別の評価の観点の趣旨

	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての 知識・理解
第1学年	数量や図形に親しみをもち，それらについて様々な経験をもとうとする。	数量や図形についての基礎的･基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，数理的な処理に親しみ，**考え表現したり工夫したりしている。**	整数の計算をしたり，身の回りにある量の大きさを比較したり，図形を構成したり，数量の関係などを**表したり読み取ったりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し，量，図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
第2学年	数量や図形に親しみをもち，それらについて様々な経験をもとうとするとともに，知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的･基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，数理的な処理に親しみ，**考え表現したり工夫したりしている。**	整数の計算をしたり，長さや体積などを測定したり，図形を構成したり，数量の関係などを**表したり読み取ったりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方，整数の計算の意味，長さや体積などの単位と測定の意味，図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

第３学年	数理的な事象に関心をもつとともに，知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて**考え表現したり，そのことから考えを深めたりする**など，数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をしたり，長さや重さなどを測定したり，図形を構成要素に着目して構成したり，数量の関係などを**表したり読み取ったりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数，小数及び分数の意味と表し方，計算の意味，長さや重さなどの単位と測定の意味，図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第４学年	数理的な事象に関心をもつとともに，知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて**考え表現したり，そのことから考えを深めたりする**など，数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数，小数及び分数の計算をしたり，図形の面積を求めたり，図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり，数量の関係などを**表したり調べたりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数，小数及び分数の意味と表し方，計算の意味，面積などの単位と測定の意味，図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第５学年	数理的な事象に関心をもつとともに，数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることのよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，日常の事象について論理的に**考え表現したり，そのことを基に発展的，統合的に考えたりする**など，数学的な考え方の基礎を身に付けている。	小数や分数の計算をしたり，図形の面積や体積を求めたり，図形の性質を調べたり，数量の関係などを**表したり調べたりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数の性質，分数の意味，小数や分数の計算の意味，面積の公式，体積の単位と測定の意味，図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
第６学年	数理的な事象に関心をもつとともに，数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることのよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，日常の事象について論理的に**考え表現したり，そのことを基に発展的，統合的に考えたりする**など，数学的な考え方の基礎を身に付けている。	分数の計算をしたり，図形の面積や体積を求めたり，図形を構成したり，数量の関係などを**表したり調べたりするなどの技能**を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，分数の計算の意味，速さの意味，図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

※　太文字と下線は評価の観点の変更と関連する部分を示している。佐賀県教育センターによる。

評価規準は，どうやって設定するの？

評価規準の設定にあたっては，各学校において，単元に合う評価規準の設定例を国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）を基に，必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり，いくつかの設定例を参考にして設定したりするなどの工夫が大切です。

＜単元の評価規準の設定例＞（第４学年：「Ｂ量と測定」【数学的な考え方】）
正方形や長方形の面積の求め方を考えている。

学習活動における評価規準は，単元の評価規準をそのまま使うことができる場合もあります。しかし，評価規準を設定する際は，評価の観点の趣旨を踏まえ，単元の指導のねらい，学習活動等に応じて適切な評価規準をより具体化して設定することも大切です。

ここでは，第４学年の「面積」の学習で，面積の公式化をする場面において，「正方形や長方形の面積の求め方を考えている。」という評価規準の設定例をより具体化して評価規準を設定する例を示します。

この時間の学習では，単位となる正方形（１ｃ㎡）の総数を求めるのに，乗法を使えば便利であるということから，面積の公式を考えていることが必要です。そのためには，これまでに習得した知識や技能を活用して，正方形や長方形の面積の求め方を考え，公式化をすることや言葉や数，式，図などを用いて考え，説明するといった学習活動を行い，児童の学習活動における状況の把握と適切な指導を大切にする必要があります。

＜評価規準の設定例をより具体化した設定（例）＞（第４学年：「面積」第４時　【数学的な考え方】）
単位となる正方形（１ｃ㎡）の総数を求めるのに，乗法を使えば便利であるということから，正方形や長方形の面積の公式を考えている。

このように，指導のねらいと照らし合わせて，児童の学習の状況を見取り，各時間の中で適切な指導をすることに生かせるような評価規準の設定をすることに気を付ける必要があります。

児童に身に付けさせたいことをより具体的にすることは，
指導に生かす評価をする上でも大切なことです。

各観点の評価方法は？

☆【算数への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

児童が，日常生活において出会う事象を算数の問題としてとらえたり，自ら進んで問題解決に取り組んだりする意欲や態度を身に付けているかどうかの学習状況を評価するものです。新しい課題に出会ったときに既習の内容を用いて解決しようとする態度や身に付けたことを生活や学習に活用しようとする態度についても評価することが必要です。

→　「算数への関心・意欲・態度」の評価は，特に学習活動における状況の把握が大切です。そのためには，例えば，チェックシートや座席表などを用意し，評価資料としてノート・ワークシートの記述，発言の内容等といった児童の反応を書き込めるようにしておくことなどが考えられます。また，評価の際は，単元前半から単元後半の高まりや伸びを積極的に評価することが必要です。そのために，本観点の評価を単元の始めの方と終わりの方に位置付けて評価することなども考えられます。さらに，授業後の学習感想や小レポート（日記）などで学んだことを活用しているかどうかについて見取ることなども有効な手立てです。

☆【数学的な考え方】は，どうやって評価するの？

算数では，「思考・判断・表現」に該当する観点を「数学的な考え方」と示しています。この観点においては，問題解決において考えたことを，表現したり説明したりしたことについて評価します。そのためには，解決するための方法や結果の見通しをもたせたり，根拠を明らかにしながら筋道を立てて考えさせたりします。そして，言葉，数，式，図，表，グラフを用いて考えたり，説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりしているかどうかを評価します。さらに，自らの考えを振り返る中で，考えのよさや誤りに気付いたり，よりよい考えを作ったりしていることについても大切に評価していく必要があります。

→　評価の際は，問題解決の結果だけではなく，その過程を含め評価することが特に重要です。例えば，学習活動の観察やノートの記述の分析をすることが考えられます。これまでに習得した知識や技能を正しく活用して考えようとしているか，どのように考えて導いたかという着想が言葉や式で記述してあるか，といったことについて，発言の内容やノート・ワークシートの記述で見取ることができます。「算数への関心・意欲・態度」の観点と同じように，それぞれの評価の機会を関連させて評価することも重要です。

☆【数量や図形についての技能】は，どうやって評価するの？

「整数，小数，分数などの計算をすること」や「式や表やグラフに表すこと」など，従前の「数量や図形についての表現・処理」の観点で評価している内容について引き続き「数量や図形についての技能」の観点で評価します。

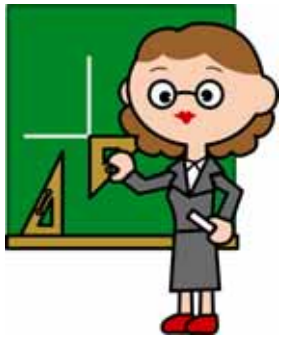
数や式やグラフなどの数学的な表現を適切に読み取ったり用いたりする技能が身に付いているかどうかについて評価するものです。

→　「数量や図形についての技能」の評価は，単元末のペーパーテストや，適応・習熟問題等だけで見取るのではなく，学習活動における状況の把握が必要です。そこで，指導のねらいに照らし合わせて，児童の学習状況を見取り，各時間の中で適切に評価することが望ましいと考えられます。具体的には，式やグラフなどが正しく表されているかをノートやワークシートの記述から見取ること，算数の用具が正しく使えるかといったことなどについて行動の観察から見取ることなどが考えられます。これらとペーパーテストや適応・習熟問題の結果も交えながら，評価の妥当性を確保することが大切です。

☆【数量や図形についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

計算の意味や仕方，図形の定義や性質など算数において習得すべき知識や重要な概念などを児童が理解しているかどうかを評価します。知識については，いつでも活用できるようになっているかどうかについて見ることが大切です。そのため，算数の用語が正しく使えるかといったことや，計算をする際にその仕方や意味を的確に説明できるかといったことについても評価する必要があります。

→　評価の際には，「数量や図形についての技能」の観点と同様に，単元末のペーパーテストや適応・習熟問題等だけで見取るのではなく，ノートやワークシートの記述も交えながら評価するなど，学習活動に即して評価場面を設定することなどが大切です。例えば，たし算の筆算の場面で，「４けた＋４けたの筆算は，３けた＋３けたの筆算と同じように，位をそろえて，一の位から順にたしていけばよい。」といった児童の記述から，たし算の筆算の手順（アルゴリズム）を理解していることについて見取るといったことなどが考えられます。ペーパーテストや適応・習熟問題の結果等も組み合わせて，評価の妥当性を確保することは言うまでもありません。



小学校算数科における学習評価事例　１

■　単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

事例１では，「折れ線グラフ」の５時間の単元において，全員の状況を見取り記録に残す評価「◎」と補完のために必要に応じて記録する評価「○」を設定した事例を示しています。各時間に１～２つの評価規準を設定しています。

１　単元名　　折れ線グラフ　　第４学年「Ｄ　数量関係」領域

２　単元の目標

・身の回りの事象について，目的に応じて資料を，折れ線グラフを用いて表したり，その特徴や傾向を読み取ったりして，統計的な見方をすることができる。

３　単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
①　変化の様子を表すのに折れ線グラフが適していることをとらえ，その特徴を調べようとしている。 ②　棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを読み取ろうとする。	①　変化の様子について，線の傾きに表されることに着目して考え，その特徴を読み取っている。 ②　重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。 ③　棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから，資料の特徴や傾向を読み取り，説明している。	①　折れ線グラフを読むことができる。 ②　折れ線グラフから，未測値（中間値）を推測することができる。	①　シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフのかき方を理解している。 ②　目盛りに波線を用いた折れ線グラフの意味を理解している。

（評価結果を記録に残す評価の単元への位置付け）

	評　価　規　準			
時間	**算数への関心・意欲・態度**	**数学的な考え方**	**数量や図形についての技能**	**数量や図形についての知識・理解**
1	○		◎	
2		◎		
3		○		◎
4			◎	○
5	◎	○		

※　全員の状況を見取り記録に残す評価には「◎」，補完のために必要に応じて記録する評価には「○」を付けて，観点別にどのような評価の機会としたかが分かるようにした。

４　単元の指導と評価の計画（全５時間）

◇ねらい　・学習活動	評価規準	評価方法の具体とその進め方
第１時 ◇折れ線グラフを読むことができる。 ・東京とオーストラリアの四季の気温の変化を取り上げ，東京の気温の変わり方を分かりやすく表すには，どんなグラフにしたらよいか考える。 ・「折れ線グラフ」について知り，東京の気温の折れ線グラフを読み，気付いたことを話し合う。	○変化の様子を表すのに折れ線グラフが適していることをとらえ，その特徴を調べようとしている。 **【算数への関心・意欲・態度】①** ◎折れ線グラフを読むことができる。 **【数量や図形についての技能】①**	**ノート記述の分析，調べている様子の観察** 東京の１年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフから，進んで変化の様子を調べようとしていることを観察して**【関心・意欲・態度】**を評価する。また，東京の１年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフから，ある月に対応する気温やある気温に対応する月等を読み取らせ，話し合いの様子の観察やノートによる折れ線グラフを読んでの気付きの記述から**【数量や図形についての技能】**を評価する。
第２時 ◇折れ線の傾きと事象の変化の度合いの関係を考える。 ・折れ線グラフを見て，気温の変化の度合いを調べる。 ・折れ線の傾きと変化の度合いの関係をまとめる。	◎変化の様子について，線の傾きに表されることに着目して考え，その特徴を読み取っている。 **【数学的な考え方】①**	**ノート記述の分析** 東京の１年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフを基に，線の傾きに着目して気温の上がり方が一番大きい月は何月から何月の間か等を考えさせ，ノートの記述から**【数学的な考え方】**を評価する。
第３時 ◇折れ線グラフのかき方が分かり，グラフの特徴や傾向を読み取る。 ・１年間の気温の変化を折れ線グラフに表す。 ・東京とシドニーの気温のグラフを重ねて，気付いたことを話し合う。	◎シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフのかき方を理解している。**【数量や図形についての知識・理解】①** ○重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。**【数学的な考え方】②** **《指導と評価の詳細については，８ページの事例２を参照》**	**ワークシートの個人解決，発表の様子の観察・ワークシートによる振り返りの記述** シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフや東京の１年間の気温の変わり方の折れ線グラフをワークシート等にかかせ**【数量や図形についての知識・理解】**を評価する。また，東京とシドニーの気温のグラフを重ねて，気付いたことを話し合わせ，発表の様子やワークシートの振り返りの記述などから**【数学的な考え方】**を評価する。
第４時 ◇波線の意味や，折れ線グラフの表し方や読み方の工夫について理解し，未測値(中間値)を推測することができる。 ・目盛りにかき入れた波線の意味を知る。 ・グラフの中間値を推測する。	○目盛りに波線を用いた折れ線グラフの意味を理解している。 **【数量や図形についての知識・理解】②** ◎折れ線グラフから，未測値（中間値）を推測することができる。**【数量や図形についての技能】②**	**ワークシートによる個人解決，ノート記述の分析** １日の気温の変わり方の表を基にして折れ線グラフをかかせたあと，波線の印を使った折れ線グラフにかき直させ，**【数量や図形についての知識・理解】**を評価する。また，その折れ線グラフから未測値(中間値)を推測させ，ノートの記述から**【数量や図形についての技能】**を評価する。

第５時 ◇棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを読み取ろうとし，グラフの特徴や傾向を考える。 ・左右の縦軸がそれぞれ何を表しているのかをおさえ，グラフの読み取りをする。 ・グラフを見て，気付いたことを話し合う。	◎棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフを読み取ろうとする。 **【算数への関心･意欲･態度】②** ○棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから，資料の特徴や傾向を読み取り，説明している。 **【数学的な考え方】③**	**ノート記述の分析，話し合いの様子の観察** 棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから資料の特徴や傾向を話し合わせ，話し合いの様子の観察，ノートによる振り返りの記述の分析から**【関心･意欲･態度】**を評価する。また，棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから資料の特徴や傾向から考えたことをノートに記述させ**【数学的な考え方】**を評価する。

第１時では，折れ線グラフについて知り，第５時では既習の棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフから読み取らせる。また，第５時では前時までの学習を活用してグラフを読み取ろうとしているか否かを見るために「算数への関心・意欲・態度」の観点について，第１時を「○」，第５時を「◎」の評価の機会とした。

第２時は，線の傾きに着目するような基本的な折れ線グラフの読み取り，第３時は，重ねてかいた折れ線グラフからの特徴や傾向の読み取り，第５時は，棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフからの読み取りで，「数学的な考え方」の観点について，もっとも基本的な折れ線グラフの読み取りである第２時を「◎」，第３時と第５時を「○」の評価の機会とした。

第１時と第４時は折れ線グラフを読んだり，未測値（中間値）を推測したりするという統計的な見方の基礎となるので，「数量や技能についての技能」の観点から，どちらも「◎」の評価の機会とした。

第３時は折れ線グラフの基礎的なかき方を理解させ，第４時は第３時を基にして，波線の印を使った折れ線グラフのかき方を理解させるので，「数量や図形についての知識・理解」の観点について，第３時を「◎」の評価の機会とし，第４時を「○」の評価の機会とした。

これら毎時間に行うことができる評価方法としては，主に授業中に行うことのできる方法として，折れ線グラフをかいているワークシートの解決状況，児童の話し合いや発表の様子の観察などを用いることとした。また，授業後に行うことのできる方法として，ノートへの記述の分析を用いることとした。

小学校算数科における学習評価事例　２

■　１単位時間の中で，全員の状況を見取り記録に残す評価「◎」と補完のために必要に応じて記録する評価「○」を設定した事例

単元名　　折れ線グラフ　　第４学年「Ｄ　数量関係」領域

本単元は，扱い時数５時間の計画です。３時目は，折れ線グラフのかき方が分かり，グラフの特徴や傾向を読み取らせる展開案です。

１　本時の目標

・折れ線グラフのかき方が分かり，グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。

2　本時に位置付けた評価規準

◎　シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフのかき方を理解している。

【数量や図形についての知識･理解】

○　重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。

【数学的な考え方】

3　本時の指導と評価の計画

（第２時と本時との関連について）

第２時では，評価規準を**【数学的な考え方】**として「変化の様子について，線の傾きに表されることに着目して考え，その特徴を読み取っている。」と設定し，「おおむね満足できる」状況（B）を，折れ線グラフでは線の傾きが急であるほど，変わり方が大きいことを表していることを読み取っている状態としていた。しかし，児童ａは線の傾きが急になっていることと変わり方を結びつけることができなかったので「努力を要する」状況（C）と評価した。そこで，本時では，重ねてかいた折れ線グラフからどのようなことを読み取ることができるかという課題を与え，児童ａのように２時目で「努力を要する」状況（C）の児童を中心に指導し，評価することとした。また，本時では補完のために必要に応じて記録する評価として，評価基準を**【数学的な考え方】**として「重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。」と設定することとした。

◇学習内容　・学習活動	※指導上の留意点　　□評価方法の具体とその進め方
◇折れ線グラフのかき方を知る。 ・横の軸や縦の軸に目盛りや単位をかく。 ・点を打ち，点を直線でつなぐ。 ・表題をかく。	※一斉指導で折れ線グラフのかき方を指導し，シドニーの１年間の気温の変わり方の表を基にして，ワークシートに折れ線グラフをかくことを知らせる。その際，単位や目盛り，点の打ち方に気を付けることを指導する。
◇シドニーの１年間の気温の変わり方を，折れ線グラフに表す。 ・折れ線グラフのかき方を基にしてワークシートに折れ線グラフをかく。 ◇東京の１年間の気温の変わり方の表を基にして折れ線グラフをかく。	※シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフをかいた児童には，次に東京の１年間の気温の変わり方の表を基にして折れ線グラフをかくことも知らせる。 ※机間指導を行いながら全員がシドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフがかけるように指導していく。 **全員の評価の機会とする観点「◎」** 「おおむね満足できる」状況（B） ◎シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフのかき方を理解している。【数量や図形についての知識・理解】 **□ワークシートの個人解決** ここでの「数量や図形についての知識･理解」の評価については，シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフがかけているかどうかを個人の観察・ワークシート記述を基に見取る。一斉指導により，シドニーの１月から３月までのグラフを教師の指示に沿ってかかせる。次に，続きを各自でかかせ，それぞれの児童がかいた折れ線グラフを評価することとする。そこで，４月から 12 月までの折れ線グラフを正確にかいている状況を「おおむね満足できる」状況とし，机間指導では，折れ線グラフのかき方を理解していない児童を中心に指導・支援する。

	シドニーの１年間の気温の変わり方の折れ線グラフをかいた児童には，東京の１年間の気温の変わり方の表を基にして折れ線グラフをかかせ，授業後にもワークシートの分析を基に，折れ線グラフのかき方を理解しているかどうかを見取る。ここで，東京の１年間の気温の変わり方の表を基にした折れ線グラフも正しくかけていれば「十分満足できる」状況（A）と評価することとする。 **支援：**一斉指導で説明した折れ線グラフのかき方を教科書などで振り返らせ，表と折れ線グラフを対応させながら折れ線グラフをかくよう助言する。 ここですべての児童について，最低でも「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるように，適切な指導を行っておくことが大切である。 **《児童の評価の実際》** **児童ａは，シドニーの折れ線グラフは正確にかけていたが，東京の折れ線グラフでは目盛りの読み方を誤り，点を打っていた。そこで，教師は一目盛りがいくらかを再確認させて，点を打ち直すように指導した。授業後のワークシートの分析では，児童ａはきちんと点を打って東京の折れ線グラフをかいていたので，十分満足できる状況（A）と評価した。**
◇東京の１年間の気温の変わり方の折れ線グラフのかき方を全員で確認し，東京とシドニーのグラフを見て，気付きを話し合う。 ・本時の気付きや感想を書く。	ここでは，東京とシドニーの２つのグラフを見て，気付いたことを話し合わせ，その後ワークシートに記述させる。その際，折れ線グラフの形や東京とシドニーの気温が同じになるところなどを例に挙げ，児童の気付きを促すようにする。 補完する評価の機会とする観点「○」 「おおむね満足できる」状況（B） ○重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。【数学的な考え方】 **□発表の様子の観察・ワークシートによる振り返りの記述** ここでは，第２時の「変化の様子について，線の傾きに表されることに着目して考え，その特徴を読み取っている。」ことが生かされているか否かを見るために，補完する評価の機会とする観点「○」として「重ねてかいた折れ線グラフから，その特徴や傾向を読み取っている。」を設定した。評価方法としては，話し合いでの発表の様子やワークシートの記述，本時の気付きや感想を基に評価することが考えられる。 **《児童の評価の実際》** **児童ａは，第２時においては折れ線グラフの線の傾きには着目していたが，特徴を読み取れていなかったので，「努力を要する」状況(Ｃ)と評価していたが，第３時のワークシートの分析では，グラフの形から東京とシドニーの気温の特徴を読み取っていたので「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。**

小学校算数科における学習評価事例　３

■　「数学的な考え方」の評価の進め方が分かる学習評価事例

第５学年において，Ｂ領域「量と測定」である「面積」を取り上げます。１単位時間の中で自分の考えを説明する算数的活動を通して，「数学的な考え方」の観点における，指導に生かす評価（形成的な評価）と通知表や指導要録の観点別評価の判断のために記録に残す評価の進め方について示します。

単元名　「面積」　　第５学年　　全１３時間

本単元では，指導時数として１３時間を設定しています。三角形，平行四辺形，ひし形などの面積を，既習の内容である正方形や長方形の面積の求め方を基に面積を求め，等積変形などの考え方を使って，面積の公式へと導く展開案です。

１　本時の目標　（７／１３時）

・既習事項を活用して，台形の面積をいろいろな方法で求めることができる。

２　本時に位置付けた評価規準

○　台形の面積の求め方を，三角形や平行四辺形などの面積の求め方を基に考えている。

【数学的な考え方】

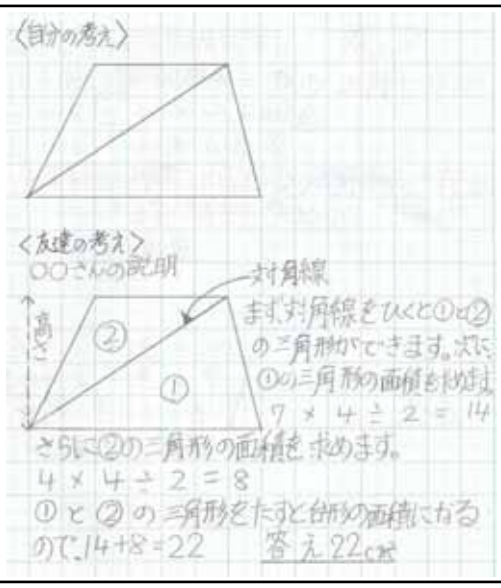
３　本時の指導と評価のポイント

※　本単元では，ノートを用いて学習が進められていることを想定しています。

主な学習内容・学習活動	評価方法の具体とその進め方
１　課題を知る。 ２　既習の学習内容を使って見通しをもつ。 **〔自力解決の段階〕** ３　課題についての自分の考えをまとめる。 **（形成的な評価と評価に基づく指導・支援）** **〔学び合いの段階〕** ４　ペア学習において，相手に自分の考えを説明する。 ５　全体で台形の面積の求め方についての考えを出し合い，検討する。 ・自分の考えた面積の求め方を発表する。 ・それぞれの考えのよさについて話し合う。 ６　適用問題を解き，ペアの友達に説明する。	**【ノート記述の観察】** **指導に生かす評価** ここでは，評価の方法として，**自力解決**の場面でのノート記述内容を観察し，「数学的な考え方」の観点での評価を行う。ここでは，主に「努力を要する」状況(Ｃ)，「十分満足できる」状況（Ａ）の児童を確認し，「努力を要する」状況（Ｃ）にある児童に対しては，それぞれの児童の学習の状況を把握し，補助線を引くことを助言するなどの適切な指導・支援を行う。但し，この後の**学び合い**の場面において考え方が高まる可能性もあることから，児童には，自力解決の場面の最初に記述したことと，ペア学習やその後の学び合いの段階において気付いたことや理解できたことは分けてノートに記述するよう事前に指導しておくなどして，児童の学習の高まりを見取ることができるようにすることが望ましい。 **【学習活動の様子の観察・ノート記述の分析】** **記録に残す評価** 適用問題では「台形の面積の求め方についてノートにまとめ，まとめたことをペアの相手に分かりやすく説明しましょう」と指示し，この時間に学習した台形の面積を求めるための考え方

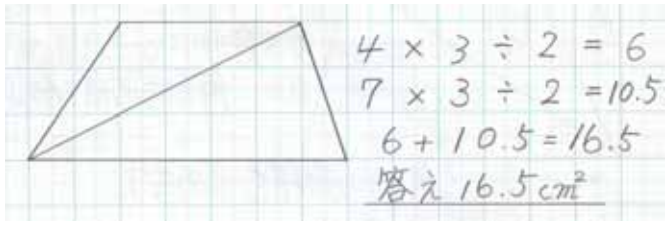
7　本時の気付きや感想を書く。	を自分なりにノートに言葉，式，図などを使って表現させ，ペアの相手に説明させる活動を設定する。 ここでは，学習活動の様子の観察とノート記述の分析を組み合わせて評価する。限られた時間の中で，すべての児童の状況を評価することは難しいので，自力解決の場面のノート記述の観察において，「努力を要する」状況(Ｃ)にあった児童を中心に評価を行う。また，授業後に児童のノートを集めてその記述内容を分析することで，学習活動の様子の観察のみでは，十分に評価できなかった児童の評価を補完する。 自力解決の場面のノート記述の観察において，「努力を要する」状況(Ｃ)にあった児童の学習活動の様子やノート記述において，友達との話し合いや学び合いの中で理解した面積の求め方を活用して適用問題を解決するなど，考え方に高まりが見られれば，本時に位置付けた評価規準に照らして，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)，または「十分満足できる」状況（Ａ）と評価するようにする。併せて，自力解決の場面のノート記述の観察において，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)にあった児童についても，更なる高まりが見られれば，「十分満足できる」状況（Ａ）と評価することが妥当である。

児童ｂのノート〔自力解決の場面〕



児童ｂは，自力解決の場面において，対角線を引いた後の学習が進んでいないことがノートの記述から分かる。つまり，この段階では「努力を要する」状況(Ｃ)にあることが分かる。しかし，その後の学習において，友達の説明を聞くなどして，２つの三角形の面積の求め方について理解できていることが，後半のノートの記述から分かる。

児童ａのノート〔適用問題を解く段階〕



児童ｂは，適用問題を解くときに，友達の考え方から，式と図を使って面積を導き出していることがノートの記述から見取ることができる。

このことから，児童ａは，自力解決の段階においては「努力を要する」状況(Ｃ)にあったが，適用問題を解く段階においては「おおむね満足できる」状況(Ｂ)と評価でき，それが本時における児童ｂの評価となる。

小学校算数科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　算数科に４つの領域がありますが，評価の仕方は違うのですか？

Ａ　算数科で指導する内容は，「Ａ数と計算」，「Ｂ量と測定」，「Ｃ図形」，及び「Ｄ数量関係」の４領域に分かれていますが，評価すべき観点はすべて同じです。「Ａ数と計算」，「Ｂ量と測定」，「Ｃ図形」の三つの領域は，学習の対象がそれぞれ数，量，図形となっています。「Ｄ数量関係」の領域は，変化や対応などの関数の考え，式による表現，表やグラフなどの内容となっています。それぞれの領域において，各観点のバランスを考えて評価規準を設定して指導と評価の計画を立てるとよいと考えます。

Ｑ　毎時間の評価の記録はどのようにすればよいのですか？

Ａ　まず，単元全体を見通した１時間ごとの評価規準の一覧表を作成することが大切です。次に，本時に位置付けた評価規準をどのような方法で評価するのが妥当かということも検討をする必要があるでしょう。学習活動やノートの記述内容などを観察によって評価する際は，あらかじめ教師用チェックリスト**（表１）**などを作成しておくことをお薦めします。リストの記録はできるだけ簡便にして（例えば，「おおむね満足できる」状況は「・」，「十分満足できる」状況は「Ａ」，「努力を要する」状況については学習の状況や指導の内容を具体的にメモするなど），無理なく効率的に評価できるようにしておくとよいと考えます。

表１　１時間の観点別評価表の例　（この場合は第５学年，面積　全 13 時間）

７／13 時 ○月○日		本時の評価規準		台形の面積の求め方を，三角形や平行四辺形などの面積の求め方を基に考えている。		
評価の観点		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	特　記　事　項
			◎			※「おおむね満足できる」状況（Ｂ）については，「・」で示す。 ※「十分満足できる」状況（Ａ）については，「Ａ」で示し，そのときの状態について，特に必要と判断した場合のみ記述する。 ※「努力を要する」状況（Ｃ）については，具体的な学習状況や個別指導した内容などについて記述する。
No	児童名		・			
1	児童１		・			
2	児童２		C			対角線を引き，三角形の面積の公式を想起させた。
3	児童３		A			長方形に等積変形し，言葉，式，図を使って記述している。

本時の評価の観点に◎と○に分けて書き込む。
◎…全員の評価の機会とする
○…補完する評価の機会とする

Ｑ　収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

Ａ　単元末や学期末，学年末の時期に観点別の評価を総括するためには，観点ごとの評価を総括することができるような一覧表を作成して，日頃から評価結果を蓄積しておくとよいでし

ょう。また，評価を総括する場合は，学校内で事前に十分話し合いを行い，評価にばらつきが出ないよう配慮する必要があります。評定への総括に関しては「学校評価の工夫改善に関する調査研究」(平成16年3月,国立教育政策研究所)などを参考にされるとよいと考えます。

評価を総括する場合，表２に示したようにＡ，Ｂ，Ｃの数で行う場合と，例えば，Ａを３，Ｂを２，Ｃを１と数値化し平均を求める場合などがあります。総括の仕方は一通りではありませんので，校内などで十分に情報交換を行い，検討を重ねることによって，より妥当性，信頼性の高いものとなるでしょう。

表２は，単元末の各観点の評価を総括している例です。特記事項の欄に「数学的な考え方」の総括の仕方の一例について説明しています。

表２　各時間の評価と単元末の評価表　(この場合は第６学年，拡大図と縮図　全９時間)

○月○日　　単元名　「拡大図と縮図」

評価の観点		算数への関心・意欲・態度				数学的な考え方				数量や図形についての技能					数量や図形についての知識・理解				特記事項
No	時間 / 児童名	1	3 ◎	8	総括	5 ◎	6 ◎	7	総括	3	4 ◎	5	9	総括	1	2 ◎	9 ◎	総括	
1	児童１	A	A	B	A	B	A	A	A	A	B	B	B	B	B	A	A	A	**※「数学的な考え方」の観点において，Ａが半分以上あるので，観点の総括はＡになります。**
2	児童２	B	B	C	B	C	B	C	C	A	A	B	B	B	B	A	B	B	**※「数学的な考え方」の観点においてＣが半分以上あるので，観点の総括はＣになります。**
3	児童３	B	A	B	B	C	B	A	B	B	A	B	A	A	B	A	B	B	**※「数学的な考え方」の観点において，Ａ，Ｂ，Ｃが１つずつあります。この場合はＣとＡが相殺されるので総括はＢになります。**

本時の評価の観点に◎と空欄とを分けて書き込む。
◎…全員の評価の機会とする
空欄…補完する評価の機会とする

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（小学校　理科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校理科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校理科における学習評価の進め方
4　小学校理科における学習評価事例
5　小学校理科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

全教科共通ページ　新学習指導要領における学習評価はこのようになります。

◇新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◇各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◇新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を，言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　理科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

自然に親しみ，見通しをもって観察，実験などを行い，問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに，自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り，科学的な見方や考え方を養う。

⇒学習指導要領改訂に伴い，体験充実，主体的な問題解決，理科を学ぶことの意義や有用性の実感の趣旨から「自然の事物・現象についての理解」という文言に新たに「実感を伴った」という文言が追加されました。

2　評価の観点及びその趣旨

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
自然に親しみ，意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い，自然を愛するとともに生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって事象を比較したり，関係付けたり，条件に着目したり，推論したりして調べることによって得られた結果を考察し表現して，問題を解決<u>している</u>。	自然の事物・現象を観察し，実験を計画的に実施し，器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに，それらの過程や結果を的確に記録<u>している</u>。	自然の事物・現象の性質や規則性，相互の関係などについて実感を伴って理解<u>している</u>。

（＿＿下線は，佐賀県教育センターによる）

評価の観点がこれまでと変わったところは？

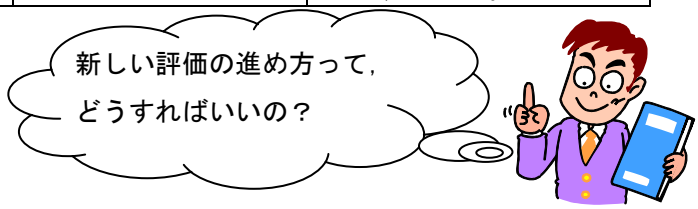
- ○ **「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」の文末の表現が，これまでの「～する」から「～している」に変わり，着実に児童の現状を把握するという意図が示されています。**
  ※「自然事象についての知識・理解」は，「～の考えをもっている」から「理解している」へ（上表の下線部）
- ○ **これまでの「科学的な思考」の観点は，「科学的な思考・表現」として，知識・技能を活用して課題を解決することに必要な思考力・判断力・表現力等を子どもが獲得しているかどうかを評価します。**
- ○ **これまでの「観察・実験の技能・表現」の観点は，思考・判断したことを言語表現することと区別するために「観察・実験の技能」となりました。**
- ○ **「観察・実験の技能」については，学習指導要領では「基礎的・基本的な知識及び技能の着実な習得」とされ，「知識」と並んで習得の対象とされ，「技能」は「知識・理解」とは別に，独立して評価することになります。**
- ○ **「自然事象についての知識・理解」については，「実感を伴って」理解しているかどうかを評価することになります。**

3　学年別の評価の観点の趣旨

	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第3学年	自然の事物・現象を興味・関心をもって追究し，生物を愛護するとともに，見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象を比較しながら問題を見いだし，差異点や共通点について考察し表現して，問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり，使ったり，作ったりして観察，実験やものづくりを行い，その過程や結果を分かりやすく記録している。	物の重さ，風やゴムの力並びに光，磁石の性質や働き及び電気を働かせたときの現象や，生物の成長のきまりや体のつくり，生物と環境とのかかわり，太陽と地面の様子などについて実感を伴って理解している。

第４学年	自然の事物・現象を興味・関心をもって追究し，生物を愛護するとともに，見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象の変化とその要因とのかかわりに問題を見いだし，変化と関係する要因について考察し表現して，問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり，使ったり，作ったりして観察，実験やものづくりを行い，その過程や結果を分かりやすく記録している。	空気や水の性質や働き，物の状態の変化，電気による現象や，人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり，気象現象，月や星の動きなどについて実感を伴って理解している。
第５学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し，生命を尊重するとともに，見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見いだし，条件に着目して計画的に追究し，量的変化や時間的変化について考察し表現して，問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し，装置を組み立てたり使ったりして観察，実験やものづくりを行い，その過程や結果を的確に記録している。	物の溶け方，振り子の運動の規則性，電流の働きや，生命の連続性，流水の働き，気象現象の規則性などについて実感を伴って理解している。
第６学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し，生命を尊重するとともに，見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見いだし，推論しながら追究し，規則性や相互関係について考察し表現して，問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し，装置を組み立てたり使ったりして観察，実験やものづくりを行い，その過程や結果を的確に記録している。	燃焼，水溶液の性質，てこの規則性及び電気による現象や生物の体の働き，生物と環境とのかかわり，土地のつくりと変化のきまり，月の位置や特徴などについて実感を伴って理解している。

小学校理科における学習評価の進め方



◇　学習内容の区分と問題解決の能力について

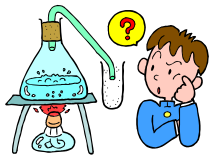
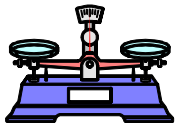
理科においては，学習指導要領の内容の「Ａ　物質・エネルギー」，「Ｂ　地球・生命」を内容のまとまりとしています。Ａ・Ｂ区分ともに「自然事象への関心・意欲・態度」，「科学的な思考・表現」，「観察・実験の技能」，「自然事象についての知識・理解」について，目標に照らして評価規準を設定して評価を行うようにします。また，理科においては，問題解決の能力の育成が求められます。各学年を通して重点的に育成する問題解決の能力や児童が調べる視点など，次の表のように整理することができます。

学年	問題解決の能力	見方・考え方	調べる視点
３年	比較する力 違いに気付く力	生物の愛護 共通性や相互関係 物質の性質，特徴	身近な自然の事物・現象について，差異点や共通点について比較しながら調べる。
４年	要因を抽出する力 関係付ける力	生物の愛護 事物・現象の性質や変化 規則性　関係性	自然の事物・現象について，事象の変化とそれに関わる要因を抽出し，関係付けながら調べる。
５年	条件を制御する力 問題を計画的に追究する力	生命の尊重　連続性 変化の規則性	自然の事物・現象について，量的，時間的変化や働きをそれらに関わる条件に着目して調べる。
６年	要因や規則性，関係性を推論する力	生命の尊重 相互関係　規則性 関係性	自然の事物・現象について，その変化や働きをその要因，規則性，関係性を推論しながら調べる。

評価規準は，どこにどのように設定するの？

各学校において，評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）に示されている評価規準の設定例を参考にして，Ａ・Ｂ区分，教材等の特徴に即して，その記述を具体化したり，必要に応じて，いくつかの設定例を参考にしたりすることにより，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

理科においては，一連の問題解決の学習の流れの中に，次のような考えをもって評価規準を設定していくとよいでしょう。

問題解決の学習の流れ	観点別学習状況
事物・現象 ↓ 学習問題 ↓ 予想・仮説 ↓ 観察・実験計画 ↓ 観察・実験 ↓ 結果 ↓ 考察 ↓ 結論	 **自然事象への関心・意欲・態度①** ・どのようなことに興味や関心をもち，より深く追究していこうとしているか。 **科学的な思考・表現①** ・学習問題に対して，どのような予想や仮説を立て，それはどのような根拠を基に考えているのか。 ・どのような方法で問題を解決しようとしているのか，その方法や見通しをもっているか。  **観察・実験の技能①②** ・観察や実験を計画的に実施し，器具や機器などを目的に応じて工夫して扱っているか。 ・観察や実験の過程や結果を正確に記録できているか。 **科学的な思考・表現②** ・観察や実験で得られた結果を予想や仮説と照らし合わせて考察し表現して，問題を解決しているか。 **自然事象についての知識・理解** ・学習を通して，これまでの自分の考えを深めたり，変容させたりして，実感を伴って理解しているか。 **自然事象への関心・意欲・態度②** ・学習を通して獲得した知識や見方・考え方などを次の学習や自分の生活に生かそうとしているか。

各観点の評価方法は？

☆【自然事象への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が自然の事物・現象に興味・関心をもち，自ら問題を見いだして，学習に主体的に取り組もうとしているかを評価するものです。

単に，挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく，その授業の指導目標や学習活動を踏まえて，学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価します。また，習得した知識・技能によって興味・関心が高まることもあるため，この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

⇒例えば，行動の観察，発言の内容，学習カード(ワークシート)の振り返りの記述等で見取ることができます。

☆【科学的な思考・表現】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が自然の事物・現象から見いだした問題に対し，どのような予想や仮説を立てて，それがどのような根拠をもっているのか考えを表現したり，観察・実験の結果を整理し，予想や仮説と照らし合わせて考察し，表現したりしたことを評価するものです。

この科学的な思考・表現の評価については，単元末のペーパーテストなどのみで評価することは困難です。科学的な思考力や表現力を評価するためには，日頃の授業の中に，児童自身に予想や仮説を記述させたり，観察や実験の結果から考察させたことを記述させたりするなどの活動を取り入れ，児童の変容を客観的に評価するための記録を残すことが必要になります。

⇒例えば，学習カード（ワークシート)の予想・仮説の記述，考察の記述，発言の内容，対話等で見取ることができます。

☆【観察・実験の技能】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が，どのような問題意識をもち，観察・実験を行い，問題解決の活動を進めたか，観察や実験技能を身に付けることができたのか，また，観察・実験の結果を適切に記録し表やグラフ等を用いて整理し表現できているかを評価するものです。

単に，教師が提示した観察や実験の道具を適切に使用することができる，示されたところに数値を書き込むことができるといったことではなく，予想や仮説に基づいた観察・実験を行うことができているか，予想や仮説に関係付けられた結果として表現されているかを評価します。

⇒例えば，観察・実験中の活動の様子，学習カード（ワークシート)の結果の記録等で見取ることができます。

☆【自然事象についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が始めにもっていた自然事象に対する考えに対して，考えを深めたり，変容させたりして，科学的な概念として獲得しているかを評価します。また，観察・実験器具の名称やその扱い方，科学的な用語などを児童が獲得できたかなども含まれます。

単に自然事象の性質や規則性など「自然のきまり」としてまとめたことを記述できたかどうかではなく，獲得した自然のきまりに対して，児童が学習前にもっていた考えと学習後にもった考えや感想などを比較して，総合的に評価するようにします。

⇒例えば，学習カード（ワークシート)の記述，振り返りの記述，ペーパーテスト等で見取ることができます。

小学校理科における学習評価事例　1

■　単元全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

事例１の単元では，「Ｂ地球・生命」を扱います。10 時間の学習計画を立て，バランスよく観点別評価を行うことにしました。１単位時間に１～２つの評価規準を設定するのが適当です。

１　単元名　　太陽のうごきと地面のようすをしらべよう　　第３学年「Ｂ生命・地球」

２　単元の目標

太陽と地面の様子について興味・関心をもって調べる活動を通して，日陰の位置の変化と太陽の動きを関係付けたり，日なたと日陰の地面の様子の違いを比較したりする能力を育てるとともに，それらについての理解を図り，太陽と地面の様子との関係についての見方や考え方をもつことができるようにする。

３　単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
①日陰の位置の変化や日なたと日陰の地面の様子の違いに興味・関心をもち，進んで太陽と地面の様子との関係を調べようとしている。 ②見いだした太陽と地面との関係で，日常の現象を見直そうとしている。	①日陰の位置の変化や日なたと日陰の地面の様子，日陰の位置の変化と太陽の動きを比較して，それらについて予想や仮説をもち，表現している。 ②日陰の位置の変化や日なたと日陰の地面の様子を比較して，それらを考察し，自分の考えを表現している。	①温度計や遮光板，方位磁針を適切に使って，日陰の位置の変化と，日なたと日陰の地面の様子や太陽の動きを安全に観察している。 ②日なたと日陰の地面の様子や太陽の動きを調べ，その過程や結果を記録している。	①日陰は太陽の光を遮るとでき，日陰の位置は太陽の動きによって変わることを理解している。 ②地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。

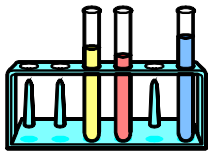
４　単元の指導と評価の計画（全１０時間）

○学習内容　・学習活動	評価規準	評価方法の具体とその進め方
第１時 ○影踏み遊びを行って，影のでき方を話し合う。 ・鬼に捕まらない工夫など気付いたことを話し合う。	影のでき方に興味・関心をもち，太陽と影の関係を進んで調べようとする。 **【自然事象への関心・意欲・態度①】**	**行動の観察・発言の内容** 影の向きを考えて，鬼から逃げることや，建物や木の影に逃げ込むなど，影のでき方を意識している行動や発言を見取る。
第２時 ○影のできる向きと太陽が見える方向とを関係付けて考える。 ・影の向きと太陽の見える方向を観察して記録する。 ・影ができるときのきまりをまとめる。	遮光板を適切に使って，安全に太陽を観察している。 **【観察・実験の技能①】** 影は，人やものが太陽の光を遮ると太陽の反対側にでき，影の向きはどれも同じになることを理解している。 **【自然事象についての知識・理解①】**	**行動の観察・学習カードの記録** 太陽を背に向けて立って影を指さす者と太陽に向かってしゃがんで太陽を指さす者の２人組をつくって，指さしで影と太陽の方向を確認している行動を観察する。太陽のある方向と影の向きについて学習カードの記録から読み取る。
第３時・４時 ○影の向きと太陽の動きを関係付けて考える。 ・棒などを立て，影の向きは，	影の向きが時間が経つにつれて変わっていくことを予想し，太陽の動きと観察結果と関係付けて考え，自分の考えを表現している。	**発言の内容・学習カードの記述** 鉛筆等を立てた観察用紙に記録された影の記録から，影の向きと太陽の動きを関係付けて考察している学習

時間が経つとどうなるのか観察して記録する。 ・観察の結果から，影の向きと太陽の動きについて話し合う。	**【科学的な思考・表現①②】** 影の向きや太陽の見える方向を調べ，記録することができる。 **【観察・実験の技能①】** 影の向きが時間が経つにつれて変化するのは，太陽が動いているからであることを理解している。 **【自然事象についての知識・理解①】**	カードの記述を読み取ったり，短時間の観察中にも影が動いていることの気付きを発言したりしていることなどを併せて見取る。
第５時・６時 ○太陽の動きを，遮光板，方位磁針を使って観察し記録して，１日の太陽の動き方を考える。 ・方位磁針の使い方を知る。 ・午前 10 時頃，正午頃，午後 ○午後２時頃の太陽の見える方向を観察して記録する。 ・観察の結果から，１日の太陽の動き方を考える。	方位磁針を適切に使って，太陽の動きを調べている。 **【観察・実験の技能①】** 太陽は，東の方からのぼり，南の高い空を通って，西の方へしずむことを理解している。 **【自然事象についての知識・理解①】**	**行動の観察・学習カードの記録** 手のひらに乗せた方位磁針を使って，示された方位に体の向きを変えたり，太陽が見える方向を正しく言えたりしているか行動を観察する。 観察の結果から「東」「南」「西」の方位の用語を使いながら太陽の動き方について学習カードの記録から読み取る。
第７時 ○日なたと日陰の地面の様子の違いに気付く。 ・日なたと日陰の様子の違いについて話し合う。 ・日なたと日陰で，地面の明るさ，暖かさ，湿り具合を調べて記録し，その様子を比べる。	日なたと日陰の体感温度の違いから地面の様子の違いに興味・関心をもち，進んで太陽と地面の様子の関係を調べようとしている。 **【自然事象への関心・意欲・態度②】** 日なたと日陰の様子を比較し，地面の暖かさや湿り具合の違いを正確に記録している。 **【観察・実験の技能②】**	**発言の内容・行動の観察・学習カードの記録** 日なたと日陰の様子について話し合っている内容や，進んで地面を手で触って違いについて調べている行動を観察する。 日なたと日陰の地面の様子について，「明るさ」「暖かさ」「湿り具合」を表にした学習カードの記録から読み取る。
第８時 ○温度計の使い方を知る。 ・湯や水の温度を使って温度計の目盛りの読み方を知る。	温度計を適切に使って，物の温度を調べている。 **【観察・実験の技能①】**	**行動の観察・学習カードの記録** 温度計を安全に正しく使って，水や湯を計っているか行動や学習カードの記録から読み取る。
第９時・10 時 ○日なたと日陰の地面の温度を計り，様子の違いと温度の違いとを関係付けて考える。 ・午前９時頃，正午頃の日なたと日陰の地面の温度を調べる。 ・日なたと日陰の温度の変化の違いを考える。	地面の温度は，時間が経つと変わることを予想し，太陽の動きの観察結果と関係付けて考え，表現している。 **【科学的な思考・表現①②】** 地面は，太陽によって暖められるため，日陰の地面よりも日なたの地面の方が，温度が高くなることを理解している。 **【自然事象についての知識・理解②】**	**発言の内容・学習カードの記述** 日なたと日陰の地面の温度の記録を比較して，その違いと太陽の動きを関係付けて自分の考えを発言していることや学習カードの記述を読み取る。

小学校理科における学習評価事例　２

■　一単位時間の中で，指導のための評価（形成的な評価）と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価（総括的な評価）の違いが分かる事例



単元名　　水溶液の性質　　第６学年「Ａ物質・エネルギー」

本単元は，扱い時数１３時間の計画です。本時は，２次の塩酸がアルミニウムを溶かす性質があることを学習した後，溶けたものを取り出して性質を調べる活動です。

１　本時の目標

○　アルミニウムを溶かした塩酸を加熱して出てきた物質が，アルミニウムの性質をもつのかを調べる活動を通して，塩酸は金属を溶かしてもとの金属とは違う物に変化させる働きがあることの考えをもつことができる。

２　本時に位置付けた評価規準

○　自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて，塩酸に溶けたアルミニウムは別の物に変わったことについて根拠をもって表現できる。　【科学的な思考・表現】

３　本時の指導と評価の計画

○学習内容　・学習活動	◇評価方法の具体とその進め方
○何も溶かしていない塩酸を加熱しても何も出てこないことと，アルミニウムを溶かした塩酸を加熱したときは，白い粉のようなものがでたことから，白い粉について，自分なりの考えをもつ。 ・何も溶かしていない塩酸とアルミニウムを溶かした塩酸を加熱したときの様子の違いについて話し合う。	**◇発言の内容・学習カードの記述** ・２つの事象の違いに気付くことができている。 ・白い粉のようなものについて自分なりの考えをもっている。 具体的には「塩酸だけは何も出てこない」「アルミニウムを溶かした塩酸からは白い粉が出てきている」ことに気付くことから，白い粉について「白い粉は何なのだろう」「これはアルミニウムなのだろうか」と問題意識をもって学習カードに記述できていればよい。この時点で問題意識がもてない，又は予想や仮説がもてない児童については，児童同士の話し合いをもとに，５年生の既習事項について想起させるようにする。 **支援：**５年生の「ものの溶け方」で，水溶液に溶けているものの取り出し方を想起させ，食塩水から食塩を取り出したときの学習をもとに，本時の事象について考えをもたせるようにする。 **ここでは，形成的な評価に基づく適切な指導を行う。**
○予想や仮説を基に，実験方法を考え，実験を行う。 ・アルミニウムの性質をもとに実験方法を考える。 （もしアルミニウムであるならば・・・であろう。）	**◇発言の内容・実験活動の様子・学習カードの記述** 「おおむね満足できる」状況（Ｂ） ・白い粉がアルミニウムなのか別のものであるのか考えをもつ。 この段階では，児童は，「白い粉がアルミニウムであるのか，アルミニウムではないのか」どちらの考えをもっていてもよい。ただし，「もしアルミニウムであるならば・・・・。」という，このあとの実験につながる仮説を立てることができているかどうかについて「十分満足できる」状況（Ａ），「おおむね満足できる」状況（Ｂ）にあった児童につい

・実験を行う。 ・結果を表に整理する。	ては，発言の内容や学習カードの記述により見取るようにする。さらに，児童同士の話し合いにより，より具体的な実験方法や計画に向かわせるようにする。また，「努力を要する」状況（C）にある児童については，既習事項を具体的に示して，支援を行う。 **支援：**アルミニウムなど金属が水溶液に溶けるときの特徴的な様子はどうであったか，アルミニウムは電気を通すかなど具体的に問いかけ，白い粉の性質を調べる手掛かりとさせる。 **ここでの評価は，このあとの「予想や仮説と照らし合わせた考察」に生きる活動として，補助簿等に記録を残す。また，ここですべての児童について，「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるように，形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っておくことが大切である。** 観察・実験の技能の指導として，アルミニウムが溶けている塩酸を加熱して，物質を取り出すことから実験を始めるに当たっては，火器を安全に取り扱っているかを活動の様子を観察し適切な指導をする。また，取り出した物質を再び塩酸に入れて溶ける様子を観察する場合は，塩酸の取り扱いに留意しながら安全に行っているかを活動の様子を観察し適切な指導をする。 **ここでの評価は，観察・実験の技能の指導のための評価であり，記録に残す必要はない。**
○実験の結果を出し合い，白い粉がアルミニウムであるのかどうかについて，考察し表現する。 ・それぞれの結果を検討する。 ・結果から言えることを考察し発表したり学習カードに記述したりする。	**◇発言の内容・学習カードの記述** 「おおむね満足できる」状況（B） ・実験の結果を根拠に，塩酸は溶かしたアルミニウムを別のものに変えることを表現できる。 実験結果をもとに，白い粉はアルミニウムではないことを考察させるところである。児童には，結果から言えることとして，表現させ，その発言の内容や，学習カードの記述から評価する。児童自身の言葉で考察を表現させる活動のときに，「努力を要する」状況（C）にあった児童を中心に評価する。また，「おおむね満足できる」状況（B）にあった児童についても，予想や仮説を立て，実験方法を考えた状況と照らし合わせて進歩が見られれば，改めて補助簿等に記録する。 **支援：**学習問題に対する「結論」と，その結論に至った「理由」を分けて記述するように助言する。「なぜなら」などの接続詞を示して，実験の結果が根拠となることに気付かせる。 **ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので，確実に記録に残す。**

小学校理科における学習評価事例　3

■　「科学的な思考・表現」の評価の進め方が分かる事例

第４学年において，「水の三態」の単元を取り上げ，水の状態変化における水蒸気について，実験を通して水蒸気について考えをもつ学習を展開する場合の評価方法について示します。

単元名　　すがたを変える水　　第４学年「Ａ物質・エネルギー」

本単元は，扱い時数７時間の計画です。主な単元の流れは以下の通りです。

第１次　あたためたときの水の様子（４）・・・・水の沸騰（２）
・・・・水の沸騰と水蒸気（２）

第２次　ひやしたときの水の様子（２）　・・・　氷のできる様子と体積（２）

第３次　水のすがたと温度（１）・・・・・・・・　水のすがたと温度（１）

本時は，４時目の「水が沸騰している泡の正体」を考えるところです。３時目に水を熱したときの泡を水蒸気という用語で表すことは学習しています。４時目は，水が沸騰しているときの泡について，空気との比較を通して更に水蒸気とその概念を押さえる展開案です。

１　本時の目標

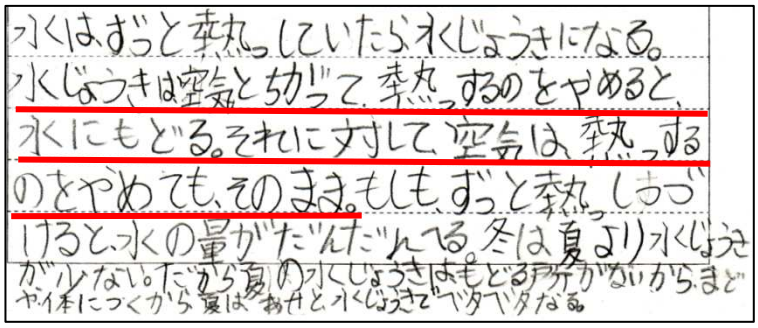
○　水を温めて沸騰させているときに出る泡は，水が姿を変えた水蒸気であるという考えをもつことができる。

２　本時に位置付けた評価規準

○　水が沸騰しているときの泡の性質と空気の性質とを比較して，水が沸騰しているときの泡は，水が姿を変えたものであることを根拠をもって表現できる。　　【科学的な思考・表現】

学習活動	評価方法の具体とポイント
１　水が沸騰している泡の様子とエアーポンプから出ている泡の様子を比べる。 ２　水が沸騰している泡は，「空気」なのか「空気とは別のもの」なのか予想をする。 ３　沸騰している泡を袋に集める実験を行う。 ４　結果からいえることをまとめる。	**発言の内容，学習カードの記述** 水が沸騰しているときの泡を袋に集めたとき，「熱い」「袋の中が水でぬれている」「熱するのをやめるとしぼんだ」などの発言の内容を見取る。また，指導者の，「もし泡が空気だとしたらどうだろうか」などの問いかけに対し「空気だったら熱するのをやめてもこんなにしぼまない」などの発言の反応を見取る。このように水が沸騰しているときの泡と空気の泡との比較を通して，沸騰している泡について考察している学習カードの記述から読み取る。

児童ａの学習カード　「結果から言えること」


水はずっと熱っしていたら水じょうきになる。
水じょうきは空気とちがって熱っするのをやめると
水にもどる。それに対して空気は熱っする
のをやめても、そのまま。もしも、ずっと熱っしつづ
けると、水の量がだんだんへる。冬は夏より水じょうき
が少ない。だから夏の水じょうきはもどる所がないからまど
や体につくから夏はあせと水じょうきでベタベタなる。

児童ａは，まず水を熱し続けると水蒸気になることを「水蒸気」の用語を使って結論付けている。続けて，水蒸気は冷やすと再び水にもどることから，明らかに空気とは違うものであると考えていることが分かる。さらに熱し続ければ水は水蒸気の状態になって空気中に出て行くことがわかる記述をしているため「十分満足できる」状況（A）と判断した。

小学校理科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　Ａ区分，Ｂ区分によって評価の仕方は違うのですか？

Ａ　「Ａ物質・エネルギー」と「Ｂ地球・生命」とも評価すべき観点は同じです。両区分の学習の特徴として，Ａ区分は，電気，磁石，水溶液など短い時間での再現性が高く，実験を中心に学習を進められることが多いです。Ｂ区分は，植物，生物，太陽や月など原則的に再現性がなく，長い時間の中で，観察を中心に学習が進められるものが多いです。つまり，Ａ区分は１単位時間の問題解決が図られやすいのに対して，Ｂ区分は単元を通した問題解決になりやすいです。したがって，Ｂ区分は，単元を通して各観点の評価規準を設定していくような学習計画を立てるとよいと考えられます。

Ｑ　具体的に「関心・意欲・態度」を見取る方法はどういうものがありますか？

Ａ　「自然事象への関心・意欲・態度」の評価は，単に発言や挙手の回数や忘れ物の有無で評価すべきではありません。児童が，自然の事象にどんな疑問や矛盾を感じ，問題の解決にどのように主体的に取り組もうとしているかなどを評価します。そのために座席表をもとにした評価表等を作成します。例えば，小学３年生の昆虫の成長では「対象への興味・関心」については，進んでチョウの卵を探そうとしているかということや，「観察の様子」については，虫眼鏡を使って詳しく観察しようとしているかということなどを観点とした一覧にして，学習中の活動を◎や○など記録しておくようにします。特に目立ったことがある場合には，簡単なメモをしておくとよいでしょう。また，学習中徐々に児童の「関心・意欲・態度」の向上が見られる場合もあります。１単位時間，あるいは単元を通して，常に注意深く児童の行動や発言及び記述内容を観察しておく必要があります。

Ｑ　児童が考えた実験方法が間違っているとき「科学的な思考・表現」の評価はどうしたらよいですか。

Ａ　自然の事物・現象から問題を見いだして，その問題を解決するために児童が実験方法を考え，計画を立てることは，「科学的な思考・表現」で評価してよいと考えます。ただし，その実験方法が問題に対して，ずれていたり，結果を導き出すことにつながりにくかったりすることもあります。科学的な思考力・表現力の育成は，指導の積み上げによってある方向に向かっての向上や深まりを期待するものです。基本的には，科学的な思考力・表現力が以前より向上していることを，個人内での比較や他の人との比較によって把握するものです。したがって，調べる目的に対して，児童が考えた実験方法が誤っている場合でも，実験の途中や結果を出したところなどで，実験方法の修正が図られ，児童の目的と実験の意味付けがきちんとなされるようになっていけば，「科学的な思考・表現」の評価としては，おおむね満足の状態にあると考えてよいと思います。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　生活科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。このリーフレットは，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校生活科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校生活科における学習評価の進め方
4　小学校生活科における学習評価事例
5　小学校生活科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　生活科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，**自立への基礎を養う**。

※ 波線と太字は教育センターによる。

○　教科目標については，これまでの理念の重要性を再確認し変更されていません。

生活科の目標を端的に表すと，「具体的な活動や体験を通して，自立への基礎を養う。」となります。生活科の学習を進めていく中で，「自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと」「自分自身や自分の生活について考えさせること」「その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせること」が重要となってきます。

・目標の構成図

具体的な活動や体験を通して

↓

・自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと
・自分自身や自分の生活について考えさせること
・生活上必要な習慣や技能を見に付けさせること

↓

自立への基礎を養う

2　評価の観点及びその趣旨

○　評価の観点についても，低学年の特質を生かした観点であるため，変更されていません。

生活科の評価の観点についても，変更はあっていません。これは，これまでも低学年の特質である「思考と表現の一体化」を生かした指導を重視してきたからです。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく学習したり，生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって，自分と身近な人，社会，自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

3　第１学年及び第２学年の評価の観点の趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な人，社会，自然及び自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく意欲的に学習したり，生活したりしようとする。	調べたり，育てたり，作ったりするなどの活動や学校，家庭，地域における自分の生活について，自分なりに考えたり，工夫したり，振り返ったりして，それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって，学校，家庭，地域，公共物，身近な自然，動植物，自分の成長などの様子，それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

小学校生活科における学習評価の進め方

○「生活への関心･意欲･態度」は，

　この観点では，児童が学習対象に対してどのようにかかわろうとしているのかを評価することが重要です。
　身近な人々，地域の様子，草花や野菜，自分の生活などに対してどの程度関心をもち，どの程度意欲的にかかわろうとしているかなどを見取っていきます。
　そのため，授業中の様子について見取っていくことはもちろんのこと，栽培・飼育活動においては，朝の時間や休み時間など日常的にお世話をしている姿も見取っていくことが大切になってきます。また，地域とかかわる活動においては．放課後や休日を使って地域に出かけ，かかわろうとした姿などのように，授業時間以外の姿を評価していくことも大切になってきます。
【主な評価方法】
　・行動観察　　・発言内容　　・振り返りカードの記述　　・日記　　など

○「活動や体験についての思考･表現」は，

　この観点では，児童が具体的な活動や自分の生活について，自分なりに考えたり，工夫したりしている姿や，楽しかったこと、考えたことや工夫したことを，すなおに表現している姿を評価することが重要です。
　学校や地域の様子について見聞きしたり，生きものや植物のお世話をしたり，おもちゃや遊びを作ったりするなど，自分の生活について自分なりに考えたり，工夫したり，活動を振り返ったりしている様子を見取っていきます。
　そのため，活動している児童の姿から，どのようなことを考え、どのようなことを行っているのかを見取っていきます。必要に応じて，児童に問い掛けながら把握していきます。
　また，自分が感じた活動や体験の楽しさ，活動の中で工夫したことや考えたこと，振り返ったことなどを自分なりにすなおに表現している姿を見取っていくことも重要です。
　そのため，発表の出来映えのみを評価するのではなく，その児童らしい表現内容や方法等について見取っていくことが大切です。
【主な評価方法】
　・発言内容　　・発表方法　　・招待状の内容　　・設計図の記述内容　　など

○「身近な環境や自分自身についての気付き」は，

　この観点では，具体的な活動や体験を通して，どのような気付きが生まれたかを評価することが重要です。
　気付きには，学習対象に対する気付き，学習対象と自分とのかかわりへの気付き，自分自身への気付きなどがあります。
　ねらいとする内容や学習活動に応じて，どのような気付きが生まれたのかを見取っていきます。取り扱う内容によっては，休み時間や放課後といった授業以外での活動で気付きが生じる場合もあるので，いつでも児童が書きとどめていけるように，学習カードを常備しておくことも考えられます。
【主な評価方法】
　・発言内容　　・学習カードの記述内容　　・振り返りカードの記述内容　　など

評価規準の設定の仕方

活動の中心となる内容を整理して、設定することが大切です。

評価規準の設定にあたっては，国立教育政策研究所から示されている「評価規準の作成のための参考資料」(以下参考資料)に示されている評価規準の設定例を参考に，内容等の特徴に応じて設定します。複数の設定例を参考にすることで，学校の特質に応じた評価規準を設定することができます。以下に，評価規準の設定例を挙げていきます。

１　１内容で１単元を構成する場合…内容(７)「動植物の飼育･栽培」

○「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして「単元の評価規準」を設定するとともに，「評価規準の設定例」を参考にしながら，学習対象や学習内容に応じて「学習活動(小単元)における評価規準」を設定していきます。ここでは，昆虫や小動物の飼育単元を基に，評価規準の設定例を示していきます。

◎参考資料に示されている【「動植物の飼育･栽培」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
動植物やそれらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，生き物に親しんだり，大切にしたりしようとしている。	動物を飼ったり植物を育てたりすることについて,自分なりに考えたり，工夫したり，振り返ったりして，それをすなおに表現している。	生き物は生命をもっていることや成長していること，生き物と自分とのかかわりに気付いている。

○学習対象として昆虫や小動物を飼育する場合は，「昆虫」「小動物」といった文言を使用し，学習活動を考慮しながら設定します。

◎【「動植物の飼育･栽培」の評価規準に盛り込むべき事項】を参考に設定した単元の評価規準例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近にいる昆虫や小動物に関心をもち，触れ合ったり世話をしたりしようとしている。	昆虫や小動物の様子を見ながら工夫して世話をしたり触れ合ったりし，自分が世話をしたことや昆虫や小動物のことについてすなおに表現している。	昆虫や小動物とかかわることで，それらは，生命をもっていることや成長していること，お世話し続けている自分に気付いている。

○「学習活動(小単元)における評価規準」を設定する際には，参考資料にある【「動植物の飼育・栽培」の評価規準の設定例】を参考にしながら，学習対象や学習活動に応じて設定します。

◎【「動植物の飼育・栽培」の評価規準の設定例】を参考に設定した学習活動(小単元)における評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・昆虫や小動物に関心をもって探したり，採ったり，育てたりしようとしている。 ・昆虫や小動物が育つ場所，成長の様子に関心をもち，世話をしようとしている。 ・育てている昆虫や小動物をかわいがり，繰り返しかかわろうとしている。 ・昆虫や小動物に親しみをもち，それらを大切にしようとしている。	・育ててみたい昆虫や小動物を選んだり決めたりしている。 ・昆虫や小動物の育つ場所，成長や変化について考え，世話の仕方を工夫している。 ・昆虫や小動物の立場に立って考え，世話の仕方を工夫している。 ・育ててきた昆虫や小動物とのかかわりを振り返り，自分にあった方法で表している。	・昆虫や小動物の特徴，育つ場所，成長の様子に気付いている。 ・育てている昆虫や小動物にあった世話の仕方があることに気付いている。 ・昆虫や小動物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 ・昆虫や小動物への親しみが増し，上手に世話ができるようになった自分自身に気付いている。

2　複数内容で１単元を構成する場合…内容(５)「季節の変化と生活」
内容(６)「自然や物を使った遊び」

○取り扱う内容を複数にする場合は，それぞれの内容に対応した「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考に，学習対象や学習活動に応じて組み合わせたり，融合したりして「単元の評価規準」や「学習活動(小単元)における評価規準」を設定します。ここでは，おもちゃ作り単元における評価規準の設定例を示しています。

◎参考資料に示されている【「季節の変化と生活」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然，季節や地域の行事に関心をもち，それらとかかわる活動を行うなどして，楽しく生活しようとしている。	四季の変化，季節によって生活の様子が変わることについて，自分なりに考えたり，振り返ったりして，自分たちの生活を工夫し，それをすなおに表現している。	四季の変化や季節によって生活の様子が変わること，それらと自分とのかかわりについて気付いている。

◎参考資料に示されている【「自然や物を使った遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然や物を利用した遊びに関心をもち，みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な自然や物を利用して遊びを考えたり，遊びに使う物を自分なりに工夫したりして，それをすなおに表現している。	遊びや遊びに使うものをつくる面白さ，自然の不思議さ，みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。

○学習対象としてドングリや松ぼっくりといった秋の木の実，作るおもちゃ，あそびを取り扱う場合は，それぞれの文言を使用し，学習活動を考慮しながら設定します。ここでは，秋の自然物でおもちゃをつくったり遊んだりする活動を中心に設定しています。

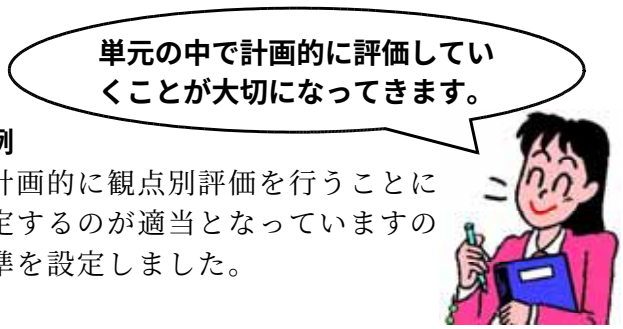
◎参考資料を基に設定した単元の評価規準例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
秋の木の実や葉っぱといった自然にかかわったり，秋の自然を利用して友達と一緒に楽しく作ったり遊んだりしようとしている。	秋の木の実や葉っぱといった自然とのかかわり方を考え，秋の自然を利用して遊ぶものを工夫して作ったり，友達と楽しく遊ぶための方法を考えたりして，それをすなおに表現している。	秋の木の実や葉っぱといった自然とかかわることや友達と一緒に遊ぶと楽しいこと，秋の自然とかかわることができるようになった自分のよさに気付いている。

◎単元の評価規準を基に設定した評価規準の設定例

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・木の実や葉っぱに関心をもち，進んで探したり拾ったりしようとしている。 ・木の実や葉っぱを使って，おもちゃや遊びをつくろうとしている。 ・友達とかかかわりながら，みんなで楽しく遊ぼうとしている。	・諸感覚を使って，身近な自然を観察している。 ・木の実や葉っぱをもとに，遊びを考えたり使ってみたい物を見付けたりしている。 ・遊びを工夫したり，友達とかかわって遊んだりしたことを振り返り，自分なりの方法ですなおに表現している。	・身近な自然の様子や特徴に気付いている。 ・身近な自然や物を利用して遊べることに気付いている。 ・友達とかかわって遊ぶ楽しさ，友達の良さや自分との違いに気付いている。

小学校生活科における学習評価事例１



■　**単元全体を通した，学習評価の進め方が分かる事例**

・事例１の単元では，14時間の学習計画を立てて，計画的に観点別評価を行うことにしました。１単位時間に１～２つの評価規準を設定するのが適当となっていますので，ここでは，１つの活動に対して１つの評価規準を設定しました。

1　単元名　わくわく　どっきどき　たんけんたい　第２学年　内容(３)「動植物の飼育・栽培」

2　単元の目標

自分たちが生活している地域の様々な場所や人々とかかわる中で，自分の生活は様々な場所や人々とかかわっていることが分かり，それらに親しみをもちながら適切に接することや安全に気を付けながら生活することができるようにする。

3　単元の評価規準　**※学習活動(小単元)における評価規準とは，小単元における学習活動の評価規準を示す。**

		生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準		自分が生活している地域の公共施設や自然，それらを支えている人々関心をもち,親しみや愛着をもって，それらと適切にかかわったり安全に気を付けながら，友達と一緒に探検しようとしている。	自分が生活している地域を探検する中で，地域の公共施設や自然，それらを支えている人々と適切にかかわることや，安全に生活することについて自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。	自分が生活している地域の公共施設や自然，それらを支えている人々にかかわっていく中で，自分の生活がそれぞれとかかわりをもっていることが分かり，地域のよさに気付いている。
学習活動(小単元)における評価規準	1	①自分が生活している地域の場所や人々に関心をもち，かかわろうとしている。	①探検したい場所や相手に応じた行動について考え，探検の計画や約束を決めたりしている。	
	2		②その場に応じた行動を心掛けながら活動している。	①地域には，様々な場所があることや，そこで働く人々がいることに気付いている。 ②地域にある様々な場所や人々が，自分の生活を支えていることに気付いている。
	3	②１回目の探検を基に２回目の探検についての楽しみながら計画を立てようとしている。 ③地域にある様々な場所や人々と，楽しくかかわろうとしている。		
	4		③探検で分かったことや楽しかったこと，工夫したことについて，自分なりにすなおに表現している。	③地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたこと，かかわり方が変わった自分に気付いている。

4　単元の指導と評価の計画(14時間)

小単元名 (時数)	主な活動	評価規準	評価方法
1 自分の町を紹介しよう （3）	[小単元の目標]自分たちが生活している地域の様々な場所や人々に関心をもち，探検したい場所や会ってみたい人々を選び，探検の計画を立てることができるようにする。		
	○自分が生活している地域の場所や人などについて紹介する。	**関①**：自分が生活している地域の場所や人に関心をもちかかわろうとしている。	**発言内容･行動観察** 地域の様子について発言している内容や様子，発言している子どもの表情や行動(笑顔･身を乗り出す等)を見取る。
	○探検したい場所や会ってみたい人を決め，町探検の計画を立てる。	**思①**：探検したい場所や相手に応じた行動について考え，探検の計画や約束を決めたりしている。	**計画書の内容・発言内容** 自分が探検したい場所や人を選び，探検で調べたいことや聞きたいこと等にあげている内容を見取る。
2 自分の町を探検してみよう （5）	[小単元の目標]町探検を通して，地域にある様々な場所を訪問したり利用したりすることを通して，自分たちの生活は様々な場所や地域で生活したり働いている人々とかかわっていることなどが分かるようにする。		
	○グループで協力し合いながら，町探検を行う。	**思②**：その場に応じた行動を心掛けながら活動している。	**行動観察・発言内容** 安全に気を付けながら行動している姿やインタビューをするときの態度，グループで話し合っているときの発言内容を見取る。
	○見たことや聞いたことを，学習カードに記録する。	**気①**：地域には，様々な場所があることや，そこで働く人々がいることに気付いている。	**学習カードの記述内容・発言内容** 学習カードに書かれている施設の楽しさや，その施設で働いている人の思いなどから読み取る。
	○探検を通して発見したことや分かったことを紹介する。	**気②**：地域にある様々な場所や人々が，自分の生活を支えていることに気付いている。	**発表内容・紹介ボードの記述内容** 探検したグループで発表した内容や，質問に答えている内容，紹介ボードに記述されている内容などから読み取る。
3 もっとくわしく調べてみよう （4）	[小単元の目標]２回目の町探検を通して，地域にある様々な場所や人々について，もっと調べたいことや，やってみたい決め，自分の地域に親しみがもてるようにする。		
	○もっと調べたいことや，やってみたいことを決め，探検の計画を立てる。	**関②**：１回目の探検を基に２回目の探検についての楽しみながら計画を立てようとしている。	**行動観察・発言内容** グループで協力し合いながら計画を立てている様子や発言内容を見取る
	○２回目の町探検で，新たに聞いたことや分かった	**関③**：地域にある様々な場所や人々と，楽しくかか	**行動観察・発言内容** 地域の場所や施設，人々とかか

	ことを，学習カードに記録する。 課外(時間外)においても，地域でのかかわりが考えられる。	わろうとしている。	わっている姿やそのときの発言内容，休日等の活動の中で分かったことの報告から見取る。
4 分かったことを紹介しよう （2）	[小単元の目標]町単元を通して，地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたことやかかわり方が変わったことに気付き，これからも地域の場所や人々にかかわり続けようとすることができる。		
	○２回目の探検を通して発見したことや分かったことを紹介する。 ○これまでの探検を振り返り，分かったことや感じたことを学習カードに書く。	**思③**：探検で分かったことや楽しかったこと，工夫したことについて，自分なりにすなおに表現している。 **気③**：地域のよさや親しみを感じる場所や人々が増えたこと，かかわり方が変わった自分に気付いている。	**発表内容・発表方法** 発表内容や発表ボードに書かれている内容から，活動の中で考えたことや工夫していたことなどを聞き取る。 **作文内容** 作文に書かれている内容から，自分の変化について書かれていることを読み取る。

小学校生活科における学習評価事例２

■　一単位時間の中で，指導に生かすための評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために　収集する評価との違いが分かる事例

○単元名　みつけた　あきで　あそんじゃえ　第１学年　内容(５)「季節の変化と生活」
(６)「自然や物を使った遊び」

本単元は，17時間計画の単元である。まず，身の回りの秋の様子について興味･関心をもたせ，秋の公園などで十分遊ばせる。その後，秋を感じる木の実や木の葉などを集め，それらを使って遊ぶものや飾るものを作ったり，遊んだりする。ここでは，作ったり遊んだりする活動の展開案を基に説明する。

１　本時の目標

作ったり遊んだりしながら見付けた作り方や楽しさの秘密を，ワークシートにことばや絵ですなおに表現することができるようにする。

２　本時の評価規準

作り方や遊び方，友達と楽しく遊ぶことについて振り返り，自分が考えたり工夫したりしたことを，自分なりの絵やことばですなおに表現している。　(活動や体験についての思考・表現)

3　本時の指導と評価の計画

主な学習活動	◇主な評価の方法の具体例とその進め方
○身の回りある秋のものを使って，おもちゃや飾るものを作ったり，作ったもので遊んだりする。	ここでは，本時の目標を達成するために，形成的な評価を行う。主な方法と見取っていく姿としては，以下の通りである。 **行動観察・発言内容** ・動きを確かめながらおもちゃを作っている。 ・自分の思いに合った木の実や木の葉を選びながら，飾りを作っている。 ・作ったおもちゃを使って遊んでいる。 具体的には，材料を見比べている姿や，友達と一緒に遊んでいる姿，遊んだ後に作り直している姿などを観察する。また，活動内容については，必要に応じて児童に問い掛けをするなどしながら，児童の活動を正確に把握していく。 この段階で，活動が滞っている児童や一人で遊んでいる児童に対しては，次のような支援を行い，活動の活性化を図る。 **支援例** **・どんなことにつまずいているか問い掛け，同じような活動をしている児童を紹介する。** **・ヒントコーナーを設定している場合は，ヒントコーナーを参考にするよう促す。** **・すでにおもちゃで遊んでいる児童を紹介したり，競争して遊ぶことを促したりする。** 上手に作り上げることではなく，楽しく作ることや遊ぶことを通して，秋の楽しさに触れさせることが大切である。そのため，必要に応じて友達と一緒に作ることを促すことも大切な支援である。 ここで見取ったことは，本時の目標を評価する際に生かすことができるので，必要に応じて記録しておくことも大切である。
○作ったり遊んだりした活動を振り返り，作り方や遊び方で自分が考えたことや工夫したこと，また，作ったり遊んだりして楽しかったことを，自分なりにすなおに表現する。	**◇ワークシートの記述内容・ワークシートに記述する様子** 「おおむね満足できる」状況(Ｂ) ・考えたことや工夫したこと，楽しかったことをワークシートに絵やことばで表現している。 ここでは，おもちゃや飾りの作り方や遊び方について，また，楽しかったことに対する記述について評価していく。低学年の児童は，語彙が少なく簡単な表現で書き表すことが多い。必要に応じて，児童に問い掛けたり，活動の様子について振り返らせたりする。また，「努力を要する」（Ｃ）の児童を出さないためにも，かき表すことができないでいるの児童に対しては，これまでに見取ったことを基に児童の活動の様子について話したり，活動の様子を写した写真を見せたり，ワークシートを読み返させたりしながら，どのような活動をしていたか振り返らせることが大切である。 ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価のために収集する評価になるので，確実に記録として残す。

小学校生活科における学習評価事例３

■「身近な環境や自分についての気付き」の評価の進め方が分かる事例

○**単元名**　おやさい いっぱい 大さくせん 第２学年 内容(７)「動植物の飼育・栽培」

本単元は，17時間計画の単元である。まず，育てたい野菜を決め，その種や苗を植える活動を行う。その後，野菜の世話を通して，野菜の成長の様子や野菜を育てる楽しさに触れさせるようにする。そして，成長した野菜を収穫したり食したりする喜びを味わわせるようにする。ここでは，育てていく過程においての展開案をもとに説明する。

１　本時の目標

これまで行ってきた野菜の世話について紹介し合わせることで，それぞれの野菜に合った世話の仕方があることに気付かせる。

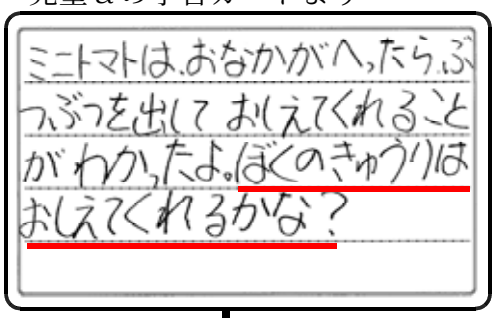
２　本時の評価規準

友達の育て方と自分の育て方を比べることで，育てている野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。　(身近な環境や自分についての気付き)

３　本時の展開と評価のポイント

主な学習活動	◇主な評価方法とその具体例
１　自分の世話の仕方について確かめる。 ２　二人組になってお互いの世話の仕方を紹介し合う。 ３　違う野菜を育てている友達にお互いの世話の仕方を紹介し合う。 ４　交流をしていく中で分かったことや発見したことを発表する。 ５　次の活動で取り組んでみたい世話の仕方について学習カードに書く。	**◇学習カードの記述内容･交流活動での発言の内容** まず，紹介するために準備している学習カードに記述している内容については，本時の前までに把握しておくことが大切である。その内容によってペアリングやグループピングを行えば，教師がねらう気付きの深まりや広がりが期待できる。 本時においては，友達の世話の仕方と比べさせることで，それまで無自覚だった活動を自覚させたり，野菜の世話の仕方について共通点や相違点があること等に気付かせる。 ここでの評価は，学習カードの記述内容だけでなく，交流中の「あっ，それ僕もやった。」や「へえ，僕と違うね。」といった発言なども見取るようにすることで，より正確な評価へとつなげる。

・児童ａの学習カードより



児童ａは，交流を通して、ミニトマトの世話の仕方について「おなかがへり(肥料が足りなくなり)茎からブツブツが出た」ときは，肥料をあげるとよいことを知った。また，学習カードの下線にある「おしえてくれるかな」から，自分のきゅうりの成長の様子と比べていることがうかがえる。児童ａは，ミニトマトの世話の仕方をきゅうりの世話に生かそうとしていると考える。

・交流中の児童ａの発言より

ミニトマトの世話の仕方の紹介に対して，「きゅうりと違う。」や「えっ，きゅうりにはなかったよ。」と発言していることから，きゅうりの成長の様子を振り返り，野菜の成長の仕方の違いに気付いていることがうかがえる。

児童ａの学習カードと発言内容から，それぞれの野菜にあった世話の仕方があることには気付いていないが，世話の仕方の違いにつながる感想を書き記していることから「おおむね満足できる」状況(Ｂ)であると判断した。

小学校生活科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　生活科では，気付きの質を高めることが求められていますが，そのための学習活動として，具体的にどのようなものがありますか。また，どう評価していけばよいですか。

Ａ　今回の学習指導要領の中で，気付きの質的な向上として次の三つが挙げられています。

①　無自覚なものから自覚したものへ

②　単独の気付きから関連付けられた気付きへ

③　対象への気付きから自分自身の成長への気付きへ

それぞれについて考えられる学習活動と評価を紹介します。

①　無自覚なものから自覚したものへ

これは，「あっ！」ということばで表すことができるでしょう。つまり，無意識に行っていたことを，活動を振り返ったときや他者のことばなどによって，明確になった気付きを指します。この，「あっ！」を促す活動としては，授業や単元の終末に行っている「振り返り表現する活動」があります。ここでは，自分が考えたことや工夫したことなどを振り返らせ，ことばや絵で表現させることで，自覚を促します。

他にも，友達の紹介や発表を自分の活動と比べさせることで自覚させることも考えられます。例えば，行ってきた活動について紹介する場を設定し，自分のものと友達のものとを比べさせることで，自分が自覚していなかったことを自覚させることもできるでしょう。

②　単独の気付きから関連付けられた気付きへ

関連付けられた気付きへと高まるためには，繰り返し対象にかかわる時間を保証してあげることが重要です。対象にかかわる時間が少なければ少ないほど対象に対する気付きでとどまってしまいがちになります。そのため，単元計画の段階において繰り返し対象とかかわることができるように単元構成を工夫しておくとよいでしょう。

例えば栽培活動においては，「お水をあげたら，元気になったよ」という気付きは，繰り返し対象とかかわっていく中で，水を与える前と後を比べ「元気になった」ことに気付いています。つまり，「元気になった」という現象と「お水をあげた」という行為を関連付けていると考えられます。このように，活動を繰り返すことは対象とのかかわりを深め，関連付けられた気付きへと高めていくことにつながります。

③　対象への自分自身の成長への気付きへ

代表的な学習活動としては，「ポートフォリオによる振り返り」があるでしょう。これまでの活動を振り返ることで，たくさんのことを考えたり工夫したりしている自分や育て上げたり作り上げたりした自分に気付くことができます。

また，単元の終末に振り返り表現する活動を設定することもいいでしょう。これまでの活動を楽しく表現させることで，自分の成長を楽しんだり喜んだりすることにもつながります。自分の発表だけで終わらず，このような活動の中に他者から評価してもらう場面を設定すれば，自分が気付かなかった成長にも気付くことができるでしょう。

以上のような活動を設定することで，気付きの質的な向上を図っていきます。

これらの気付きを評価するにあたっては，学習カードに書き記していることを中心に評価していきます。しかしながら，低学年という発達段階を考えたとき，単に記述内容のみで評価をしていくだけでは，児童の気付きを正確に評価したことにはなりません。日頃の発言内容を記録しておいたり，記述した内容に対して問い掛けたりしながら評価していく必要があります。

また，上記③にもあるように，対象への気付きから自分自身への気付きへと高めていく必要もあります。児童の発言内容に対して「～ができるようになったんだね。」「～が分かるようになったね。」などと，児童の成長につながるような声掛けも大切になってきます。

Q　児童が自主的に行った授業以外での活動を，どのように評価すればよいのでしょうか。

A　児童は，活動に対する興味や関心が強ければ強いほど，授業以外での活動が活発になってきます。例えば，おもちゃ作りに取り組んでいるときには，休み時間や帰宅後の時間を利用しながらおもちゃ作りに没頭することでしょう。また，休み時間になると，作ったおもちゃを使って夢中で遊んだりもします。このような児童の様子は，活動に対する意欲の表れとして評価することができます。

また，町探検においても，自ら地域に出かけ施設を利用してみたりインタビューを行ったりする場合が出てきます。そのような児童は，新たに分かったことや楽しかったことを，決まって報告に来たりするものです。そのようなときは，児童の話に耳を傾け，内容によっては，地域に対する気付きとして評価することができます。

栽培活動においては，芽が出た瞬間や花が咲いた瞬間の児童の思いや成長への気付きを大切にしたいものです。低学年の児童は，その瞬間を発見したときには，感動し，すぐに報告したがります。しかし，伝えることを苦手としている児童もいることでしょう。そこで，成長に対する気付きなどをいつでも記録できるように，学習カードを常備しておくことも大切な手立てとなります。そこに記録されている内容は，評価の対象とし，評価していくだけでなく，児童に活動の記録として保存させておきましょう。

生活科では，学んだことを自分の生活に生かしていくことを大切にしながら指導していきます。授業以外でも活動している児童の姿は，自分の生活に生かそうとしている姿とも取れます。授業の延長と捉え，設定した評価規準に照らし合わせながら評価していくことが大切です。

Q　「活動や体験についての思考・表現」を評価するとき，どのようなことを見取っていけばよいのでしょうか。

A　今回，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」にある「評価の観点及びその趣旨」に書かれている文言を見てみると，「具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。」とある。そこでこの観点では，児童がどのようなことを考え，どう工夫しているのかを見取っていきます。

例えば，栽培活動を行っている場面においては，活動当初，児童は毎日水やりをしようと考えていることでしょう。しかし，活動を繰り返していく中で，土が乾いたときにだけ水やりをしていくようになる児童も現れます。ここには，児童なりの考えや工夫が表れています。行動だけでは評価できない場合には，児童に問い掛けるなどしながら評価していきましょう。

おもちゃ作りの場面においては，設計図に書かれている内容と実際に活動している姿との違いからも見取ることができます。設計図には，活動当初の児童の考えが記されています。活動を繰り返しながら試行錯誤していく中で，作り方や材料を工夫していきながら，児童が思い描いていた活動と違う活動をするようになることでしょう。ここに，児童なりの考えや工夫が表れています。児童の活動当初の様子と現在の様子とを見比べていくことで，児童の思考と表現を見取ることができるでしょう。

また，発表の場面においては，単に発表の出来映えで評価するのではなく，児童なりの表現方法で，発表したい内容を自分のことばで表現できているかを見取り，評価していきましょう。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」(小学校)などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　音楽科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校音楽科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校音楽科における学習評価の進め方
4　小学校音楽科における学習評価事例
5　小学校音楽科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領における学習評価はこのようになります

◇新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◇各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況に関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◇新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を，言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　音楽科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに，音楽活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う。

⇒これまでの理念を引き継いでおり，音楽科の教科目標は変わっていません。

2　評価の観点及びその趣旨

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ，音や音楽に対する関心をもち，音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け，歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え，味わって聴いている。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」の観点は，「音楽表現の創意工夫」として，表現領域における評価の観点となります。

○　これまでの「表現の技能」の観点は，思考・判断したことを言語表現することと区別するために「音楽表現の技能」となりました。

○　「鑑賞の能力」の観点は，文言の変更はありませんが，これまで「音楽的な感受や表現の工夫」で評価していた鑑賞における音楽的な感受の部分も合わせて，この観点で評価することとなりました。

3　学年別の評価の観点の趣旨

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1・2学年	楽しく音楽にかかわり，音や音楽に対する関心をもち，音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け，歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，楽曲や演奏の楽しさに気付き，味わって聴いている。
第3・4学年	進んで音楽にかかわり，音や音楽に対する関心をもち，音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし，歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，楽曲の特徴や演奏のよさに気付き，味わって聴いている。

第5・6学年	創造的に音楽にかかわり，音や音楽に対する関心をもち，音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め，歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり，楽曲の構造，楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして，味わって聴いている。

小学校音楽科における学習評価の進め方

1　評価規準の設定例と各観点の評価方法について

小学校音楽科の内容のまとまりごとの評価の観点は？

「A表現」歌唱・器楽・音楽づくり ⇒ 【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】の学習状況を評価します。

「B鑑賞」 ⇒ 【音楽への関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】の学習状況を評価します。

評価規準は，どうやって設定するの？

各学校において，評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）に示されている評価規準の設定例を参考にして，教材等の特徴に即して，その記述を具体化したり，必要に応じて，いくつかの設定例を参考にしたりすることにより，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

評価規準の設定例の下線部を，教材に即して具体化することにより，次のように評価規準を設定できます。

〈評価規準の設定例〉（第５学年及び第６学年：「A表現・歌唱」【音楽表現の創意工夫】

音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の内容，曲想などを生かした表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

例えば，第６学年の歌唱教材「われは海の子」では

〈設定した評価規準〉【音楽表現の創意工夫】

「われは海の子」のリズム，旋律，強弱，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す情景や気持ち，曲想などを生かした表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。

各観点の評価方法は？

☆【音楽への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が学習内容に興味・関心をもち，歌唱，器楽，音楽づくり，鑑賞の学習に自ら取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった学習状況を評価するものです。

単に，挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しや忘れ物の有無などだけで見るのではなく，その授業の指導目標や学習活動を踏まえて，学習の対象に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。

この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。

⇒例えば，行動の観察，発言の内容，学習カードの記述，演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【音楽表現の創意工夫】は，どうやって評価するの？

この観点は，音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度　等）を聴き取り，それらの働きによって生み出されるよさや面白さ，美しさ等を感じ取ることを支えとしながら，児童がいろいろと考えながら表現を試すなどして，音楽をどのように表すかについての思いや意図をもつことができているかどうかといった学習状況を評価するものです。

音楽をどのように表すかといった思いや意図の評価については，言語，音，楽譜，体の動きなどで見取ることができます。

例えば，「強弱」に着目し，「だんだん音量が大きくなっている」ことを聴き取り，感じ取った上で「必ず夢が叶うという気持ちが高まっているのを表すためにだんだん強く歌いたい」等のように，音楽表現をどのように工夫するかということについての思いや意図をもっているかどうかを評価します。

⇒例えば，学習カードの記述，発言の内容，児童との対話，演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【音楽表現の技能】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が実際に歌ったり，楽器を演奏したり，音楽をつくったりしている様子から，音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けて，実際に音楽で表すことができているかどうかといった学習状況を評価するものです。

正しい指づかいでリコーダーが演奏できているとか，正しい音程で歌うことができているといったような技術だけではなく，「こういうふうに表現したい」という思いを音楽で表すのに必要な技能を身に付けて音楽表現しているかどうかを評価することが大切です。

⇒例えば，演奏の聴取等で見取ることができます。

☆【鑑賞の能力】は，どうやって評価するの？

この観点は，音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを聴き取り感じ取って，楽曲全体の構造や特徴と関連付けて理解できているかどうかを評価するものです。

感想をたくさん書くことができたとか，作曲者名を覚えることができたとかということではなく，その授業の指導目標や学習活動を踏まえながら，〔共通事項〕事項アの学習を支えとして，楽曲全体を味わって聴くことができているかどうかを評価することが大切です。

例えば，「この曲は，うきうきした感じがしたが，それは，リズムが弾んだ感じで速度が速くなったから」といったように，聴き取り感じ取ったことを言葉等で表すことができ，そのことから楽曲の特徴や演奏のよさなどを考えることができるようなことが求められます。

⇒例えば，発言の内容，学習カードの記述，紹介文の記述等で見取ることができます。

小学校音楽科における学習評価事例　1

■　題材全体を見通して，学習評価の進め方が分かる事例

事例１の題材では，歌唱・器楽教材として「こぎつね」（勝　承夫日本語詞/ドイツ民謡），鑑賞教材として「人形のゆめと目ざめ」（オースティン作曲/佐井孝彰編曲）を扱います。いずれも様子や気持ちを想像し，楽曲の気分を感じ取りやすい教材です。学習指導要領の内容は，「Ａ表現」(1)歌唱の指導事項ア，イ，ウ，(2)器楽の指導事項イ，ウ，「Ｂ鑑賞」(4)鑑賞の指導事項ア，〔共通事項〕のうち旋律，拍の流れやフレーズ，反復などを扱います。６時間の学習計画を立て，バランスよく観点別評価を行うことにしました。ここでは，１単位時間に１つ～２つの評価規準を設定しています。

１　題材名　　ようすをおもいうかべて　　第２学年「Ａ表現・歌唱」「Ａ表現・器楽」「Ｂ鑑賞」
教材名　「こぎつね」歌唱・器楽　　「人形のゆめと目ざめ」鑑賞

２　題材の目標

○　楽曲の気分を感じ取りながら,想像豊かに聴いたり,思いをもって表現したりすることができるようにする。

３　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①「こぎつね」の歌詞の表す様子や気持ちを想像したり，楽曲の気分を感じ取ったりし，思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関―①歌唱】 ②「こぎつね」の楽曲の気分を感じ取り，思いをもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【関―②器楽】 ③「人形のゆめと目ざめ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。【関―③鑑賞】	①旋律，拍の流れやフレーズ，反復を聴き取り,それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，歌詞の表す様子や気持ちを想像したり,楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し,どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。【創―①歌唱】 ②旋律，拍の流れやフレーズ，反復を聴き取り,それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，楽曲の気分を感じ取って表現を工夫し,どのように演奏するかについて自分の考えや願いをもっている。【創―②器楽】	①自分の歌声や発音に気を付けて，歌詞の表す様子や気持ち，楽曲に合った表現で歌っている。【技―①歌唱】 ②「こぎつね」の旋律を拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏している。【技―②器楽】	①「人形のゆめと目ざめ」の様子を思い浮かべたり，速度や強弱，楽曲の気分の変化を感じ取ったりしながら聴いている。【鑑―①】

４　題材の指導と評価の計画（全６時間）

○学習内容　・活動	評価規準	評価方法の具体（◇）とその進め方（・）
第１時　「Ｂ鑑賞」 ○楽曲の気分を感じながら,「人形のゆめと目ざめ」を聴く。 ・気付いたことを発表する。 ・音楽に合わせて体を動かす。	**【関―③鑑賞】**	**◇発言の内容・行動の観察・児童との対話** ・音楽を聴いて，速度の変化とともに変わっていく楽曲の気分についての発言の内容（だんだん速くなっているから，人形が目覚めた感じがする等）を見取る。 ・音楽に合わせて体を動かしている様子（歩く・スキップをする・体を揺らす等）を補助簿に記録しておく。 ・「どうしてそう感じたの？」と問いかけ，聴き取った音楽を形づくっている要素について自分なりの言葉で積極的に話しているかどうかを見取る。

第２時　「Ｂ鑑賞」 ○場面ごとの人形の様子を想像しながら「人形のゆめと目ざめ」を聴く。 ・楽曲の気分が変わるところで人形の絵を挙げる。 ・人形の気持ちを発表する。	【鑑―①】	◇発言の内容・行動の観察・学習カードの記述 ・場面ごとの人形の様子や気持ちについて想像するとき，速度や強弱，楽曲の気分の変化に気付いて，楽しんで音楽を聴き,楽曲の気分が変わるところで人形の絵を挙げることができているかどうかを見取る。 ・「どうしてそう感じたの？」と問いかけ，発言の内容や学習カードの記述に，聴き取った音楽を形づくっている要素について，音楽の特徴と関連付けて，文や言葉で表すことができているかどうかを評価する。
第３時　「Ａ表現・歌唱」 ○「こぎつね」の曲の気分を感じ取って歌う。 ・１～３番の情景やこぎつねの気持ちを捉える。 ・範唱に合わせて歌詞唱する。	【関―①歌唱】	◇行動の観察・発言の内容・演奏の聴取 ・こぎつねの気持ちやその周囲の様子について考えたことを積極的に発言しようとする姿を見取る。 ・発言の内容に見られる学習内容への関心,友達の発言に対する反応,歌っているときの表情や体の動きの観察,歌声の聴取から見取る。補助簿に記録しておく。
第４時　「Ａ表現・歌唱」 ○「こぎつね」の曲の気分に合った歌い方を工夫して歌う。 ・フレーズごとや場面ごとなど,分担して歌詞唱する。 ・１～３番の歌詞の表す様子や気持ちで歌い方を工夫する。 ・「やまのなか」「ふゆのやま」「あなのなか」の繰り返しの部分の歌い方を工夫する。	【創―①歌唱】 【技―①歌唱】	◇学習カードの記述・発言の内容・演奏の聴取 ・「こぎつね」の歌詞の表す気持ちにあわせてイメージを膨らませたり,「やまのなか」「ふゆのやま」「あなのなか」の繰り返しの部分を強弱や歌い方を工夫したりするなど,音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きに気付いているかどうか,表現したい思いが表れているかどうかを学習カードの記述や発言の内容，歌っているときの表情や体の動き,歌声の聴取から見取る。
第５時　「Ａ表現・器楽」 ○「こぎつね」の旋律を拍の流れにのって，楽曲の気分に合わせて演奏する。 ・階名で模唱したり階名唱をしたりする。 ・拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏する。 ・こぎつねの気持ちになって歌ったことを思い出して演奏する。	【関―②器楽】 【創―②器楽】	◇演奏の聴取・発言の内容 ・範唱を聴いて階名模唱したり,楽譜の階名を読んで階名唱したりしたあと,階名暗唱した旋律を拍の流れにのって鍵盤楽器で演奏している様子から見取る。 ・歌を歌っているときと同じような気持ちでフレーズを感じたり，強弱を工夫したりして「こぎつね」の気持ちに合う表現で演奏しようとしているかどうかなどの発言の内容を補助簿に記録しておく。
第６時　「Ａ表現・歌唱」「Ａ表現・器楽」 ○工夫したことを生かして気持ちをこめて「こぎつね」を歌ったり楽器を演奏したりする。 ・グループや全体で演奏する。	【技―②器楽】 【技―①歌唱】	◇演奏の聴取 ・こぎつねの様子をまねしながら歌ったり,繰り返しの部分をよびかけ合ったりするようなイメージで強弱を工夫して歌ったり演奏したりするなど,実際の演奏で音楽表現できているかどうかを見取る。補助簿に記録しておく。

小学校音楽科における学習評価事例　2

■　一単位時間の中で，指導に生かす評価と，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価の違いが分かる事例

題材名　　音の重なりを感じて　　第３学年「Ａ表現・器楽」　　教材名「パフ」

本題材は，扱い時数３時間の計画です。１時目は，曲の感じをつかんで主旋律を楽器で演奏することができるようにし，副次的な旋律についても親しみます。２時目は，互いの音を聴き合いながら，グループで演奏の工夫をすることができるようにします。本時である３時目は，楽器が重なり合う響きを感じ取りながら，合奏することができるようにする展開案です。

１　本時の目標

○　友達の楽器の音や伴奏を聴きながら，自分の音を合わせて合奏をし，楽器が重なり合う響きを感じ取りながら，「パフ」の合奏をすることができるようにする。

２　本時に位置付けた評価規準

○　友達の楽器の音や伴奏を聴きながら，自分の音を合わせて「パフ」の合奏をしている。

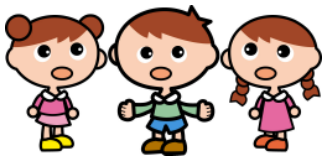
【音楽表現の技能】

３　本時の指導と評価の計画

○学習内容　・学習活動	評価方法の具体（◇）とその進め方（・）
○重なり合う音の響きに気を付けてグループごとに演奏をする。 ・グループで，前時に考えた工夫したいと考えたことを確認して，楽器の重なり合う音の響きに気を付けながら発表に向けて練習する。	**◇グループ活動の観察・グループ活動における演奏の聴取** **「おおむね満足できる」状況（Ｂ）** **・友達の音を聴いて合わせようとしている。** **・楽器の音色や音量のバランスなどに注意して演奏している。** ・具体的には「体で拍を感じている」「アイコンタクトをとって合わせようとしている」などの姿を観察したり，実際の演奏を聴取したりして，「十分満足できる」状況（Ａ）と「おおむね満足できる」状況（Ｂ）にある児童については，できるだけ補助簿などに記録しておく。 ・この時点で「努力を要する」状況（Ｃ）にある児童については， **支援：**同じパートの友達の近くで音を聴きあいながら演奏させたり，速度を落として練習するよう助言したりする。自信をもって演奏できているところについては，合わせて演奏したときの重なり合う音の響きに気付かせるようにする。 ・必要に応じて，うまくできているグループを全体の場で紹介し，よい点などを具体的に評価して，他のグループのモデルとすることなどが考えられる。

	・リコーダーの基礎的な技能や読譜の状況などに課題があると思われる児童については，あらかじめ本時の以前に個別指導等の対応をしておくことなどが大切である。 **ここでは，主に「十分満足できる」状況（A）と「おおむね満足できる」状況（B）の記録をするとともに，形成的な評価に基づく適切な指導を行う。**
○グループ発表会を開き，学級のみんなの前でグループごとに演奏する。 ・各グループとも，工夫する点を紹介してから演奏し，そのよさを学級で共有する。 ・演奏を聴いたグループの代表は演奏についての感想を述べる。	◇演奏の観察・演奏の聴取 ・グループごとに演奏させる際には，特にグループ活動のときに「努力を要する」状況（C）にあった児童を中心に評価する。また，「おおむね満足できる」状況（B）にあった児童についても，グループ活動のときの演奏に比べて進歩が見られれば，改めて補助簿に記録する。 **ここでの評価は，通知表や指導要録の観点別評価の判断のために収集する評価であるので確実に記録に残す。また，ここですべての児童について，最低でも「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるように，それまでに形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っておくことが大切である。**
○楽器が重なり合う響きを感じ取りながら，学級全員で合奏をする。 ・学級全員で合わせて演奏し，学級全員での合奏を楽しむ。	・ここでは，本題材の学習のまとめとして，学級全員で合奏を楽しむことを目的とする。楽器が重なり合う響きを感じ取らせながら楽しく合奏させて，今後の意欲につながるようにする。 **ここでは学級全員での演奏について，今後の励みとなるようなコメントをすることなどが考えられるが，個別の児童についての評価は必要としない。**

小学校音楽科における学習評価事例　3



■　「音楽表現の創意工夫」の評価の進め方が分かる事例

第４学年において，歌唱教材「ゆかいに歩けば」を取り上げて，旋律や曲の特徴を生かして，曲想にふさわしい表現の仕方を工夫しながら歌う学習を展開する場合の評価方法について示します。

題材名　　旋律の特徴を感じて　　第４学年「Ａ表現・歌唱」　　教材名　「ゆかいに歩けば」

本題材は，扱い時数３時間の計画です。１時目は，旋律の特徴を聴き取り感じ取って，主旋律を歌うことができるようにし，本時である２時目は，旋律の特徴を生かして，どのように歌うのか表現の工夫をすることができるようにする展開案です。３時目は，下のパート（低声部）も歌って曲想を生かして二部合唱することができるようにします。

１　本時の目標

○　旋律の特徴を生かして，「ゆかいに歩けば」の主旋律の歌い方を工夫することができるようにする。

２　本時に位置付けた評価規準

○　「ゆかいに歩けば」の旋律，リズム，強弱を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて自分の考えや願い，意図をもっている。　【音楽表現の創意工夫】

３　本時の指導と評価の計画

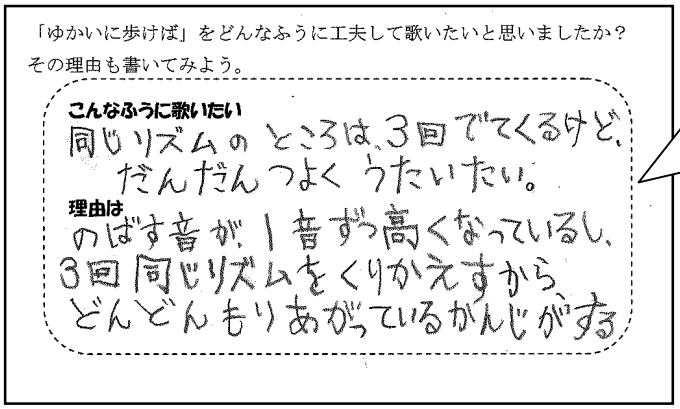
<table>
<tr><th>○学習内容　・学習活動</th><th>◇評価方法の具体とその進め方</th></tr>
<tr><td>○旋律の特徴を感じ取って，「ゆかいに歩けば」を歌い，歌い方を工夫する。

・個人で表現の工夫について考え，楽譜に書き込む。

・グループの友達と話し合いながら歌って試し，表現の工夫をする。

補助簿の例
◎…「十分満足できる」状況（A）
○…「おおむね満足できる」状況（B）
△…「努力を要する」状況（C）
<table><tr><th>番号</th><th>名前</th><th>児童の発言内容・行動観察</th><th>評価</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td>同じリズムに気付く
だんだん強く歌いたい</td><td>◎</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>気付きが言えない
楽譜を見ていない</td><td>△</td></tr></table>
○幾つかのグループの発表を聴き，交流をする。
・発表を聴いたグループは，感想を述べる。
○学級全員で合唱をする。
・全体で表現の工夫をして歌う。
・自分は，どのような表現の工夫にしたいのか学習カードに書く。</td>
<td>**◇発言の内容・行動の観察・学習カードの記述**
「おおむね満足できる」状況（B）
・どのように歌うかについて音楽的な根拠をもって，自分の考えや願い，意図をもっている。
前時までの学習で聴き取り感じ取ったことを基に，どのように歌いたいのかを個人で考えさせて，楽譜に書き込ませる。これは，評価を必要としない。
個人で楽譜に書き込んだことを基に，グループの友達と話し合いながら歌って試している場面で，発言の内容や行動の観察をする。
例えば，
「前半の弾んだ感じのところは，スタッカートの付いている音と付いていない音の歌い方を工夫しようとしている」
「なめらかな感じのところは，のばす音が１音ずつ高くなっていくごとに強弱を工夫しようとしている」
「歌詞がこのような情景だから，このように歌いたいと歌詞の内容に合う歌い方にしようとしている」
など，音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きに気付いているかどうか，表現したい思いが表れているかどうかの発言の内容や実際に歌って試している姿を評価する。このとき，「十分満足できる」状況（A）と「おおむね満足できる」状況（B）にある児童については，できるだけ補助簿に記録しておく。
本時の学習のまとめとして，自分はどのような表現の工夫にしたいのかを学習カードに書かせる。旋律，リズム，強弱，反復などの，音楽のよさや面白さを生み出している要素の働きと関連させて，どのように表現を工夫したいのか，思いが表れているかどうかを評価する。本時の評価は，学習カードの記述内容に準じて評価し，発言の内容も加味して評価する。</td></tr>
</table>

児童ａの学習カード


「ゆかいに歩けば」をどんなふうに工夫して歌いたいと思いましたか？
その理由も書いてみよう。

こんなふうに歌いたい
同じリズムのところは，3回でてくるけど，
だんだんつよくうたいたい。
理由は
のばす音が，1音ずつ高くなっているし，
3回同じリズムをくりかえすから
どんどんもりあがっているかんじがする

「同じリズムが繰り返されているところに気付いて，強弱を工夫しようとする」等，聴き取り，感じ取ったことを，音楽を形づくっている要素に触れながら，どのように歌うかという思いや意図について記述することができているのであれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

児童ａは，同じリズムが３回繰り返されていることを聴き取り，１音ずつ音が高くなるという旋律の音の動きを生かした強弱を工夫しようとしており，質的に高まっている状態といえる。授業中の発言と合わせて，「十分満足できる」状況（A）と判断した。

小学校音楽科における学習評価の進め方　Ｑ＆Ａ

Ｑ　これからは１時間に１回または２回程度，評価を行えばよいということですか。

Ａ　通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら，その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので，すべての児童が最低でも，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価できるようにしたいものです。そのためには，それまでの過程において，今まで通りに，児童の学習状況について，形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Ｑ　すべての児童の状況を評価するのは難しいと思いますが，何かよい工夫はないですか。

Ａ　１時間の中で，すべての児童について評価を行うのは確かに難しいと思います。「音楽表現の創意工夫」や「鑑賞の能力」の観点については，授業の終末などでワークシートに記述させるなどして，その記録をもって評価することなどの方法をとることも考えられます。しかしながら，「音楽表現の技能」については，実際に音楽表現をしている場面を観察したり，聴取したりして評価するしかないので，できるだけ簡便な教師用チェックリストなどを準備し，計画的に評価を進めることが大切です。

Ｑ　毎時間の評価の記録はどのようにすればよいですか？

Ａ　本時に位置付けた評価規準に基づいて，あらかじめ教師用チェックリストなどを作っておくとよいと思います。記録はできるだけ簡便にして（例えば，Ｂは空欄，Ａのみに○，Ｃは気になる点をメモなど），効率的に評価できるようにしておくといいと思います。

Ｑ　収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

Ａ　本事例では，観点ごとに１つまたは２つの評価規準を設定しています。題材における観点別の評価を総括する場合は，２つの評価規準を設定したとき，どちらかの学習状況を重視することもあり，重視するほうに重点を置いて評価することがあります。また，指導内容に即してどちらも同等に重要であるとするときは，同等に扱って総括することもあります。

　題材における観点別の評価の総括や，一定期間における観点別の評価の総括については，例えば，「Ａ表現」領域では，必要に応じて，歌唱，器楽，音楽づくりの活動分野ごとに観点別評価のデータを集約することも考えられるし，また，ＡＢＣを数値で表す方法もあります。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（小学校　図画工作科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校図画工作科における教科目標，評価の観点のその趣旨について
3　小学校図画工作科における学習評価の進め方
4　小学校図画工作科における学習評価事例
5　小学校図画工作科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　図画工作科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

表現及び鑑賞の活動を通して，**感性を働かせながら**，つくりだす喜びを味わうようにするとともに，造形的な創造活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う。

「感性を働かせながら」という文言が加わりました。
子どもの感覚や感じ方，表現の思いなど，自分の感性を十分に働かせることが大事ですね。

2　図画工作科における評価の観点及びその趣旨

図画工作科の評価を進めていくときには，まずは，その題材で何をねらうのか，どんな力をつけさせたいのかを決めることが大切です。４つの評価の観点と趣旨，各学年の評価の観点の趣旨は，以下のようになっています。

	第１・２学年	第３・４学年	第５・６学年
造形への関心・意欲・態度	**＜観点の趣旨＞** **自分の思いをもち，進んで表現や鑑賞の活動に取り組み，つくりだす喜びを味わおうとする。**		
	思いのままに表したり，作品などを見たりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	自分の思いで表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	自分の思いをもって表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	**＜観点の趣旨＞** **感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途などを考えたりしている。**		
	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，つくり方などを考えたりしている。	感じたことや見たこと，材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途などを考えたりしている。	感じたことや見たこと，材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途や構成などを考えたりしている。
創造的な技能	**＜観点の趣旨＞** **感覚や経験を生かしながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫している。**		
	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い，工夫して表している。	手や体全体の感覚を働かせながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫している。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，様々な表し方を工夫している。
鑑賞の能力	**＜観点の趣旨＞** **作品などの形や色などから，表現の面白さをとらえたり，よさや美しさを感じ取ったりしている。**		
	身の回りの作品などの形や色などから，面白さに気付いたり，楽しさを感じたりしている。	身近にある作品などの形や色などから，表現の感じの違いをとらえたり，よさや面白さを感じ取ったりしている。	親しみのある作品などの形や色などから，表現の意図や特徴をとらえたり，よさや美しさを感じ取ったりしている。

※　下線部は，各学年のポイントとなる部分。教育センターによる。

３　小学校図画工作科におけるこれからの学習評価のポイント

これまで・・・
作品の出来栄えや作業量の多さ，表し方の丁寧さなどだけで評価していなかったかな・・・。
作品全体を印象的に捉え，先生の主観性が強い評価になっていなかったかな・・・。

これからの図画工作科における評価のポイント

（１）指導事項（＝身に付けさせたい力）を明確にもって評価する。

題材の評価規準を設定する時に，その題材における学習活動が，どのような資質や能力を育てることになるのかを明確にすることが大切です。その時間でねらいとすることをしっかり焦点化して指導し，指導したことについて評価します。

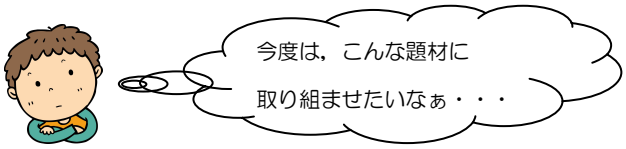
（２）作品だけでなく，活動のプロセスを見取る。

児童がもてる力を自由に働かせたり，新しいことを進んで試したりしているというような造形活動の様子の評価を充実させることが大切です。

４　評価規準設定の進め方　　～どうやって評価規準を設定するの？～

国立教育政策研究所で公開されている**「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）**を基に，必要に応じて評価規準の設定例の記述を具体化したり，いくつかの設定例を参考にして設定したりすることが大切です。具体的には，以下のような手順で評価規準を作っていきます。

＜手順１＞取り組みたい題材を決める



＜手順２＞「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にしてこの題材で育てたい力を決め

ここが大事！

→**「この題材でどのような能力を育成しようとするのか」**
「どのような事項を評価規準に盛り込むのか」を明確にする！

＜手順３＞「評価規準の設定例」を参考に「題材の評価規準」を作成する。

※　国立教育政策研究所
「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

小学校３年生「だんボール　切って　つないで」の例で具体的に評価規準を設定してみましょう

３ページの評価規準設定の進め方の手順に従って，小学校３年生の題材「だんボール　切って　つないで」を例に評価規準を設定してみましょう。この題材は，切った段ボールの形や身近な場所の特徴を生かして，組み合わせ方やつなぎ方を工夫して思い付いたことを表すというものです。

ここでは「造形への関心・意欲・態度」の評価規準を設定してみましょう。

＜第３・４学年の観点「造形への関心・意欲・態度」の例＞

＜手順１＞
取り組みたい題材を決めます。

今度の題材は，3年生の造形遊び
「だんボール　切って　つないで」にしよう。

＜手順２＞
「評価規準に盛り込むべき事項」の表現（１）の関心・意欲・態度の項目を確認します。

【「Ａ　表現（１）造形遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
身近な材料や場所などの形や色などに関心をもち，自分の思いで造形的な活動に取り組もうとしている。	身近な材料や場所などの形や色などを基に造形的な活動を思い付いたり，話し合いながら考えたりしている。	手などを働かせながら，材料や用具を使い，組合せ方やつなぎ方などを工夫している。

＜手順３＞
「評価規準の設定例」を参考にして，この題材の評価規準を設定します。

【評価規準の設定例】（関心・意欲・態度）

・新聞や袋などの材料で，教室や遊具などの身近な場所をつくりかえることに取り組もうとしている。
・自分の見付けた場所で，自然の材料を並べたり，木の枝をつないだりする活動に取り組もうとしている。
・木切れなどの材料を組み合わせたり，釘を打ったりすることを楽しもうとしている。
・段ボールや厚紙などの材料を切ってつなぐ活動を楽しもうとしている。

この題材で設定する
評価規準（例）

【造形への関心・意欲・態度】
段ボールを切ったり，つないだりすることを楽しもうとしている。

なるほど！こうやって評価規準を
作ればいいんだ！

評価規準の文末表現をみてみましょう

実際に評価規準を設定する際に分かりやすいように，４つの観点ごとの文末表現の例を挙げています。文末表現は，子どもの活動状況を表すキーワードでもあります。

■　**「造形への関心・意欲・態度」**
　→表現活動の場合　「～取り組もうとしている」「～楽しもうとしている」
　　鑑賞活動の場合　「～味わおうとしている」「～楽しもうとしている」

■ **「発想や構想の能力」**→「見付けている」「～思い付いている」「～考えている」

■ **「創造的な技能」**→「～工夫して表している」「～工夫している」

■ **「鑑賞」**→「～に気付いたり，楽しさを感じたりしている」
　　「～をとらえたり，感じ取ったりしている」

５　各観点の評価の方法

■「造形への関心・意欲・態度」は，どうやって評価するの？

自分の思いをもって，進んで表現や鑑賞の活動に取り組むことや，その過程や結果においてつくりだす喜びを味わっている児童の姿を評価します。挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意します。

⇒　発言や行動などの観察・ワークシートやレポートの作成・発表など

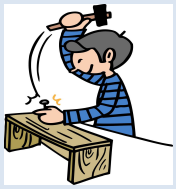
■「発想や構想の能力」は，どうやって評価するの？

形や色，材料，用途等を基に，自分の表したいことを思い付いたり，いろいろ考えながら表現に見通しをもったりしている児童の姿を評価します。

「発想や構想の能力」には，表現のはじまりにおける発想や構想，表現の過程における発想や構想を位置付けています。ですから，設定する題材のどの場面で，どのような方法で評価するのかということを明確にすることが大切です。児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などということは，児童の動きや視線，対話などからおおむね理解できます。

⇒　発言や行動などの観察・児童との対話・アイディアスケッチ・イメージマップ・ワークシートや感想文など　（Ｐ７～Ｐ９参照）

■「創造的な技能」は，どうやって評価するの？

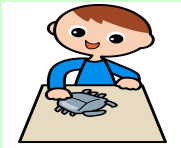


自分の表したいことに応じて，感覚や経験を生かしながら，材料を用いたり，表し方を工夫したりしている児童の姿を評価します。

作品をみる際には，作品の全体の印象だけでなく，作品の部分にも着目し，材料や用具をどのように使っているかなどを具体的に捉えることが大切です。

⇒　作品・発言や行動などの観察・製作過程の写真（Ｐ８参照）・ワークシートなど

■「鑑賞の能力」は，どうやって評価するの？



美術作品や自他の作品などの形や色から，表現の面白さを感じたり，よさを把握したりしている児童の姿を評価します。

「鑑賞の能力」を評価する際には，〔共通事項〕で示された形や色，イメージの視点から評価をするようにします。

⇒　発言や行動などの観察・ワークシートや感想文など

6　小学校図画工作科における学習評価事例　①　＜一題材のどこで何を評価するのか＞

事例①では，１つの題材のどの場面で，どの観点を，どのような方法で評価するのかということについてご紹介します！

1　題材名　　表し方をくふうしよう「わたしの思い出の場所」（５・６年）

2　題材の目標

○　自分の気に入っている場所や思い出の場所の美しさやよさを感じながら，表したいことに合った視点（構図）や表現方法を考えて，絵に表す。

3　題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①感じたことを大切にしながら，表したいことの主題を見付け，絵に表すことに取り組もうとしている。	①表したい主題に合った視点や画面の構成，配色等を考えている。 ②表したい主題に合った配色や描材などを考えている。	①表したいことを効果的に表現するために配色の仕方や筆の使い方などを工夫して表している。	①作品に込められた友達の思いや表現のよさや美しさを捉えている。

4　題材の指導と評価の計画（６時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	○　自分の気に入っている場所や思い出の場所のよさや美しさを考える。 ・　自分の気に入った場所や思い出の場所を探す。	①感じたことを大切にしながら，表したいことの主題を見付け，絵に表すことに取り組もうとしている。**（観察・対話・ワークシート）**			
2	○　表したい主題に合った視点や画面の構成を考えながら絵に表す。 ・　感じたことや伝えたいことを基に主題や表し方を構想して絵に表す。		①表したい主題に合った視点や画面の構成，配色等を考えている。 **（ワークシート・観察・対話）**		
3・4・5	○　表したことに合わせて材料や用具の特徴を生かしたり，いろいろな表現方法を組み合わせたりして，表し方を工夫する。 ・　表し方を工夫して絵に表す。		②表したい主題に合った配色や描材などを考えている。 **（観察・作品）**	①表したいことを効果的に表現するために配色の仕方や筆の使い方などを工夫して表している。**（観察・作品）**	
6	○　感じ方や表し方に共感したり，自分と比較したりして多様な見方をする。 ・　友達と作品について話し合う。				①作品に込められた友達の思いや表現のよさや美しさを捉えている。 **（観察・対話・ワークシート）**

どのようなことを感じ，どのようなことを伝えたいのか考えながら，色々な場所から見たり，見方を変えたりしながら描く場所を探しているか見取ります。児童の様子を観察したり，対話したりして学習の状況を捉えるとよいでしょう。

ワークシートを工夫して，表したいことやその場所を選んだ理由などを書かせるようにします。また，その場所の思いに合った構図の取り方や配色を思い付いている様子を捉えます。

自分の思いに合った色や描材を選んでいたり，筆のタッチを生かして色の付け方を工夫したりしている姿を捉えます。

児童が自分の作品について話したり，表したかった主題と作品を重ねながら友達の作品のよさや面白さを味わっている姿を観察や対話，ワークシートなどから捉えます。

＜観点別評価計画を立てるにあたっての留意点＞

～指導と評価の計画を立てるときのポイント～

● 題材の内容，題材の時間数，年間指導計画との関連などを踏まえ，題材のどの場面でどの観点に重点を置くかを考えながら題材の評価規準を設定することが大切です。

● １年間を見通して「評価すべき点を見落としていないか」，「適切に評価できる学習内容になっているか」，「評価が煩雑になっていないか」などを考えて評価の計画を考えることが大切です。

7　小学校図画工作科における学習評価事例　②　＜具体的な評価の方法＞

事例②では，評価のための情報収集や評価の方法についてご紹介します！

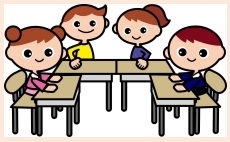
(1)　座席表の活用

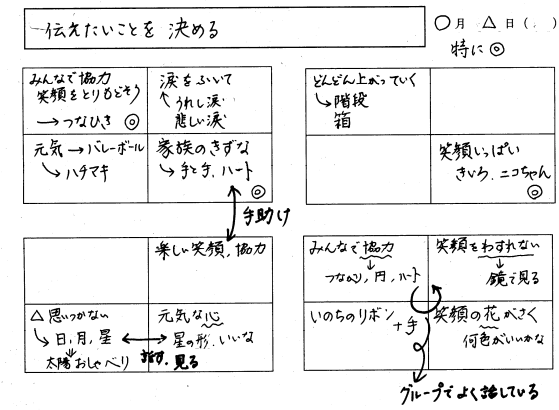
座席表は，記録を簡単に書き留めることができます。

■ 観察や対話を通してとらえた児童のつぶやきや活動の様子を適宜記入します。

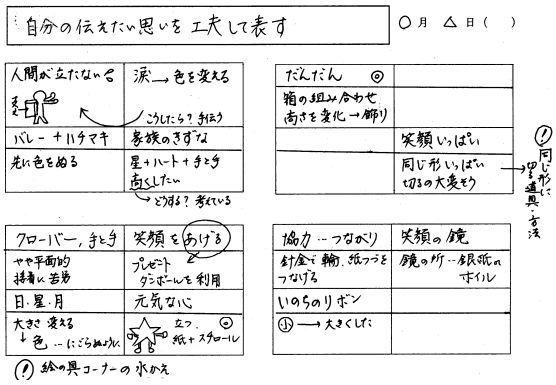
■ 記号を決めて記入したり，カラーペンを活用したりすると，後から分かりやすいですね。

■ 矢印を用いたり，児童同士を線で結んだりすることで，児童と児童との関わりも記録として残せるといいですね。





発想・構想の観点から児童の様子を観察し，記録した座席表



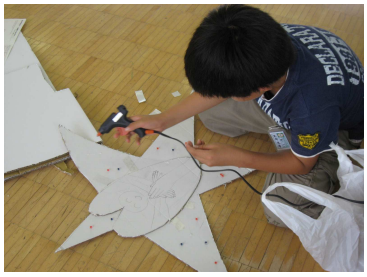
技能の観点から児童の様子を観察し，記録した座席表

(2)　デジタルカメラの活用　　作品の途中の段階や特徴的な活動の様子などを記録することができます。

■　表現のプロセスを捉えて記録します。観察と対話を行う際に，適宜（1，２枚程度）撮影しながら全員の記録が残せるようにするとよいでしょう。

■　撮影した写真には，日時を表示する設定にしておくと便利です。

■　児童ごとに番号を付けて整理すると，表現のプロセスをみることができます。

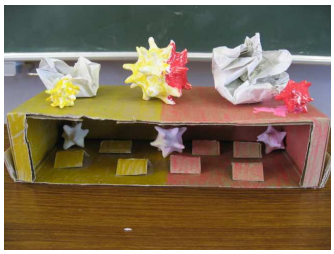


＜図1－1＞
思い付いた形を平面的に表している児童

＜図1－2＞
平面的な表現に棒をつけて立てようとしている。

＜図1－3＞
段ボールの箱に棒を突き刺して立てることで安定し，立体的になった。

＜図2＞
撮影用の机の上で撮影



＜図3＞
撮影用の机の上で撮影

デジタルカメラで表現の過程を捉えるとき，図１のように観察や対話をしながら適宜撮影する方法と，図２，図３のように撮影用の机を用意しておき，授業の途中に全員分をまとめて撮影する方法などがあります。

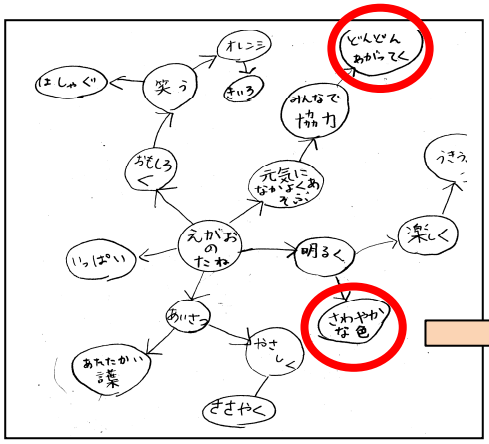
(3)　ワークシートの活用　　児童の自己評価ができると同時に，評価の重要な資料になります。

■　ワークシートは，必ずしも毎時間書かせなくてもよいでしょう。短い時間で書けるように形式を工夫することが大切です。

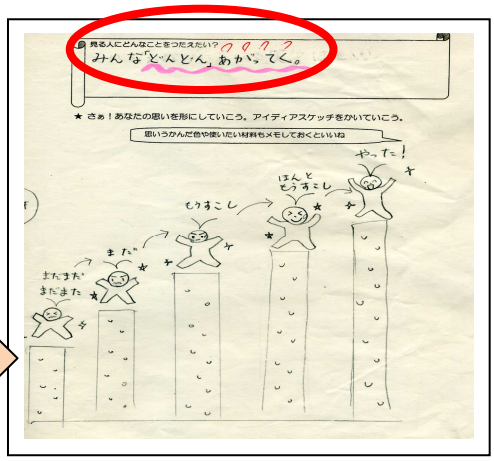
■　＜どの題材で＞＜題材のどの場所に位置付けるのか＞＜どの程度の時間を費やすか＞など配慮する必要があります。

■　言葉やアイディアスケッチをワークシートに残すことにより，児童の思考の過程や思い，表現の工夫を思い付いたことなどを知ることができます。

○　高学年によるワークシートの例



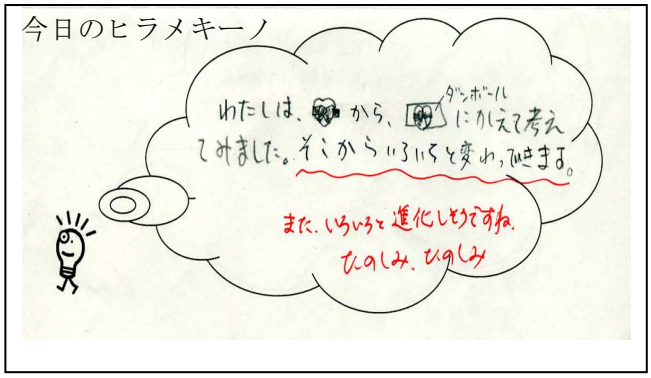
イメージマップ

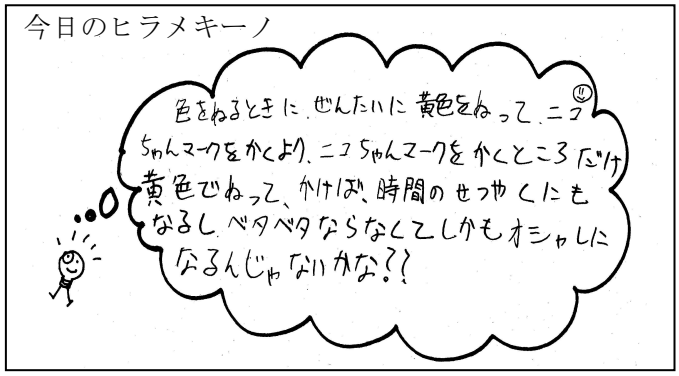


アイディアスケッチ

図工-８

イメージマップから児童がどんな発想をしたのか読み取ることができます。
また，アイディアスケッチからは，１番表したいことや今思い付いている色や形などについても読み取ることができます。





その時間にひらめいたことや次時の構想を書いたワークシート

振り返りのワークシートから，その時間に児童が工夫したことや，次の時間に向けて構想を立てていることが読み取れますね。
また，このような児童の記述から，それぞれの児童へどのような指導や支援をすればよいのかということを考えることもできます。

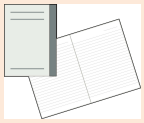
(4)　ポートフォリオの活用

経過写真やワークシートを蓄積して，学びの変容を確かめます。

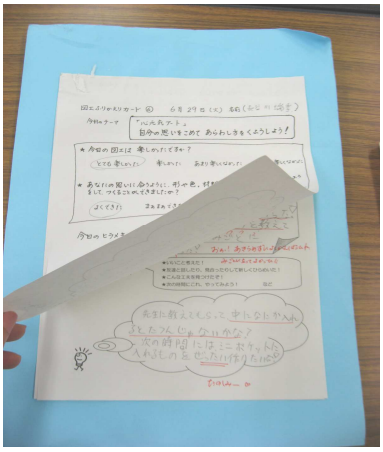
■　座席表などに活動の様子を記録したものと，作品の経過写真やワークシートを蓄積したポートフォリオを合わせて読み取ることで，児童の変容を確かめることができます。

■　写真用のミニアルバム等を用いたポートフォリオは，絵も立体も形や大きさにかかわらず同じように保存できるのが便利です。
　また，学期ごとに家庭に持ち帰らせることで，児童の学習の様子について保護者に知らせることもできます。

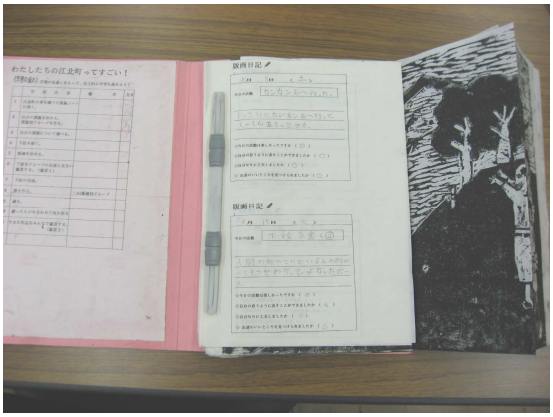
■　中・高学年では，ノートやスケッチブック，ファイル等を活用するとよいでしょう。ノートは数年間利用でき，ワークシートを貼ったり，児童が直接書き込んだりすることができます。



○　ポートフォリオの例



ワークシートを台紙に貼り付けたポートフォリオ



イメージマップや下がきなどもファイルしたポートフォリオ

8　小学校図画工作科における学習評価事例　③　＜鑑賞の能力の評価＞

ついつい，感想の文章の長短のみで評価をしてしまいがちな鑑賞の能力の評価。
「鑑賞の能力」はどのように評価すればよいのでしょう。
事例③では，鑑賞の能力の評価の方法について具体的にご紹介します！

例：岡本太郎の「明日への神話」を鑑賞した後に書いたワークシートの記入例と評価

■　「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価する例

この絵は，こわい感じがします。下の方に，燃えている人が何人かいるし，へびみたいなものもかいてあるからです。まん中に大きな人が立っています。おもしろい所もあります。顔みたいなものがおもしろいです。

下の方の煙を出しているのは，クジラかな。船かな。

■　「十分満足できる」状況（Ａ）と評価する例

私は，この絵を見た時，こわいと思いました。黒っぽい空におそろしい形をしているものがかいてあったり，赤い炎に囲まれたりしているからです。画面の左の方の人は助けを求めているように見えます。でも，色がとてもあざやかです。

原ばくの悲劇を乗りこえようという思いが，赤や黄色のあざやかな色や，真ん中の人の顔が上を向いているところから分かります。

左の記述は，その絵から受けたイメージとその理由を書いています。絵の中に見付けたものやそれから想像したことも書いています。
右の記述では，思ったり感じたりしたことの根拠を，作品の中の色や形，描き方などの視点に触れて書いています。（下線部）
「鑑賞の能力」を捉える時，〔共通事項〕に示されている「形や色」「イメージ」などの視点が手掛かりになります。「形や色」「イメージ」の視点からワークシートや発問を具体化していくといいですね。

そうかぁ，ただ感想を書かせるだけでは
いけないんだね。では，「鑑賞の能力」を見取るとき，
具体的に児童にどんな投げ掛けができそうかな・・・

「鑑賞の能力」は，感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりするなどの言語活動を通して高めていくことができます。その際，一人一人が自分の根拠をもって話したり，考えたりできるようにすることが大切です。

言葉や絵，図，身体で表現するなど，いろいろな言語活動を効果的に取り入れると，一人一人が何を感じ，何を考えているのかなどを把握することが容易になります。

例えば，こんなことから見取っては・・・鑑賞活動における言語活動いろいろ

○　パッと見て感じたことを言葉にする。

○　五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使って，作品から感じたことを言葉にする。　（どんな音が聞こえる？」「どんなにおいがしそう？」「どんな味だろうね？」など）

○　絵の中の登場人物になって一言いう。

○　作品の中の色や形，色や形の組み合わせについて感じたことを書く。

○　作者はどんな思いでこの絵をかいたのか話し合う。

○　絵の中の人と同じポーズをしてみる。なりきる。どんな感じがしたか書く。話し合う。

○　絵から聞こえる「音」を記号で表す。

＜例＞

ぴちゃぴちゃという雨の音

＜例＞

ドンドンとひびく音

9　小学校図画工作科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ：すべての題材で４つの観点を均等に評価しなければならないのですか？

Ａ：すべての題材で４つの観点（造形への関心・意欲・態度，発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力）を均等に評価しようとすると，資料の収集に追われて，十分に評価できないだけでなく，指導もおろそかになることも考えられます。

そこで・・・

それぞれの**題材において評価の重点をしぼり，年間を見通して評価の機会を設定する**ことが重要です。

例えば・・・

この学年で取り組む題材とその題材で重点的に評価を行う観点をみてみよう。

年間題材一覧表（例）　　第３学年　　◎は重点をおく評価の観点

月	時	題材名	関	想	技	鑑	備考
4	2	「私の見つけた春」Ａ表現（２）	◎				
4	2	「材料からひらめいた！」Ａ表現（２）		◎	◎		アイディアスケッチ・作品
5	4	「広がる　ふくらむ」Ａ表現（１）		◎			
6	1	「おもしろ形みっけ」鑑賞				◎	ワークシート

図画工作科では，６時間かけて工作をすることもあれば，１時間で絵をかいたり，２時間連続で造形遊びを行ったりするようなこともあります。すべての題材で，４つの観点を均等に評価するのは難しいですね。そこで，このような年間の題材と評価の観点をまとめた一覧表を作成するとどうでしょうか。

このような一覧表にすることで，題材の配列や領域，評価の観点について系統的にみることができます。年間を見通して，評価の観点が偏っていないかバランスを考えることも必要です。

１つの観点に関して複数の題材を通して評価することで，児童の成長を継続的に把握することができます。

Ｑ：評価の観点に重点をおくとき，どんなことに気を付ければよいですか？

Ａ：重点をおいて評価活動をしたときに，実際の児童の学習活動と離れてしまう場合があります。

例えば，手などで破った段ボールの形から思い付いたことを平面に表す第４学年「段ボールをやぶってみたら・・・」という題材で

先生はこのように考えていました。

「発想や構想の能力」を重点的に評価しよう。

ところが，児童は下のように考え，活動を進めていこうとしています。

段ボールを使って立体的に表そう！どんなふうにつくっていこうかな

児童は，思い付いた形を実現させるために，「創造的な技能」を働かせることになりました。

★　題材ごとに重点をおく場合，実際の学習状況や児童の実態に応じて，柔軟に考えたり，妥当性から評価の観点を見直したりする必要があります。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　家庭科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校家庭科における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校家庭科における学習評価の進め方
4　小学校家庭科における学習評価事例
5　小学校家庭科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

全教科共通ページ　新学習指導要領における学習評価はこのようになります。

◇新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

◇各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況に関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

◇新学習指導要領における学習評価の観点について

（1）従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	**「関心・意欲・態度」**
「思考・判断」	→	**「思考・判断・表現」**
「技能・表現」	→	**「技能」**
「知識・理解」	→	**「知識・理解」**

（2）新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を，言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　家庭科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1　教科目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに，家庭生活を大切にする心情をはぐくみ，家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

⇒基本的な考え方はこれまでと同様ですが，以下の３点について改善が図られています。

①従前「家庭生活への関心を高める」→現行「家庭生活を大切にする心情をはぐくみ」
→家庭生活への関心を高めるとともに，衣食住などの生活の営みの大切さに気付くことを重視。

②従前「生活を工夫しようとする実践的な態度」→現行「生活をよりよくしようとする実践的な態度」
→生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を重視。

③従前「基礎的な知識と技能」→現行「基礎的・基本的な知識及び技能」
→学習指導要領全体の表記との統一を図る。

2　評価の観点及びその趣旨

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
衣食住や家庭の生活などについて関心をもち，その大切さに気付き，家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

※　下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる

これまでと変わったところは？

○　評価の観点はこれまでと変更はないですが，その趣旨については新学習指導要領の趣旨を踏まえて改善が図られている点に留意する必要があります。

○　特に「生活を創意工夫する能力」の観点では，家庭生活における身近な課題の解決を目指して考える（思考力），考えたことを基に課題の解決を図る（判断力），考えたことを的確に表す（表現力）を含んでおり，これらを一体的に評価することが求められています。

3　第５学年及び第６学年の評価の観点の趣旨

	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
第５・６学年	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち，その大切さに気付き，家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し，課題を見付け，その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し，日常生活に必要な衣食住や家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

⇒これまで通り，学校や児童の実態に応じた指導ができるようにするため，学年の目標は２学年まとめた示し方となっていることを受けています。

評価規準は，どうやって設定するの？

各学校において,評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）を参考にして，各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。

① 家庭科では，内容相互の関連を図り，題材を構成して指導することから，**「題材の評価規準」**は，題材の指導目標を明確にして複数の内容の**「評価規準に盛り込むべき事項」**及び**「評価規準の設定例」**を参考に設定することになります。

② **「学習活動に即した評価規準」**は，その時間のねらいや学習活動に照らして**「評価規準の設定例」**を参考にして設定することになります。その際，毎時間４観点について評価するのではなく，いずれかの観点に重点を置くなど適切に設定することが大切です。

第５学年と第６学年の２学年間を見通した指導計画を基に，題材で指導する内容を明確にした評価計画を立てる必要があります。

「Ｂ日常の食事と調理の基礎」の(3)「調理の基礎」
「Ｃ快適な衣服と住まい」の(3)「生活に役に立つものの製作」

上記については，特に，２学年間で段階的に学習を進めることから，それぞれの題材で重点を置く指導内容を明確にすることが大切です。具体的には，Ｂ(3)及びＣ(3)の「評価規準の設定例」の中から必要な内容を選んだり，組み合わせたりして評価規準を設定することとなります。

小学校家庭科における評価規準の設定例

ここでは，学習評価事例１に示している「家族のためにおいしいごはんとみそしるをつくろう」を取り上げて評価規準の設定について考えていきます。本題材の目標は,「日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁に関心をもち，調理の仕方について考えたり，自分なりにみそ汁の実を工夫したりして，おいしい米飯とみそ汁を作ることができる。」とします。

その場合，かかわってくる評価規準は，内容「Ｂ　日常の食事と調理の基礎」の（3)「調理の基礎」ということになります。参考資料より評価規準に盛り込むべき事項は下記のようになります。

【「(3)調理の基礎」の評価規準に盛り込むべき事項】

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
調理に関心をもち，日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。	日常よく使用される食品を用いた調理について考えたり，自分なりに工夫したりしている。	日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

しかし，題材の目標を「日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁に関心をもち，米やみその栄養的な特徴を理解し，調理の仕方について考えたり，自分なりにみそ汁の実を工夫したりして，おいしい米飯とみそ汁

を作ることができる。」とすると，内容「B　日常の食事と調理の基礎」の（2)「栄養を考えた食事」が加わることになり，下記の評価規準が加わります。

【「(2)栄養を考えた食事」の評価規準に盛り込むべき事項】

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
日常の食事に関心をもち，栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。	栄養を考えた食事について課題を見付け，その解決を目指して考えたり，自分なりに工夫したりしている。		栄養を考えた食事のとり方について理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。

それぞれに対応して評価規準の設定例が参考資料に記載されていますので，それをそのまま活用してもよいのですが，あくまでも，設定した題材の目標や学習内容に合うものでないといけません。よって，この題材例では，例えば，次のような評価規準が考えられます。

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち，米やみその栄養的な特徴や食品の組み合わせを考えて調理をしようとしている。	おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり，自分なりに工夫したりしている。	米飯及びみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	米やみその栄養的な特徴や米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解している。

このように，題材の目標に合わせ，参考資料を基に評価規準を作成していってください。

各観点の評価方法は？

☆【家庭生活への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

この観点では，衣食住や家族の生活などに関心をもち家庭生活の営みの大切さに気付いているか，家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているかを評価します。

例えば，自分の食生活などに関心をもっているか，自分の成長に関心をもっているか，朝食の大切さに気付いているか，家庭の仕事に進んで取り組もうとしているか，学習したことを自分の生活に生かそうとしているか，家族の一員として協力しようとしているかなどです。

この観点は，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。また，同じ学習活動の中で他の観点と併せて評価する場合も考えられます。その際は，それぞれの観点における具体的な実現状況と評価方法を明確にしておくことが大切です。

⇒この観点は，行動観察，発言の内容，学習カードの記述内容などで見取ることができます。

☆【生活を創意工夫する能力】は，どうやって評価するの？

この観点は，衣食住や家族の生活をよりよくするために，身近な課題を様々な角度から考え工夫したり，様々な考えを整理して判断したり，考えを的確に表現したり，考えを的確に表現したりする能力が身に付いているかを評価します。

例えば，自分の生活から課題を見つけているか，学習した知識や技能を活用して考え，工夫しているかなどです。

この観点では，児童が考えたり自分なりに工夫したりしたことを，図や言葉でまとめ，発表し合うなど，言語活動を中心とした表現に係る活動を通して評価することに留意する必要があります。また，学習結果だけを評価するのではなく，学習過程の評価ができるような評価計画とすることが重要です。

⇒この観点は，行動観察，発言の内容，学習カードの記述内容，実習の計画・記録表の記述内容，できた作品（の写真）相互評価の記述内容などで見取ることができます。

☆【生活の技能】は，どうやって評価するの？

この観点は，生活における自立の基礎として，日常生活に必要な基礎的・基本的な技能が身に付いているかを評価します。

例えば，衣食住や家族の生活などに必要な技能が身に付いているか，自分の生活での応用・発展に繋がる基礎的な技能が身に付いているかなどです。

この観点は基本的に教師用チェックリストを用いての行動観察で評価することになりますが，児童の相互評価の記述や作品により，活動の過程における児童の実現状況をより詳細に把握し，それを評価結果に生かすことも考えられます。その際，相互評価については，見本や写真と照らし合わせて評価をさせたり，グループやペアで行わせたりすることにより，技能の上達の状況を評価できるように工夫することが必要です。また，技能は繰り返し行うことによって身に付くことから，「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況と判断される児童の把握とその手立てを考えるための評価）と，「評価結果として記録する評価」を位置付けることも大切です。

⇒この観点は，行動観察，できた作品（の写真），相互評価の記述内容などで見取ることができます。

☆【家庭生活についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

この観点は，衣食住や家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識が身に付いているか，家庭生活についての基本的な理解ができているかを評価します。

例えば，日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか，家庭生活を構成している要素や生活の営みの大切さを理解しているかなどです。

この観点は，学習カードの記述内容やペーパーテストなどを通して評価することができます。知識・理解については，話し合い，実際の活動などを通して，児童が実感を伴って理解することができるように配慮する必要があります。また，ペーパーテストについては，ある程度の内容のまとまりについて実施することが考えられます。

⇒この観点は，学習カードの記述内容，ペーパーテストなどで見取ることができます。

小学校家庭科における学習評価事例１

■　一題材の中で，「指導に生かす評価」と「評価結果として記録する評価」に分けた評価を設けた事例

「家族のためのおいしいごはんとみそしるをつくろう」という題材を基に，学習評価の進め方について紹介します。

まず，この題材は内容「Ｂ　日常の食事と調理の基礎」の（2）「栄養を考えた食事」(3)「調理の基礎」の関連を図り，「ご飯とみそ汁」について基礎的・基本的な知識や技能を身に付け，栄養を考えたみそ汁の実を工夫することを課題にし，小集団での調理と個人の調理を行い，技術の習得を図る構成になっています。この場合，技能の評価については，１回目の調理実習では，「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況と判断される児童の把握とその手立てを考えるための評価）として位置付け，２回目の調理実習の評価は「評価結果として記録に残す評価」として位置付けています。

題材名　家族のためのおいしいごはんとみそしるをつくろう

１　題材の目標

日本の伝統的な食事である米飯とみそ汁に関心をもち，米やみその栄養的な特徴を理解し，調理の仕方について考えたり，自分なりにみそ汁の実を工夫したりして，おいしい米飯とみそ汁を作ることができる。

題材の指導計画　（総授業時数　１５時間）

〔1〕お米とご飯について知ろう	４時間
〔2〕みそとみそ汁について知ろう	２時間
〔3〕おいしいみそ汁のポイントを探そう	４時間
〔4〕おいしいみそ汁を作ろう	２時間
〔5〕家族のためのみそ汁を作ろう	２時間
〔6〕家庭での実践を発表しよう	１時間

２　題材の評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁に関心をもち，米やみその栄養的な特徴や食品の組み合わせを考えて調理をしようとしている。	おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり，自分なりに工夫したりしている。	米飯及びみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	米やみその栄養的な特徴や米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解している。

３　指導と評価の計画（15 時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準				評価規準（評価方法）
		関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解	
1 2	○米とご飯に関心をもって，観察することができる。 ・30 分浸水して炊いたご飯と浸水しないで炊いたご飯を比べる。 ・生の米と浸水した米を比べる。	①				**関**①米や浸水した米，炊飯などについて進んで調べようとしている。 **（行動観察，学習カード）**

3 4	○観察を通して，炊飯の過程を理解できる。 ・耐熱性のガラス鍋を使って，炊飯の過程を観察する。 ・炊飯の過程をまとめる。				①	知①ご飯の調理の仕方や米の変化の様子から，炊飯の過程がわかる。 **（行動観察，学習カード，ペーパーテスト）**
5 6	○試食を通して，おいしいみそ汁を作る課題を考える。 ・多種類のみそ汁を試食しながら，みその入れ方，みそ汁の実の切り方，だしの必要性について気付く。	②	①		②	関②みそ汁の調理の仕方に関心をもって，進んで調べようとしている。 **（行動観察，学習カード）** 知②みそ汁の調理の仕方について理解している。 **（行動観察，学習カード，ペーパーテスト）**
7 8 9 10	○おいしいみそ汁を作る課題を探すことができる。 ・グループで課題を解決し，おいしいみそ汁の作り方を理解する。					創①自分の課題を解決できるように工夫することができる。
11 12	○小グループでみそ汁を作ることができる。 ・同じ材料で調理実習をする。					技①みそ汁の調理ができる。 **（行動観察，調理計画，学習カード）** 創②家族のためにみそ汁を工夫している。 **（行動観察，調理計画，学習カード）**
13 14	○家族のために工夫したみそ汁を一人で作ることができる。 ・他の材料を使用して調理実習をする。					
15	○学校で学んだことを家庭で実践し，紹介し合う。 ・各家庭で作ったみそ汁の実践を友達に紹介する。					関③学んだことを生かして調理をしようとしている。 **（行動観察，学習カード，写真）**

指導に生かす評価
特に「努力を要する」状況（C）と評価されそうな児童については，ここでの評価を基に適切な指導を行うことが大切です。

評価結果として記録に残す評価
ここで，すべての児童が少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）と評価できるように指導を進めることが大切です。

※ペーパーテストについては，学期末にまとめて実施する。

4　生活の技能の評価

みそ汁の調理実習における「生活の技能」の評価のポイントは，次に示すような内容です。１回目は，教師の指導の際の手立ての例を，２回目は評価をする際のポイント例を示しています。このようなポイントを基に行動観察用のチェックリストを作成するなどして，児童一人一人の学習状況を記録し，その後の指導と評価に生かしていくことが大切です。

１回目の調理実習（指導に生かす評価）

評価するポイントと手立ての例

①だしのとり方・・・煮干しの取扱いを示す。

②実の切り方・・・切り方見本を見せる。包丁の使い方や切り方を示す。

③みその扱い方・・・みその入れ方とタイミングを示す。

④味見・・・他のみそ汁と味の比較をさせる。みその分量を示す。

２回目の調理実習（評価結果として記録に残す評価）

評価するポイントの例

①だしのとり方・・・だしの材料に合わせた取扱いができているか。

②実の切り方・・・みそ汁の実として適当な材料の切り方をしているか。

③みその扱い方・・・最後に，といたみそを入れているか。

④味見・・・みその分量は適当か。

小学校家庭科における学習評価事例２

■児童の記述を基に「生活を創意工夫する能力」を評価した事例

「思い出の服で家族への感謝を伝えよう」という題材を基に，学習評価の進め方について紹介します。

この題材は，「Ｃ快適な衣服と住まい」（３）「生活に役立つ物の製作」と「Ｄ身近な消費生活と環境」（２）「環境に配慮した生活の工夫」アと「Ａ家庭生活と家族」（１）「自分の成長と家族」ア，（３）「家族や近隣の人々とのかかわり」アとの関連を図っている。

本題材では，衣生活について２年間学習してきたまとめの「生活に役立つ物の製作」として取り上げている。自分の成長によって着られなくなった服を使ったリメイク作品を製作しこれまで支えてきてくれた家族へ感謝の気持ちを込めてプレゼントするという構成になっている。この題材に至るまでには，下記のような題材配列と指導内容で知識や技能を習得してきている児童が，それを生かして製作できるようにしている。

「Ｃ快適な衣服と住まい」（３）「生活に役立つ物の製作」における２学年間を見通した題材配列と指導内容

学　年			第５学年		第６学年
題　材			さいほう道具を使おう！	ミシンぬいにチャレンジ！	思い出の服で家族への感謝を伝えよう
時　間			8	11	13
指導項目	(1)	衣服の着用と手入れ	○		○
	(2)	快適な住まい方			
	(3)	生活に役に立つ物の製作	◎	◎	◎
	その他の内容		Ｄ（２）ア	Ｄ（２）ア	Ａ（１）ア（３）ア Ｄ（２）ア
実　習　題　材			ネームプレート ティッシュカバー	エプロン	リメイク作品
(1)	ア	衣服の着方			
	イ	ボタン付け	◎		○
		洗濯			
(2)	ア	整理・整頓			
		衣類のたたみ方			
		清掃の仕方			
	イ	換気・風通し			
		採光・照明			
(3)	ア	製作計画		◎	◎
		型紙	○	◎	◎
	イ	玉結び	◎	○	○
		玉どめ	◎	○	○
		なみぬい	◎	○	○
		返しぬい	◎	○	○
		かがりぬい	◎		○
		ミシンの扱い方		◎	○
		ミシンで直線縫い		◎	○
		まち針	◎	○	○
		三つ折り		◎	○
	ウ	裁縫道具の扱い方	◎	○	○
		アイロンがけ		◎	○

◎は重点を置くもの

題材名　思い出の服で家族への感謝を伝えよう

１　題材の目標

成長して着られなくなった服から自分の成長と家族に関心をもち，これまで学習してきた技術を生かし，思い出の服から家族へのプレゼントを製作して感謝の思いを伝えるとともに物を大事にする気持ちをもつ。

題材の指導計画　　（総授業時数　１３時間）

〔1〕着られなくなった服との思い出を語ろう　　２時間

〔2〕思い出の服で家族への感謝を伝えよう　　１０時間

〔3〕プレゼントを友達に紹介しよう　　１時間

2　題材の評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
自分の成長と家族に関心をもち，思い出の服を無駄なく使い，見通しをもってプレゼントを製作しようとしている。	家族へのプレゼントの製作計画や環境に配慮した布等の材料の使い方，目的に応じた縫い方を考えたり，自分なりに工夫したりしている。	思い出の服を無駄なく使い，目的に応じた縫い方で製作に必要な用具を安全に取り扱い，手縫いやミシン縫いで家族へのプレゼントを製作することができる。	手縫いやミシン縫いによる目的に応じた簡単な縫い方について理解している。

3　指導と評価の計画（１３時間）

時間	○ねらい　・学習活動	評価規準				評価規準（評価方法）
		関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解	
1 2	○自分の成長を振り返り，家族のために思い出の服で感謝のプレゼントを贈る見通しをもつ。 ・成長により着られなくなった服との思い出をグループで発表し合う。 ・自分の成長を振り返り，家族に感謝の気持ちを伝えるプレゼントを贈ることを考える。 （※次時までに家族にプレゼントする製作物を考えておく。）	①				**関**①自分の成長と家族に関心をもち，家庭生活と家族の大切さに気付いている。 **（行動観察，学習カード）**
3 4	○思い出の服をできるだけ無駄のない使い方で家族へのプレゼントの製作計画を工夫することができる。 ・家族へのプレゼントとして思い出の服をリメイクする方法を考える。 ・思い出の服の無駄のない使い方について考える。 ・製作計画をグループで発表し合い，計画を見直す。		① ②			**創**①家族へのプレゼントやその製作計画について考えたり，自分なりに工夫したりしている。 **（製作計画，実習記録表）** **創**②思い出の服を無駄のない使い方について考えたり，工夫したりしている。 **（行動観察，製作計画，実習記録表）**
5 6 7 8 9 10	○思い出の服を無駄なく使い，目的に応じた縫い方で家族へのプレゼントを製作することができる。 ・製作に必要な材料や用具を準備する。 ・無駄のない使い方で服を裁つ。	②		①	①	**関**②製作に必要な用具等を準備し，見通しをもって製作しようとしている。 ※４～８時間で適切な評価場面を設定する。 **（行動観察，製作計画，実習記録表）** **技**①思い出の服を無駄なく用いて製作することができる。 **（行動観察，製作物）**

11	・製作手順に従い，実物見本や段階標本などを参考にしながら用具を安全に取扱い，製作する。 ・毎時間ごとに学習の振り返りを実習記録表に記入し，次時のめあてを確認する。 ・仕上げをする。 （※手紙を添えて，家族にプレゼントを渡す。）	③	③	②		**知**①製作に必要な材料や用具が分かり製作手順について理解している。 **※ペーパーテスト** **関**③思い出の服を無駄なく使うことに関心をもち製作しようとしている。 ※４～８時間で適切な評価場面を設定する。 **（行動観察，製作計画，実習記録表）** **創**③手縫いやミシン縫いを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方について考えたり，自分なりに工夫したりしている。 **（製作計画，実習記録表，製作物）** **技**②目的に応じた手縫いやミシン縫いを用いた直線縫いで家族へのプレゼントを製作することができる。 **（行動観察，製作物）**
12	○作品の工夫や贈っての感想などをまとめることができる。 ・工夫したことや作品の出来ばえ，渡したときの感想などをまとめる。		④			**創**④家族のことを考え，自分なりに工夫したりしている。 **（学習カード）**
13	○まとめたことを発表し合い，これからの家庭生活で自分ができることについて考えることができる。 ・グループ内でプレゼントを紹介し合い，学級で共有する。 ・家族からの手紙を読む。 ・これからの家庭生活で自分ができることを考える。	④				**関**④これからの家庭生活をよりよくしようとしている。 **（行動観察，学習カード，相互評価）**

４　本時の展開（３・４／１３時間）

（１）本時のねらい

思い出の服をできるだけ無駄のない使い方で，家族へのプレゼントの製作計画を工夫することができる。

（２）学習活動と評価

時間	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
5	１　本時の学習のめあてを確認する。 思い出の服で家族へのプレゼントの製作計画を立てよう。	・前時の思い出の服を生かし，家族のことを考えて感謝の気持ちを表すものを製作するように伝える。 ・製作計画の立て方を確認する。	

40 20 20	2　各自で思い出の服をどのようにリメイクするか製作計画を立てる。 ①　プレゼントを決める。 ②　出来上がり図を記入する。 ③　工夫することを記入する。 ・無駄のない使い方の工夫 ・形や大きさの工夫 ・縫い方の工夫 ④　必要な材料を記入する。 3　グループごとに，各自が工夫したところを発表し合い，計画を見直す。 4　製作計画の修正を行う。 ・友だちの作品やアドバイスからの気付きを記入し，修正をする。	・リメイク作品の実物見本や段階標本を準備し，計画の参考にさせる。 ・製作物について，どのように工夫したらよいか分からない児童は，具体的な工夫例を紹介する。 ・服を無駄なく使うためにどのように工夫したらよいか分からない児童には，作品例などを見せて考えさせる。 ・個々の児童の気付きを認め，励ますようにする。 ・グループでの話し合いを受けて修正させる。 ・児童の課題への追求の状況を把握するため，修正した部分が分かるように製作計画に記入させる。	製作計画に工夫点を記入する場面 ■評価方法 【製作計画】資料① **創意工夫①** 無駄のない服の使い方を考える場面 ■評価方法 【行動観察】 【製作計画】**資料①** **創意工夫②**
5	5　本時の学習のまとめをする。	・次時の製作への意欲につながるようにする。	

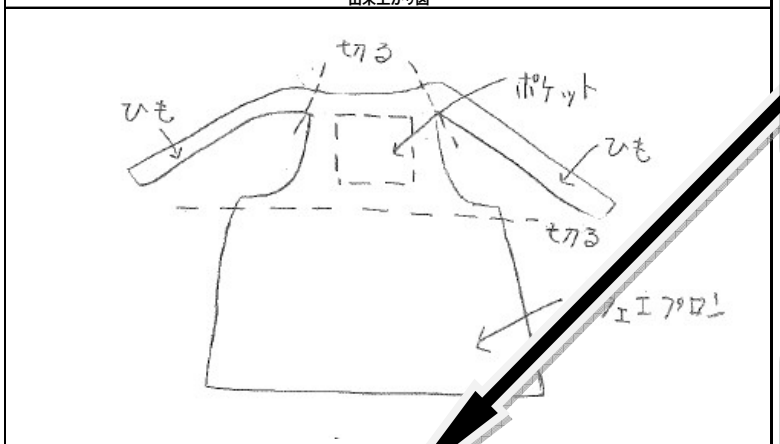
資料①　児童ａの製作計画　　（３～１１／１３時間）

思い出の服で家族への感謝を伝えよう

（氏名　　）

服の思い出 服（　ワンピース　）	小さいころにお母さんから買ってもらった。プールに泳ぎに行くときによくきていた。		
プレゼントする人	お母さん	プレゼントするもの	カフェエプロン
このプレゼントにした理由	いつも料理を作ってくれるから、そのときに着てほしい。		
こんな思いで作る	いつもおいしい料理を作ってくれるお母さんに、お料理を作ってくれてありがとうと思いながら作る。		

出来上がり図



材　料

さいほう道具

工夫するところ

むだのない使い方の工夫	形や大きさの工夫	ぬい方の工夫	その他の工夫
ワンピースの下の部分をカフェエプロンにする。		じょうぶにするためにミシンでぬう。	

友達の作るものやアドバイスから気付いたこと

友達がポケットを付けたらと言ってくれたので、ワンピースの上の部分を使うことにした。			

〈創意工夫〉①　の評価

児童ａは，日頃から料理を作ってくれる母親に対しての感謝の気持ちを込めて，料理作りに役立つカフェエプロン製作に決めた。家族のことを考えて工夫していることから「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

※「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の具体的な例

タオルをかけられるようにカフェエプロンにひもを付ける。長さが短いので，別のスカートの布をたして長くする。

家族のための工夫として，便利さや長さなどについて具体的に記述していることから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

〈創意工夫〉②　の評価

児童ａは，ワンピースの上をポケットに使うことで，ワンピースをできるだけ無駄のないように工夫しようとしていることから「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

※「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の具体的な例

友達が，シャツでエプロンを作ろうとしていて，自分もカフェエプロンより普通のエプロンがワンピースをそのまま使えてむだのない使い方ができると思った。

ワンピースの形を生かし，カフェエプロンからエプロンに変更した。無駄のない使い方を具体的に考えていることから「十分満足できる」状況（A）と判断した。

小学校家庭科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　これからは１時間に１回または２回程度，評価を行えばよいということですか。

Ａ　通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら，その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので，すべての児童が最低でも，「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と評価できるようにしたいものです。そのためには，それまでの過程において，今まで通りに，児童の学習状況について，形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Ｑ　すべての児童の状況を評価するのは難しいと思いますが，何かよい工夫はないですか。

Ａ　１時間の中で，全ての児童について評価を行うのは確かに難しいと思います。例えば，調理計画で材料や手順に関心をもち，意欲的に調べている場面や調理実習で材料や目的に応じて調理している場面など，適切に学習状況を把握できる場面を設定し，教師による行動観察と調理計画・実習記録表や学習カードの記述内容から評価するという方法などがあります。また，行動観察についても，できるだけ記入が簡単な教師用チェックリストなどを準備すると，効率よく評価できます。

Ｑ　毎時間の評価の記録はどのようにすればよいですか？

Ａ　行動観察の場合は，本時に位置付けた評価規準に基づいて，あらかじめ教師用チェックリストなどを作っておくとよいと思います。記録はできるだけ簡便にして（例えば，Ｂは空欄，Ａのみに○，Ｃは気になる点をメモなど），効率的に評価できるようにしておくとよいと思います。

Ｑ　収集した評価の記録を総括するにはどのようにしたらよいですか？

Ａ　題材の「学習活動に即した評価規準」に基づいて，行動観察，学習カードの記述内容，できあがった料理（の写真），ペーパーテストなどの方法により，Ａ，Ｂ，Ｃで観点別の評価を行ったとします。これらの評価の記録を総括する方法としては，例えば，それらを「観点ごと」にＡ→１，Ｂ→２，Ｃ→１というように数値化し，各観点の合計点について，満点の８５％以上であれば「Ａ」，８４～５０％であれば「Ｂ」，それ未満であれば「Ｃ」とするなどの方法が考えられます。同様に，「題材の総括」についても，「観点ごとの総括」のＡ，Ｂ，Ｃを３，２，１で数値化し，４観点の合計点について，満点の８５％以上であれば「Ａ」，８４～５０％であれば「Ｂ」，それ未満であれば「Ｃ」とする方法があります。

なお，この場合，ＡＡＢＢの場合は，Ｂとなりますが，ＡとＢの数が同数の場合，Ａとするなど様々な考えや方法がありますので，各学校において工夫されるとよいでしょう。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。詳細については，以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（小学校　体育科）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校体育科における教科目標，評価の観点のその趣旨について
3　小学校体育科における学習評価の進め方
4　小学校体育科における学習評価事例
5　小学校体育科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたもので，その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり，ここでいう「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様，各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので，その趣旨に変更はありません。

小学校　体育科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

１　教科目標

心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

⇒学校教育法では，小学校において「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」ことや，「生涯にわたり学習する基盤が培われるようにする」ことが規定されており，今回の改訂において，この視点により「生涯にわたって」「基礎」ということが明確に示されました。

２　評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての知識・理解
運動に進んで取り組むとともに，友達と協力し，安全に気を付けようとする。また，身近な生活における健康・安全について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して，運動の仕方を工夫している。また，身近な生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断し，これらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

⇒観点については，運動領域と保健領域（第３学年以上）で構成され，それぞれ３観点で評価を進めます。

運動領域：「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」

保健領域：「健康・安全への関心・意欲・態度」「健康・安全についての思考・判断」「健康・安全についての知識・理解」

３　学年別の評価の観点の趣旨

【運動領域】

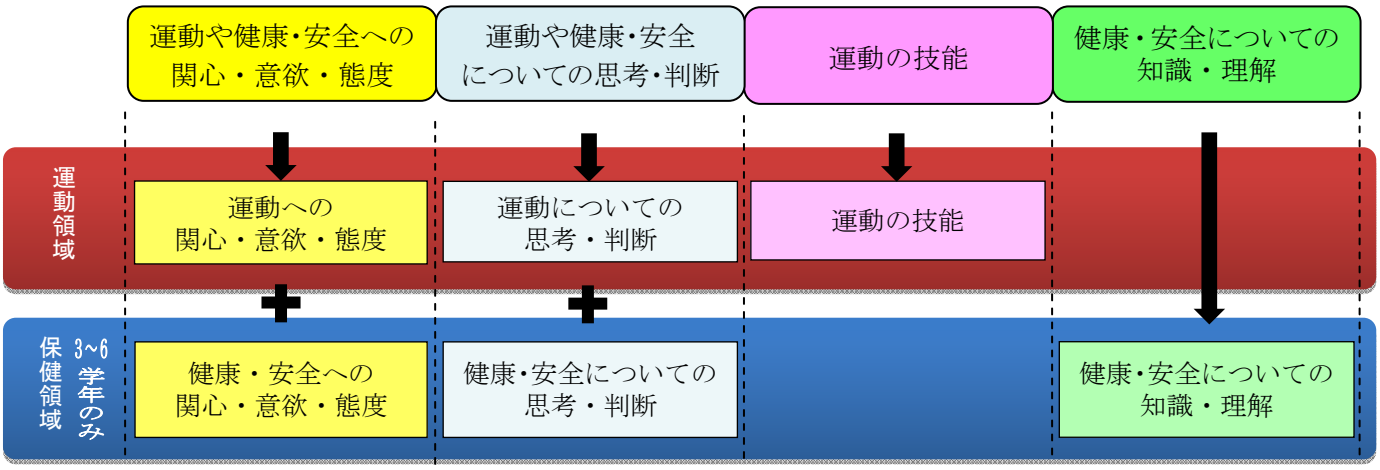
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
第１学年及び第２学年	運動に進んで取り組むとともに，だれとでも仲よく，健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。
第３学年及び第４学年	運動に進んで取り組むとともに，きまりを守り互いに協力し，健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題をもち，運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。
第５学年及び第６学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，進んで運動に取り組むとともに，協力，公正などの態度を身に付け，健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。

【保健領域】

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
第３学年	健康な生活について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	健康な生活について，課題の解決を目指して実践的に考え，判断し，それらを表している。	健康な生活について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第４学年	体の発育・発達について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	体の発育・発達について，課題の解決を目指して実践的に考え，判断し，それらを表している。	体の発育・発達について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第５学年	心の健康やけがの防止について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとしている。	心の健康やけがの防止について，課題の解決を目指して実践的に考え，判断し，それらを表している。	心の健康やけがの防止について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第６学年	病気の予防について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	病気の予防について，課題の解決を目指して実践的に考え，判断し，それらを表している。	病気の予防について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

小学校体育科における学習評価の進め方

体育科における学習評価の観点



⇒指導要録等の４つの観点による評価を行う場合，３年生以上においては運動領域と保健領域を合わせて評価することになります

評価規準は，どうやって設定するの？

運動領域の評価規準を設定するにあたっては，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）に示されている「評価規準の設定例」を必要に応じて修正し，単元の評価規準を設定します。次に，各学校の指導計画に基づき，単元の評価規準を具体化するために，学習活動に即した評価規準を設定します。

保健領域の評価規準の設定するにあたっては，学習指導要領を踏まえ，単元の目標を明確にするとともに，「評価規準に盛り込むべき事項」を活用し，単元の評価規準を設定します。次に，具体的な授業をイメージして「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に学習活動に即した評価規準を設定します。

各観点の評価方法は？

【運動への関心・意欲・態度】の評価方法

□この観点の評価は基本的に次の４つの項目について評価していきます。
・運動そのものに進んで取り組もうとしているか。（関心・意欲）
・用具等の使い方や運動の行い方の決まりを守り，友達と共に運動しようとしているか。（公正）
・友達と協力して準備や片付けを行っているか。（協力）
・運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けているか。（安全）
□この観点は，行動の観察が主になります。単元の中でそれぞれの項目に視点を当てて総合的に評価する必要があります。
⇒行動の観察，学習カード等の記述

【運動についての思考・判断】の評価方法

□この観点の評価は基本的に次の３つの項目について評価していきます。
・運動の行い方（ルール的なものも含む）を知っているか。（運動を行う上での知識）
・よりよく運動を行うための練習の仕方を見付けたり，練習方法や練習の場を選んだりしているか。（練習の工夫）
・友達のよい動きや取り組み方を見付けているか。（友達との関わり）
□この観点は，学習カード等に書かれた練習の計画などと実際の活動を合わせて評価する必要があります。特に個人で行う運動については，自分の能力を高めるために考え，行動したことを評価し，球技等のチームで行う運動については，チームの仲間に目を向けて考え，行動したことを評価します。
⇒行動の観察，学習カード等の記述，振り返りでの相互評価，チームの作戦ボード

【運動の技能】の評価方法

□この観点は，運動を行うための基本的な技能を身に付けているかどうかを評価していきます。
・運動を行うための基本的な動き（走る，跳ぶ，投げる，捕る，泳ぐなどの基本的な動き）
・運動の特性に応じた基本的な技能（対象の運動の特性にふれる特徴的な動き）
□この観点は，実際に運動をしている児童の姿そのものを見て評価します。一瞬の動きを評価する場面が多く，より具体的な評価規準を設定することが大切です。小学校学習指導要領解説　体育編には，具体的な指導事項が明記されています。
⇒行動の観察，学習カード等の記述，振り返りでの相互評価

［小学校学習指導要領解説　体育編　障害走に関する例示の記述］

低学年	運動を楽しく行うための基本的な動き	○低い障害物を用いてのリレー遊び ・いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えること
中学年	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能	○いろいろなリズムでの小型ハードル越え ・インターバルの距離や小型ハードルの高さに応じたいろいろなリズムで小型ハードルを走り越えること ○40～50m程度の小型ハードル走 ・一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えること
高学年	運動の特性に応じた基本的な技能	○40～60m程度のハードル走 ・第１ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること ・ハードル上で上体を前傾させること ・インターバルを3～5歩のリズムで走ること

保健領域

【健康・安全への関心・意欲・態度】の評価方法

単元の内容について関心をもち，学習活動に進んで取り組もうとしている状況を評価する。

【健康・安全についての思考・判断】の評価方法

以下の２つの状況について評価する。

・単元の内容に関する課題や解決方法を見付けたり選んだりし，それらを説明している状況

・学習したことと自分の生活とを比べたり関係づけたりし，それらを説明している状況

【健康・安全についての知識・理解】の評価方法

単元の内容として基礎的な事項について，理解したことを言ったり書いたりしている状況を評価する。

小学校体育科における学習評価事例　１

■　単元全体を通して，学習評価の進め方が分かる事例（第４学年／「マット運動」Ｂ器械運動(1) ア）

ここでは，運動領域の3つの評価を8時間の単元の中でバランスよく設定しました。1単位時間に1つまたは2つの評価規準を設け，単元終了時に各時間の評価を総括して，単元の観点別評価として記録しています。

１　単元名　マット運動の達人になろう

２　単元の目標

(1)　基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。（運動の技能）

(2)　マット運動に進んで取り組み，きまりを守り仲よく運動したり，活動の場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。（運動への関心・意欲・態度）

(3)　自己の能力に適した課題をもち，技ができるようにするための活動を工夫することができるようにする。（運動についての思考・判断）

３　単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	・技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう，器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り，友達と励まし合って運動しようとしている。 ・友達と協力して，器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。	・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに，自分の力に合った課題を選んでいる。 ・基本的な技の練習の仕方を知るとともに，自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。	・自分の力に合った基本的な回転技や倒立技ができる。
学習活動に即した評価規準	①それぞれの技を習得しようと，マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②器具の使い方や試技のきまりを守り，友達と励まし合って運動しようとしている。 ③友達と協力して準備や片付けをしようとしている。 ④運動する場の危険性を取り除き，器械・器具や試技前の安全を確かめようとしている。	①基本的な技の動き方やポイントを知るとともに，自分の力に合った技を選んでいる。 ②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに，自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。	①体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ，両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。 ②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ，腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。

「単元の評価規準」は，国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には，下の「学習活動に即した評価」のように，学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。

中学年ではマット運動は回転系と倒立系が示されています。ここでは４年生ということで，回転系については学習を終えていると判断して評価規準を設定しています。

４　単元の指導と評価の計画（全８時間）

時間	主なねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	オリエンテーション 1　学習の進め方 2　学習の約束 3　場づくりの説明 4　準備運動の仕方 5　できる技の試行 6　学習の振り返りの仕方	④運動する場の危険性を取り除き，器械・器具や試技前の安全を確かめようとしている。 （観察） （学習カード）	学習の約束や場づくりの説明した事柄（試技を安全に行う手順やマットの置き方・使い方など）が，できる技の試行を行う際に確認できているかを観察によって評価する。学習カードの自己評価の欄を設け，その評価も参考にする。	
2	1　用具の準備 2　準備運動 3　めあての確認	①それぞれの技を習得しようと，マット運動に進んで取り組もうとしている。 （観察） （学習カード）	新しく知った倒立技を習得しようと練習をしている様子の観察や学習カードの感想や自己評価の記述等を参考にして評価する。	
3	倒立技のポイントを見付けよう 4　倒立技の練習 ・壁倒立 ・補助倒立 ・頭倒立 （2時目に指導） ・ブリッジ ・腕立て横跳び越し ・側方倒立回転 （4時目に指導）	前時の学習カードから，どのような技に取り組むか，どのような練習方法を行うかを記入させておき，その達成状況を観察と自己評価を参考に評価する。	①基本的な技の動き方やポイントを知るとともに，自分の力に合った技を選んでいる。 （観察）（学習カード）	①体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ，両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。 （観察）（学習カード）
4	5　振り返り 6　後片付け 		②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに，自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 （観察）（学習カード）	
5		③友達と協力して準備や片付けをしようとしている。 （観察）（学習カード）		②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ，腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。 （観察）（学習カード）
6	1　用具の準備 2　準備運動 3　めあての確認 できる技での連続技に挑戦しよう	②器具の使い方や試技のきまりを守り，友達と励まし合って運動しようとしている。 （観察）（学習カード）	②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに，自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 （観察）（学習カード）	
7	4　連続技の練習 ・できる技の繰り返し ・できる技２種類の組合せ ・倒立技と回転技の組合せ　など 5　振り返り 6　後片付け	連続技については，高学年で「できるようにする」レベルであり，中学年では「配慮する」と記載されている。そこで，６・７時目は，今までに身に付けた技を連続して行う楽しさを味わうことに重きを置き，技能については，本単元で練習してきた倒立系の技に絞って評価するようにしている。		②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ，腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。 （観察）（学習カード）
8	1　用具の準備 2　準備運動 3　めあての確認 マット運動発表会をしよう 4　発表の練習 5　発表会 6　振り返り 7　後片付け	②器具の使い方や試技のきまりを守り，友達と励まし合って運動しようとしている。 （観察）（学習カード）		

◎単元の観点別評価の総括

観点＼時間	第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第６時	第７時	第８時	総括
運動への関心・意欲・態度	④→Ａ	①→Ｂ			③→Ｂ	②→Ａ		②→Ａ	Ａ
運動についての思考･判断			①→Ｃ	②→Ｂ		②→Ａ			Ｂ
運動の技能			①→Ｂ		②→Ａ		②→Ｂ		Ｂ

単元の評価の計画は，取り上げる単元の評価規準をすべて評価できるように設定します。また，１単位時間の評価は多くとも２つの観点までの評価にとどめ，その時間で評価する（Ａ・Ｂ・Ｃを判断する）観点を絞るようにします。

単元の観点別評価の総括は，単元を通して観点別に総括的な評価するというものです。そのため，どの観点も複数回の評価が行えるように設定し，そこから総括的な評価としてＡ・Ｂ・Ｃを判断します。

総括的な評価の判定の方法としては，Ａが半数以上の場合は総括的な評価はＡとなり，Ｃが半数以上の場合は総括的な評価はＣとなる。それ以外はＢとする。（ＡＡＣＢ→総括「Ａ」　ＡＢＣＣ→総括「Ｃ」）

上の表「◎単元の観点別評価の総括」を例にとり，総括的な評価の判断の仕方を示します。

□　運動への関心・意欲・態度

Ｂの判定が２回，Ａの判定が３回であり，半数以上がＡの判定なので総括的な評価はＡとする。

□　運動についての思考・判断

Ｃの判定が１回，Ｂの判定が１回，Ａの判定が１回であり，平均的な判定として総括的な評価はＢとする。

□　運動の技能

Ｂの判定が２回，Ａの判定が１回で，Ａは半数以下のため総括的な評価はＢとする。

※　特に運動の技能については，「基本の動きや技能ができる」ことが重要であり，単元の後半にうまくできるようになることも多くなります。そのため，単元の前半よりも後半の評価に重み付けをすることも考えられます。

◎単元の指導と評価計画を作成する上で留意すること

前述の**「４　単元の指導と評価の計画」**にあるように，観点ごとの評価を振り分けて設定し，計画を立てますが，以下の２点については十分留意する必要があります。

①　各観点の評価は，単元を通して複数回の判定を行うように計画すること。

評価の信頼性は，ひとつの観点について複数回の評価を行い，総括することで，より高まります。単元最後の○○発表会などの場面のみで，評価をすることがないようにしましょう。

時間	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	○		
2			○
3	○	○	
4		○	○
5	○		
計	３回	２回	２回

表１　評価回数のチェック

②　Ａ/Ｂ/Ｃの判定を行う評価（総括的な評価）と評価の計画に設定されない適時的な評価（形成的な評価）があること。

右の表１のように，その時間に行う評価の観点と内容は計画されています。これは，先生たちが，子どもたちの姿からＡ/Ｂ/Ｃの評価をし，指導簿等に記録していくということを明確にしたものになります。

注意したいのは，評価の計画がない場合も評価する場面があるということです。例えば，ハードル走で「ハードル上で上体を前傾させる」ことがうまくできていない児童に，「振り上げ足に手でタッチするつもりで」などとアドバイスをする場合です。指導したことが評価規準に届いていないと判断した場合は，評価規準を達成できるように指導や支援を行うということです。しかし，この場合はＡ/Ｂ/Ｃの評価を行わず，その後の評価の計画で設定された時間に評価規準に沿って評価をします。

また，それぞれの観点に照らして特に優れた活動状況が確認できた場合です。その児童を称賛するともに，その観点に対しての評価の材料として記録しておきます。

小学校体育科における学習評価事例　２

■　１単位時間の中で，指導のための評価（形成的な評価）と，本時の評価規準の達成状況を判断する評価（総括的な評価）を示した事例（第５学年／「バスケットボール」Ｅボール運動(1) ア）

ここでは，1単位時間の中で常時行われる指導と評価の在り方と，1単位時間の学習を通してその時間の学習状況を総括した評価を示しています。1単位時間の総括的な評価の積み重ねが単元はもとより学期の通知表の評価や指導要録の評価につながっていきます。

単元名　バスケットボール

本単元の単元計画は１０時間としています。１時目のオリエンテーションの後，２時目～５時目までを基本的な技能を身に付けることを重視したゲームを，６時目～９時目は自分のチームの特徴に応じて作戦を工夫してゲームを行うように計画しています。１０時目はまとめのゲームを行い振り返りの時間を設定しています。本事例では思考・判断の観点で評価をするようにします。

１　本時の目標（７／１０）

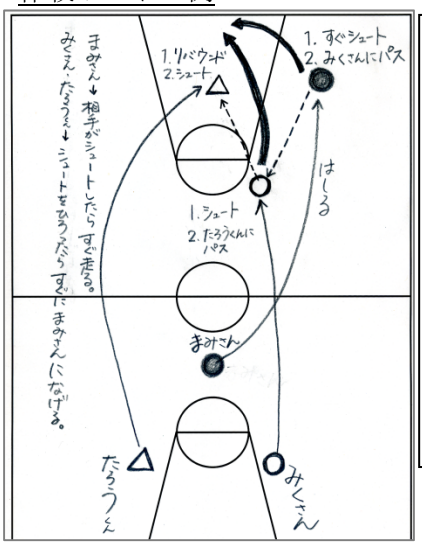
- **味方が取りやすいパスを投げたり，相手からパスカットされない位置に動いてパスを受けたりしてゲームをすることができるようにする。（運動の技能）**
- **コートや用具の安全に気を付けながらゲームに取り組むことができるようにする。（運動への関心･意欲･態度）**
- **チームで話合い，自分のチームの特徴を生かした作戦を考えることができるようにする。（運動についての思考・判断）**

２　本時の指導と評価の計画

主な学習活動	評価方法の具体とその進め方
１　準備運動を行う。 ・パス，シュートの練習（チームで） ２　学習のめあてを確認する。 チームの特徴を生かした作戦を工夫してゲームを楽しもう	※事前に個々の学習カードから前時の反省や本時の活動目標を確認しておき，評価表等に記録しておきます。 ◇パスやシュートの練習やゲームの様子を観察し，これまでに指導した基礎的な技能の習得が十分でない児童に助言を行う。（形成的な評価　「技能」） ※形成的な評価は評価規準の「おおむね満足」に到達していない児童に対して，「おおむね満足」になるように指導や助言を行うことです。ここではその評価の達成度を評価すること（A/B/C を付けること）はしません。
３　前半の相手のゲームを行う。 ・ ゲーム①5分→作戦2分→ゲーム②5分→反省･移動3分 ４　チームで作戦会議をする。５分 ・作戦の見直しをする。 ・作戦を確認するための練習をする。	**本時における思考・判断の評価** 評価の視点 具体的には，次の３点を留意して評価や支援に役立てます。 ◎　チームの課題が明確になっているか。 ◎　課題に合った作戦になっているか。 ◎　各自の動きや役割が明確になっているか。 評価の方法 チームでの話し合いの様子や練習・ゲームの様子の観察が中心になります。 評価の材料…作戦ボード，観察，学習カード 参考にするもの…学習カードの自己評価 振り返りの際の相互評価

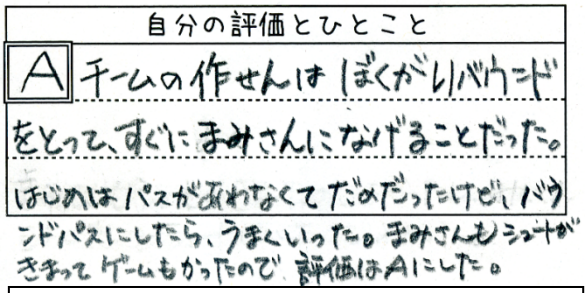
5　後半の相手とゲームを行う。 ・ ゲーム①5分→作戦2分→ゲーム②5分 →反省3分 	評価規準 「おおむね満足できる」状況（B） ・これまでのゲームの結果から，作戦を考えつぶやいたり，作戦カードに書いたりしている姿 ・決定した作戦を理解し活動している姿 「十分満足できる」状況（A） ・チームの課題や一人一人の役割にあった作戦を考え提案している姿 ・ゲームや練習の際に考えた作戦を自ら行うとともにチームのメンバーにアドバイスしている姿 「努力を要する」状況（C）に対する支援 作戦が思いつかない児童には，友達の意見を聞いて作戦を選ばせたり，考えたりするように助言する。
6　チームでの振り返りをする。 ・学習カードへの記入	※学習カードに書かせて評価の材料とするもの ・自分の活動目標に対する自己評価 ・本時の学習のめあてに対する自己評価 ・友達のよいところ（相互評価） ここでの自己評価や相互評価は，実際にゲームや作戦会議の中での児童の様子を観察し評価したものを補ったり参考にしたりするためのものです。好ましい記述や発言についてはそのよさをほめ，改善が必要なものには「〇〇を試してみたらどうかな？」などアドバイスを行うようにします。
7　学習の振り返りをする。 ・次時の学習のめあての記入 ・次時の学習の確認	※次時の学習のめあてを記入させる際に，本時の学習での課題を解決する意識をもたせる必要があります。そのためにも，学習課題の視点となること（指導目標につながること）の一覧表などを学習カードにあらかじめ準備しておきましょう。児童が体育の学習を進める上で迷うことが少なくなります。

作戦ボードの例



チームでの運動については，「作戦」という点が評価の視点になります。話し合いだけで終始させずに，作戦ボード（ここではＡ４用紙に書き込ませています。）などを使って，話し合ったことが残るようにしました。子どもたちもそのボードを確認することで作戦への理解が深まりますし，評価においても，どのような意図で作戦を決定したのかが分かる材料になります。

学習ノートでの振り返りの例



この児童の評価すべき点として，自分たちの作戦とそれに対する活動の様子が記述されている。また，作戦に対する自分の活動で課題を見付け，修正している記述があり，学習カードでの教師の評価は「十分満足できる」状況（A）判断とした。活動の様子を重視しながらも自己評価や相互評価を加味して，思考・判断の能力を評価していった。

小学校体育科における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　形成的な評価と総括的な評価という言葉がありますが，どのような違いがあるのですか？

Ａ　**総括的な評価**…学習活動が一区切りした際に，指導と学習の成果を確認するために行う評価です。その活動の中での活動状況を，「十分満足できる」と判断されるものをＡ，「おおむね満足できる」と判断できるものをＢ，「努力を要する」と判断されるものをＣで評価します。１単位時間の最終的な評価や単元終了時の各観点の評価，通知表，指導要録の評価も総括的な評価にあたります。この総括的な評価は，「１学期の評価を２学期の評価に生かす」，「第３学年での評価を第４学年での評価に生かす」といったように，長いスパンで考えたときには，形成的な評価と捉えることもできます。

形成的な評価…学習指導の途中で，学習活動を促進と指導方法の確認・修正のために行う評価です。１単位時間の指導目標に到達するように，授業途中で指導やアドバイスをしたり，これまでに指導してきたことができるようになっていることに対し称賛をしたりする評価のことをいいます。特に前者の指導やアドバイスはすべての児童に行うものではなく，このまま活動を進めていくと総括的な評価で「努力を要する」状況（Ｃ）と判断されるそうな児童に対して，より「おおむね満足できる」状況（Ｂ）に近付くように行います。そのため，児童の状況によって教師側の手立てを臨機応変に変えていく必要があります。

Ｑ　体育科における評価で特に留意すべき点は何ですか？

Ａ　**より具体的な児童の姿を評価規準として設定しておくことです。**

運動領域の場合，実際の学習活動における評価は，動きの中で行う場合が多くなります。そのため，同じ活動の様子を何度も観察することが難しく，一連の動きの中から評価する必要がでてきます。そのような活動を評価していくためには，評価規準をより具体的な姿として設定しておくことが重要になってきます。そうすることで，評価すべき点を絞って児童の活動の様子を観察することができます。また，具体的な姿を評価規準としたことで，そのつまずきに対する支援もより具体的になってくると考えられます。

Ａ　**量的な評価規準にならないようにします。**

運動領域の評価においては，タイムや距離などの記録に引きずられた評価にならないようにしなければいけません。例えばハードル走において，ハードルをリズムよく走り越えていないにもかかわらず，学級で一番タイムがいいから運動の技能の評価が「十分満足できる」状況（Ａ）となったりするケースです。「ハードルをリズムよく走り越えられたか」というハードルの越え方や走り方の質に関わる評価であれば，タイムや距離などの記録に関わりなく，その児童の身に付けた技能を評価することができます。指導したことが正しく身に付いているかどうかを適切に評価することが大切です。

Ｑ　保健領域の評価規準はどのように設定したらよいですか？

Ａ　**国立教育政策研究所からの資料を参考することで比較的簡単に設定することができます。**

保健領域の評価については，学習指導要領の内容のまとまりと実際の単元がほぼ一致しています。単元の評価規準は国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料」の中の「評価規準に盛り込む事項」を，学習活動に即した評価規準（各１単位時間の評価規準）は同参考資料の「評価規準の設定例」をそれぞれ参考にすることで評価規準を設定することができます。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。以下のURLをご参照ください。
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成 23 年 10 月 1 日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方（小学校　特別活動）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校特別活動における目標，評価の観点のその趣旨について
3　小学校特別活動における学習評価の進め方
4　小学校特別活動における学習評価事例
5　小学校特別活動における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況の関わっての最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1)　新学習指導要領における特別活動の評価の観点

特別活動における評価の観点は，学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って，各学校で定めることとされています。その参考として，初等中等教育局長通知（H22.5.11）に３つの観点が例示されました。その３つの観点は，学校教育法における学力の３要素を反映させたものとなっています。

学力の３要素	特別活動の評価の観点(例示)
○　基礎的・基本的な知識・技能の習得	○　集団活動や生活についての知識・理解
○　知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	○　集団の一員としての思考・判断・実践
○　学習意欲	○　集団活動や生活への関心・意欲・態度

(2)　例示された評価の観点の考え方

参考のために例示された３つの評価の観点は，特別活動の特質を踏まえ，次のような考え方に立って設定してあります。

「集団活動や生活への関心・意欲・態度」
児童が学級や学校の集団活動や生活にどれだけ関心をもちどれだけ敏感に問題に気付き，自分の問題として受け止めて，その解決のためにどれだけ意欲的に取り組もうとしているか，また，そうした取組を通して，どれだけ向上心をもってよりよい態度を身に付けようとしているかなどを見取ります。
「集団の一員としての思考・判断・実践」
特別活動の目標の根幹をなす中心的な評価の観点です。集団活動の中で，児童が集団の一員として何をどのように考え，判断し，表現し，工夫しようとしているかなどの思考の様相を見取ります。
「集団活動や生活についての知識・理解」
望ましい集団活動を通して児童が実践を通して理解することを大切にしつつ，どのようなことを，どのように理解しているかを見取ります。

小学校　特別活動における目標，評価の観点及びその趣旨

1　目標

望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，自己の生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養う。

⇨道徳的実践の指導の一層の充実を図り，豊かな人間性や社会性，自律性を備えた児童を育てることを目指したことにより「人間関係」「自己の生き方についての考えを深め，自己を生かす能力を養う」が新たに目標に加えられました。

2　評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち，望ましい人間関係を築きながら，積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し，望ましい人間関係を築きながら，集団活動や自己の生活の充実と向上について考え，判断し，自己を生かして実践している。	集団活動の意義，よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

評価の観点がこれまでと変わったところは？

○　小・中学校の指導の一貫性に配慮して，観点及びその趣旨が例示されました。

○　これまでの４観点から，３観点の例が示されました。

○　各学校において評価の観点を定めることができるようになりました。

各学校で評価の観点を定める際にはどんなところに気を付けるの？

○　特別活動全体に係る観点と趣旨を明確に示します。

○　例示された「集団活動や生活への関心・意欲・態度」「集団の一員としての思考・判断・実践」「集団活動や生活についての知識・理解」を参考に，３つ程度の観点を作成します。

○　各学校で，より具体的な観点を設定することが可能です。
各学校の児童の実態や身に付けさせたい力を吟味して設定します。

特別活動の中心的な目標である「自主的，実践的な態度」の育成，目標に新たに加えられた「望ましい人間関係」の育成については意識して作成しましょう。

【例示された評価の観点に学校としての観点を設定した例】

観点	集団や自他の生活向上への 関心・意欲・~~態度~~	よりよい生活や 人間関係を築く力	学級会や健全な生活の仕方についての知識・理解・技能
趣旨	学級や学校の集団の生活や自分や他者の生活を向上させることに関心をもち，そのために積極的に活動に取り組もうとする。	多様な他者とかかわり，望ましい人間関係を築くとともに，自己のよさを発揮しながら，集団(社会)に寄与するなどして，協力してよりよい生活を築こうとする。	学級会の役割・進め方や健全な生活の仕方などについて理解し，その技能を身に付けている。
学校として変更した点	**<観点の一部を具体化>** **「生活」を「自他の生活向上」と具体的に表した。** **<観点の要素を削除>** **関心・意欲に絞って評価をしていくこととする考え。**	**<観点を変更>** **特別活動の目標から「よりよい生活や人間関係」に焦点化した。**	**<観点の一部を具体化>** **「学級会」という言葉を入れ，具体的に表した。** **<観点の要素を追加>** **知識・理解だけでなく，技能を身に付けるところまでを求めるため「技能」を追加した。**

3　内容のまとまりごとの評価に盛り込むべき事項

各学校において定めた評価の観点に沿って学級活動(1),(2)の低・中・高学年別，児童会活動，クラブ活動，の各活動と学校行事の評価規準を作成します。ここでは，国立教育政策研究所において例示されている中から学級活動について示します。

【学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
第1・2学年	学級の身の回りの問題に関心をもち,他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするための話し合い，自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え判断し，仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや，学級集団としての意見をまとめる話合い活動の基本的な進め方などについて理解している。
第3・4学年	学級の生活上の問題に関心をもち,他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために話し合い，自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え，判断し，協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや，学級集団としての意見をまとめる話合い活動の計画的な進め方などについて理解している。
第5・6学年	学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち,他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い，自己の役割や責任，集団としてのよりよい方法などについて考え，判断し，信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や，学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

【学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の評価規準に盛り込むべき事項】

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
第1・2学年	自己の身の回りの問題に関心をもち，進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い，自分に合ったよりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ，そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。
第3・4学年	自己の生活上の問題に関心をもち，意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために，日常の生活や学習の課題について話し合い，自分に合ったよりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ，そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。
第5・6学年	自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち，自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために，日常の生活や学習の課題について話し合い，自分に合ったよりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ，そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

各学校で内容のまとまりごとの評価規準を作成するにはどんなところに気を付けるの？

○　各学校で定めた評価の観点を踏まえて作成しましょう。

○　各学年の発達の段階を考慮して作成しましょう。

例えば国立教育政策研究所において例示されている【学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の評価規準に盛り込むべき事項】の「集団の一員としての思考・判断・実践」では，語尾が「仲良く助け合って実践している。」(１・２学年),「協力し合って実践している。」(３・４学年),「信頼し支え合って実践している。」(５・６学年)，と発達の段階を考慮して示されています。

小学校特別活動における学習評価の進め方

どんなところに気を付けて評価をするの？

(1)　評価は，学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事のそれぞれの内容において行います。

(2)　社会性など豊かな人間性の育成を目指す特別活動においては，個性の伸長を図る必要があり，評価は教科と違い，「十分満足できる」の幅が広く，「十分満足できる」「十分満足できていない」の２段階で評価をします。

(3)　活動の結果だけでなく，活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めます。児童のよい点や進歩の状況を明確にするとともに，指導の改善に生かすことが大切です。

(4)　毎時間，全ての観点を評価する必要はありません。必要以上に評価の機会を設けることで，多大な時間を要するようなことになったり，児童と十分関わることができなくなったりしないようにしましょう。

(5)　特別活動は，学級活動のように主として学級担任が指導する内容もありますが，児童会活動やクラブ活動，学校行事のように学級担任ではない教師が指導に当たる場合があります。直接児童に関わった教師が評価をすることで多面的な評価が可能となります。そこで，次のア～エのことに配慮し，多くの教師による評価の結果を反映させるなど，学校としての指導体制を確立することが大切です。

ア　個々の児童の活動状況について担当する教師との間で情報交換を密にすること。
イ　評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに，それらが学級担任の手元に収集され，活用されるようにすること。
ウ　必要に応じて評価した結果を全教師が共有し，指導に生かせるようにすること。
エ　年間を通してより多くの教師の目で「個人の変容」や「集団の変容」について評価すること。

(6)　指導要録や家庭への通知表には，評価の観点に照らして，十分に満足できる活動の状況にある場合に○を付けます。特別活動において，教科のようにＡＢＣの３段階で評価することは望ましくありません。

各観点の評価方法は？

☆【集団や生活への関心・意欲・態度】は，どうやって評価するの？

この観点は，児童が各活動・学校行事に興味・関心をもち，積極的に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかといった活動状況を評価するものです。

単に，挙手や発言の回数，授業態度の善し悪しだけで見るのではなく，その活動のねらいを踏まえて，活動内容に対しての関心・意欲・態度を評価しましょう。

⇒例えば，行動の観察，発言の内容，学級会ノートの記述，ふり返りカードの記述，チェックカード，質問紙等で見取ることができます。

☆【集団の一員としての思考・判断・実践】は，どうやって評価するの？

この観点は，各活動・学校行事において，望ましい人間関係を築いたり，集団の一員としての役割を自覚したりするために「考える」「判断する」「言動に表す」児童の姿を評価するものです。

特別活動ではこの「考える」「判断する」「言動に表す」が一体的に行われる場合が多く見られます。

⇒例えば，行動の観察，発言の内容，学級会ノートの記述，ふり返りカードの記述，チェックカード等で見取ることができます。

☆【集団活動や生活についての知識・理解】は，どうやって評価するの？

この観点は，各活動・学校行事において，集団活動の意義や話合い活動の仕方，自己の健全な生活の在り方等を理解しているかということを評価するものです。

学級活動では，話合い活動の仕方を学期末に質問紙によって評価するなど，長期的なスパンで見取ることも考えられます。

⇒例えば，行動の観察，質問紙，チェックカード等で見取ることができます。

小学校特別活動における学習評価事例１

ここでは，国立教育政策研究所(本リーフレットＰ３)のものを載せていますが，各学校で評価の観点を設定した場合は，それに伴って作成した評価規準を示してください。

■　学級活動(1)　「学級や学校の生活づくり」の事例

１　議題　ほかほか１年生とわくわく交流会をしよう

２　議題について(略)

３　第３学年及び４学年の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級の生活上の問題に関心をもち，他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽し学級生活をつくるために話し合い，自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え，判断し，協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや，学級集団としての意見をまとめる話合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

４　事前の活動

月／日	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
９／６ ９／12	○　議題の呼びかけ　（全員） ・学校行事との関わりから ・学校生活での諸問題の解決や集会，地域との関わりなどから ○　議題の整理　（全員） ・取り上げたい議題について	・２学期の学級生活が１学期よりも更に楽しくなるような議題，地域やボランティアなどにも視野を広げるような議題を考えるよう子どもたちに提案する。 ・できるだけみんなの願いがかなえられるように助言する。 １年生への意識調査	評価規準を基に，学級の実態に応じて，「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため，具体的な児童の姿をいくつか想定しておくようにします。

9／19	○　議題名決定　　(計画委員会) **「ほかほか１年生と元気いっぱい集会の計画を立てよう」**	・わくわくするような議題名になる工夫をするよう助言する。	【知識・理解】 ・集会を開くために話し合わなければならないことが分かり，小柱やめあての決め方が分かっている。
9／21	○　計画委員の役割分担 (計画委員会)		
10／5	○　小柱を決める　　(計画委員会) ○　話合いのめあて決め (計画委員会)		・計画委員として気を付けることを活動計画書に書いている。 〈活動計画〉
10／6	○　活動計画の発表　(計画委員会)		
10／9	○　議題への思い　　(全員)	・「議題への思い」を数人に読ませ，話合いへの意欲付けをする。	【関心・意欲・態度】 ・集会の目的に合った内容や工夫を学級会ノートに書いている。
10／10	○　学級会ノートを書く	・「議題への思い」の作文を参考にしながら自分の考えを学級会ノートに書く。	〈学級会ノート〉
10／11	○　諸準備　　(計画委員会)		資料①

次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。

5　本時の展開

(1)　児童の活動計画(略)

(2)　教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1　はじめの言葉		
2　歌 3　司会グループの紹介	・児童と一緒に学級の歌を歌い，気持ちをほぐし意見を言いやすい雰囲気作りをする。	
4　議題・提案理由・柱の確認	・提案者には提案理由を発表させ改めて全員に確認させる。 ・話合いの柱を確認することで見通しと意欲をもたせる。	
5　決まっていることの確認	・決まっていることを提示し確認する。	
6　話合い (1)　発表をする。 柱①「どのゲームをすれば1年生が喜んでくれるだろうか」 柱②「集会を盛り上げる工夫を考えよう」 (2)　意見が変わった人はもう一度発表する。	・司会者には，なるべくたくさんの児童を指名させるようにする。 ・話合いのめあてを意識させ，よりよい話合いを心がけさせる。 ・話合いが停滞したときは，小集団での話合いを取り入れさせる。	【思考・判断・実践】 ・めあてや提案理由に沿った意見を発表している。 ・集会を有意義なものにするための内容や工夫を，今までの経験を生かして考えたり，発表したりしている ・１年生などから情報を収集して考

(3)　司会がまとめる。 7　決まったことの発表		えたことを発表している。 ・友達の発言について，相手を受け止めようという意識をもって聞いている。 ・友達の意見を参考にして新たな意見や折衷案を発言している。 〈学級会ノート・観察〉 資料①，資料②
8　話合いの振り返り 9　先生の話 10　閉会する。	・本時の話合いの振り返りを，個人ノートに記入させる。 ・話合いの評価と個人に対する称賛を行い，今後の実践活動に向けて意欲付けをする。	【関心・意欲・態度】 ・１年生のことを考え，上級生として楽しい集会にしようとする意欲をもっている。 〈学級会ノート〉 資料①

次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。

次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。

6　事後の活動

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
10／14 ～	○　集会の準備	・決定したことに基づき，必要な仕事をみんなで協力して進められるように働き掛ける。	【関心・意欲・態度】 ・わくわく集会の準備に進んで取り組もうとしている。 ・自分の役割に進んで取り組もうとしている。 〈観察〉
10／20	○　１年生との集会	・集会のねらいを確認し，みんなで協力して会を盛り上げられるようにする。	【思考・判断・実践】 ・集会の自分の役割を責任をもって行っている。 ・友達と協力して集会の活動に取り組んでいる。
10／20	○　振り返り	・自分たちの活動に対する達成感を味わわせ，次の実践へ生かされるようにする。	・集会後にめあてに関わる自分の感想や友だちのがんばりについて発表したり，ふり返りカードに書いたりしている。 〈観察・ふり返りカード〉 資料③

次の「学級活動(1)の評価方法は？」の項に示しています。

学級活動(1)の評価方法は？

(1)　事前活動における評価方法の例

事前活動として，児童が書く学級会ノート<資料①>やアンケート調査などを指導と評価の参考にすることができます。また，計画委員会については，学級会の活動計画の作成や準備をする活動などを観察しながら評価をし，指導に生かしていくこともできます。

(2)　本時や事後の活動における評価方法の例

話合い活動の評価についてはねらいや提案理由に沿って考え，発表しているかなどを児童の活動の状況から見取ります。その際，学級会ノートやチェックカード<**資料②**>，ふり返りカード，実践に向けて頑張りたいことを書かせたものなどを評価や指導の参考にすることができます。

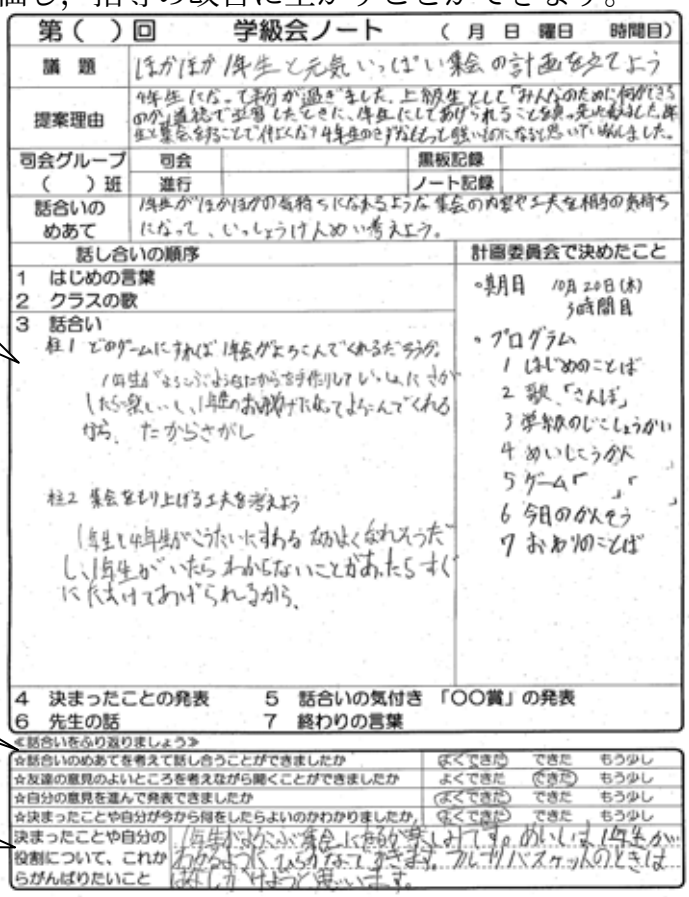
事後の活動の評価では，児童の活動の様子を学級会ノート<**資料①**>や事後の活動のふり返りカード<**資料③**>などを活用して評価し，指導の改善に生かすことができます。

<資料①　学級会ノート>

【関心・意欲・態度】について，集会のねらいや提案理由に沿って，自分の考えを書いているかどうかを評価します。

話合い活動の振り返りをすることで，児童自身の自己評価の力を高めたり，【思考・判断・実践】の評価の参考にしたりします。

【関心・意欲・態度】について，話合いで決まったことへの意欲を見取る際の参考にします。



第（　）回　学級会ノート　（月　日　曜日　時間目）

議題	ほかほか1年生と元気いっぱい集会の計画を立てよう
提案理由	4年生になって早速が過ぎました。上級生として「みんなのために何ができるのか」連続で出発したときに、1年生にしてあげられることを考えて、先生方にも、1年生と集会を行なうことで、仲よくなって4年生のときがなかったら楽しいものになると思いたいと思いました。
司会グループ（　）班	司会　黒板記録　進行　ノート記録
話合いのめあて	1年生がほかほかの気持ちになるような集会の内容や工夫を相手の気持ちになって、いっしょうけんめい考えよう。

話し合いの順序	計画委員会で決めたこと
1　はじめの言葉 2　クラスの歌 3　話合い 柱1　どのゲームにすれば1年生がよろこんでくれるだろうか。 1年生がよろこぶようなゲームを手作りしていいなとさがしたら楽しいし、1年生のお姉さんになってよろこんでくれるから。たからさがし 柱2　集会をもり上げる工夫を考えよう 1年生と4年生がこうたいにすわるとなかよくなれそうだし、1年生がいたらわからないことがあったらすぐに教えてあげられるから。	・期日　10月20日(水)　5時間目 ・プログラム 1　はじめのことば 2　歌「さんぽ」 3　学級のじこしょうかい 4　めいしこうかん 5　ゲーム「　」「　」 6　今日のかんそう 7　おわりのことば

4　決まったことの発表　5　話合いの気付き「○○賞」の発表
6　先生の話　7　終わりの言葉

《話合いをふり返りましょう》

☆話合いのめあてを考えて話し合うことができましたか	よくできた	できた	もう少し
☆友達の意見のよいところを考えながら聞くことができましたか	よくできた	できた	もう少し
☆自分の意見を進んで発表できましたか	よくできた	できた	もう少し
☆決まったことや自分が今から何をしたらよいのかわかりましたか。	よくできた	できた	もう少し
決まったことや自分の役割について、これからがんばりたいこと	1年生がよろこぶ集会にするのが楽しみです。めいしは1年生がわかるようにひらがなにします。ドッジボールのときは楽しくやりたいと思います。		

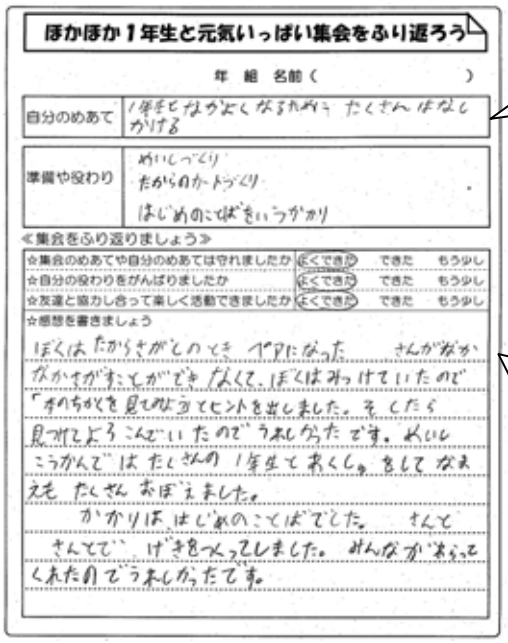
<資料②　児童の発言から【思考・判断・実践】を見取るチェックカード>

月　日（　） 議題 ＼ 児童名		話合いのめあてや提案理由に沿った意見を発言している。	自分の経験を基にした意見を発表している。	情報収集して考えた意見を発表している。	友達の意見に質問をしたり付け加えをしたりしている。	集団決定に向かうためのまとめる意見を発言している。	メ　モ
1	○○　○○	○					
2	○○　○○			○	○		
3	○○　○○	○			○	○	少数意見のアイディアを取り入れた意見を発表。

児童の発言から，その都度○を付けます。学期末や年度末の評価の参考にすることができます。

特によい発言をメモし，授業の最後に称賛したり，学期末や年度末の評価の参考にしたりします。

<資料③　事後の活動のふり返りカード>


ほかほか１年生と元気いっぱい集会をふり返ろう

年　組　名前（　　）

自分のめあて	1年生となかよくなるために たくさんはなしかける
準備や役わり	めいしづくり たからのカードづくり はじめのことばをいうかかり

≪集会をふり返りましょう≫

☆集会のめあてや自分のめあては守れましたか	よくできた	できた	もう少し
☆自分の役わりをがんばりましたか	よくできた	できた	もう少し
☆友達と協力し合って楽しく活動できましたか	よくできた	できた	もう少し

☆感想を書きましょう

ぼくはたからさがしのとき ペアになった　さんがなかなかさがすことができなくて、ぼくはみつけていたので「本のちかくを見てみよう」とヒントを出しました。そしたら見つけてよろこんでいたのでうれしかったです。めいしこうかんではたくさんの1年生とあくしゅをしてなまえもたくさんおぼえました。

かかりははじめのことばでした。さんとさんとでげきをつくってしました。みんながあらってくれたのでうれしかったです。

集会のめあてに沿った「自分のめあて」を立てることができているかということを見取ります。【関心・意欲・態度】を評価することができます。

ここでは集会のめあてに基づいて協力して準備をしたり実践したりしているか，他者を意識して考えたり実践したりしているかということを見取ります。

この児童の場合，相手意識をもって活動していることや，友達と協力したり工夫したりして取り組んでいることから【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

カードだけに頼らず，実践の様子を観察することと組み合わせて評価をすると効果的です。

小学校特別活動における学習評価事例２

■　学級活動(2)　「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の事例

ここでは，児童が自分に合った適切な実践課題について考え自己決定し，その決定に従って適切に判断し，真剣に実践させることができるようにすることを重視して授業を展開し，【集団の一員としての思考・判断・実践】に重点化して評価した例を紹介します。

ここでは，国立教育政策研究所(本手引ではＰ３掲載)のものを載せていますが，各学校で評価の観点を設定した場合は，それに伴って作成した評価規準を示してください。

1　題材　「忘れ物をたいじしよう」　イ　基本的な生活習慣

2　題材について(略)

3　第３学年及び第４学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち，意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために，日常の生活や学習の課題について話し合い，自分に合ったよりよい解決方法などについて考え，判断し，実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ，そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4　本題材のねらい

忘れ物をしないことの大切さに気付き，忘れ物をなくそうという意欲をもち，実践しようとする。

5　事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
○　忘れ物アンケートをする。 ○　自分の忘れ物調べに取り組む。	○　忘れ物アンケートにより，自分自身の忘れ物に対する意識を振り返らせる。 ○　一週間自分の忘れ物の状況を調べさせ，課題意識をもたせる。	

6　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	資　料	目指す児童の姿と評価方法
導入 5分	1　忘れ物をしたときの気持ちを振り返る。 2　学級全体の忘れ物の実態を知る。	・忘れ物をしたときに困ったことや気まずかったことなどを思い起こさせるようにする。 ・学級全体の忘れ物の数や種類を知らせ，どんなことに気を付ければ忘れ物を減らせるかを考えるヒントにする。	忘れ物アンケート 学級の忘れ物の表	【思考・判断・実践】 ・忘れ物をしないことの大切さを考え，友達の考えを参考にしながら忘れ物をなくすための具体的なめあてを決めて進んで実践しようとする。 <学習カード・観察> 資料① 次の「学級活動(2)の評価方法は？」の項に示しています。
展開 25分	3　なぜ忘れ物をしてしまうのかを考える。 4　忘れ物をしないことがなぜ大切なのか考える。	・忘れ物をしてしまう原因について考えを出し合わせることで，自分自身の生活を振り返らせる。 ・忘れ物を１つして，うれしかった児童と悲しかった児童の気持ちの違いを考えさせることで，忘れ物をしないという意識をもつことの大切さに気付かせる。 ・忘れ物をしないことの大切さについて考えを出し合わせることで，価値の共有化を図るようにする。	忘れ物アンケート	
終末 15分	5　忘れ物をしないための方法を考え，頑張ることを決める。 <自己決定> 6　頑張ることを友達とお互いに伝え合う。 7 教師の話を聞く。	・自己決定の内容が，自分自身のこれまでを振り返り，実践に向けて具体的なものになっているか，グループで意見交換させ，確認するようにする。 ・友達とお互いのめあてを伝え合い，それについてコメントをもらうようにすることで，これからの実践に向け，意欲を高めるようにする。	実践のふり返りカード	

7　事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
○　自分の立てためあてを基に実践活動をする。 ○　友達同士で取組を確認し合う。	・立てためあてを実践させ，ふり返りカードで振り返りをさせ，継続した取組になるように助言する。 ・帰りの会などを利用して，友達同士で取組を確認し合う場を設け，お互いの頑張りを認め励まし合いながら，実践の継続化を図るようにする。	【思考・判断・実践】 ・友達と取組の確認をし合いながら，自分が決めためあてを進んで実践している。 <ふり返りカード> 資料② 次の「学級活動(2)の評価方法は？」の項に示しています。

学級活動(2)の評価方法は？

(1)　評価の観点の重点化の例

学級活動(2)においては，題材によって，事前，本時，事後の活動過程を通して，中心的に見取る評価の観点を重点化することが考えられます。例えば「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導で，「正しい歯の磨き方」を取り扱う場合は【知識・理解】に重点を置いたり，「たばこの害」などの予防的，発展的な内容については【関心・意欲・態度】に重点を置いたりすることが考えられます。

(2)　学級活動(2)における評価方法の例

児童の行動や変容など，教師の行動観察により見取る場合が中心となりますが，学習カード<**資料①**>や実践活動後のふり返りカード<**資料②**>などを活用して指導と評価の参考にすることができます。

<資料①　学習カード>

学級活動「わすれものをたいじしよう」

3年　組（　　）

1　なぜわすれものをしないことは大切なのでしょう。

自分で考えたこと	友達の考えを聞いて分かったこと
自分がこまるし，友だちにかりたら友だちもこまるから。	あとになったときにわすれものをしていたらしごとでもこまるから，今から気をつける。

2　わすれものをしないために自分が取り組むことを書きましょう。

時間わりを，ねる前と朝に見てたしかめる。

本時で学習した内容についてどう考え判断しているのかを見取ります。
この児童の場合，忘れものをしないことの大切さを自分で考え，更に友達の考えを聞いた上で「今から気を付けたい」と記述していることから，【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

【思考・判断・実践】
自分に合った具体的なめあてになっているかを見取ります。

学習カードだけでなく，メモを取るなどして，発言の内容や活動の様子から，評価することも大切です。

<資料②　ふり返りカード>

わすれものふりかえりカード

3年　名前（　　）

☆　こんなことをがんばるよ。

しゅくだいのあと，すぐあしたのよういをする。

☆　自分できめたがんばることをどれぐらいがんばることができたかな。

	10日（金）	13日（月）	14日（火）	15日（水）	16日（木）
わすれたもの		たいそうふく マスク			
数	0こ	2こ	0こ	0こ	0こ
がんばれたかな：自分でできた					
がんばれたかな：いわれてできた					
がんばれたかな：できなかった					

☆　一週間やってみた感想

月よう日は，せんたくをしてあった たいそうふくとマスクをわすれていやでした。つぎの日から，ねる前と朝も時間わりを見たらわすれなかったのでうれしかったです。

この児童の場合，実践活動で，忘れものがほとんど無くなったという成果が出ていることから【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

自分で決めためあてで実践をし，うまくいかなかったことを改善するため実践方法を見直しているところからめあて達成のために努力をしている過程を見取ることができ，【思考・判断・実践】の評価は十分満足できる活動の状況であると考えられます。

このように，成果だけでなく，活動過程の努力の様子を認めて評価することが大切です。

小学校特別活動における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ　児童会活動やクラブ活動の評価はどのように行えばよいですか。

Ａ　学級担任以外の教師が指導に当たることが多いことから,児童会活動やクラブにおける「目指す児童の姿」を明確にし，全ての教師が共通理解をもって指導と評価に当たることが大切です。

　クラブ活動においては，共通理解した評価項目を起こした「評価カード」を作成し記録をします。その際，評価項目全部を毎回評価するのではなく，日によって人数や項目を絞るなどして，学期を通して全員の全項目を見るようにします。十分満足できる状況が見られた場合，○を付けます。その結果を「学級担任連絡カード」等に転記し，学級担任に渡すようにします。

Ｑ　学校行事の評価はどのように行えばよいですか。

Ａ　学校行事には,「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」の５種類がありますが，それぞれに評価規準を設定し，これに基づいて評価を行います。学校行事においては，全ての児童の活動の状況を直接見取ることが困難であり，学級担任以外の教師が評価しなければなりません。そこで，どの学校行事にも共通して活用できる評価カードを作成することも工夫の一つです。**<資料①>**

　また,言語活動の充実を図る観点から,児童が活動を振り返ってまとめたカードや感想文,発表内容など，児童が書いた文章や表現から読み取り，評価の参考にすることも考えられます。その際，児童の日頃の学校行事への活動の取組の様子なども踏まえ，積極的に児童のよさや可能性を見取るようにしましょう。

<資料①　どの学校行事も共通して活用できる評価カード>

行事名＜　　＞　　月　　日（　　）

	関心・意欲・態度		思考・判断・実践		知識・理解	メ　モ
項目 ＼ 名前	学校行事を楽しみにしている。	進んで参加している。	めあてに向かって自分の責任を果たしている。	安全やマナーに気を付けて参加している。	学校行事の意義を理解している。	
○○　○○						
○○　○○						

≪この手引きは，以下のものを基に作成しています≫

- **国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等工夫改善のための参考資料」（小学校）**
  http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html
- **文部科学省　『初等教育資料』　№871**
- **杉田　洋　『新評価規準を生かす授業づくり小学校編』　ぎょうせい**

SPEC

佐賀県教育センター

佐賀県教育センター　　平成23年10月1日

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方
（小学校　外国語活動）

平成 23 年度から，小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が，平成 23 年 3 月には，「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

（主な内容）

1　新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
2　小学校外国語活動における教科目標，評価の観点とその趣旨について
3　小学校外国語活動における学習評価の進め方
4　小学校外国語活動における学習評価事例
5　小学校外国語活動における学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については，児童生徒の「生きる力」の育成をめざし，児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため，目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し，児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し，学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて，学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては，評価規準を適切に設定するとともに，評価方法の工夫改善を進めること，評価結果について教師同士で検討すること，実践事例を着実に継承していくこと，授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に，校長のリーダーシップの下で，学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また，年間指導計画を検討する際には，それぞれの単元（題材）において，観点別学習状況に関わっての最適な時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが，評価すべき点を見落としていないかの確認や，必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き，効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における評価の観点について

○新学習指導要領における外国語活動の評価の観点

外国語活動における評価の観点は，他の教科とは，若干異なる考え方に基づいています。一般に，評価の４観点といわれるものは（教科によって多少異なりますが），「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」に区分されます。しかし，教科としてではなく領域として導入された外国語活動には，これらの考え方が全て適合するわけではありません。したがって，学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って，外国語活動特有の評価の観点を設定することが望ましいと考えます。

学習指導要領に示された外国語活動の目標は以下の通りです。　　**※丸数字は教育センターによる**

> 外国語を通じて，
> ①言語や文化について体験的に理解を深め，
> ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，
> ③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，
> コミュニケーション能力の素地を養う。

目標に示されているように，小学校の外国語活動では，①②③の３つの柱を踏まえた活動を統合的に体験することで，児童にコミュニケーション能力の素地を育てていくことを，そのねらいとしています。評価の観点も，この３つの柱を基に以下のように考えてはどうでしょうか。

> **①言語や文化についての体験的な理解　→　①言語や文化に関する気付き**
> **②コミュニケーションを図ろうとする態度　→　②コミュニケーションへの関心・意欲・態度**
> **③外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ　→　③外国語への慣れ親しみ**

小学校　外国語活動における目標，評価の観点及びその趣旨

1　目標

外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。

2　評価の観点及びその趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
コミュニケーションに関心をもち，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して，言葉の面白さや豊かさ，多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

評価の観点について

評価の観点については，基本的に，平成22年５月の初等中等教育局長通知「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（以降は「通知」と呼ぶ。）に例示された外国語活動の評価の観点を参考に設定します。ただし，学習指導要領に示された外国語活動の目標を踏まえた上で，各学校の実態に応じて観点を追加することができます。なお，外国語活動の評価の記録については，設定された観点に照らして，児童の学習状況に顕著な事項がある場合に，その特徴を記入する等，児童にどのような力が付いたかを文章で記述します。

小学校　外国語活動における学習評価の進め方

どのようなことを評価するの？

※(例)は，英語ノート１Lesson１『世界の「こんにちは」を知ろう』の評価規準文例

☆【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

児童が活動内容に関心をもち，友達や担任，ＡＬＴとのコミュニケーション活動に自ら取り組もうとしているかどうかを評価するものです。例えば，活動の中で，相手の言っていることを一生懸命に聞こうとしていたり，自分にできる方法で自分の思いなどを伝えようとしていたりするなど，人との関わりに対する積極的な姿勢を観察していきます。

（例）　挨拶のマナーを知り，名刺交換を楽しみながら，たくさんの友だちと積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

☆【外国語への慣れ親しみ】

様々な活動において，児童が，ある単元で触れてきた外国語の表現を聞いたり，使ったりしているかどうかを評価するものです。例えば，“Do you understand?” という問い掛けに，“Yes.” と答えたり，うなずいたりするなど，聞いて理解し反応している様子や，完全ではなくてもそれまでに触れてきた英語を使って，相手に自分のことを伝えている様子などを見ていきます。

（例）　様々な言葉で挨拶をしたり，自分の名前を英語で伝えたりしながら，友達やＡＬＴと活動している。

☆【言語や文化に関する気付き】

日本語と外国語，また，自文化と異文化の相違点や類似点などについて，児童が，自分の気付きをもっているかどうかを評価するものです。例えば，職業を表す英語表現の語尾の多くが-er，-ist であることと，日本語での -家，-士という表現に共通性を見出したり，日本と欧米とのジェスチャーに関して，同じ動きでも意味が全く異なることに気付いたりする等，言葉や文化に対して，どのようなことに気付いているかを見ていきます。

(例)　世界には様々な挨拶があることを知り，挨拶を通して，自文化と異文化の違いや共通点に気付いている。

評価の方法は？

ⓐ行動観察

児童のコミュニケーション活動等を見ながら，どのような関わりをしているか，どのような反応をしているかなどを観察し評価していきます。毎時間，３つの観点から全ての児童を評価することは難しいので，時間によって評価の観点を精選したり，活動場面によって人数を限定して観察したりするなど，単元全体を通して，あるいは，学期・年間を通じて評価を網羅できればよいと考えます。単元で１枚，または，単位時間に１枚，下のような評価補助簿を作成し，評価に生かすこともできます。

＜評価補助簿の例＞

単元の評価規準を記入

（評価規準）		
	気付き	コミュニケーション活動に関心をもち，進んで友だちと関わろうとする。
	慣れ親しみ	外来語のもとになる英語表現に親しみ，担任の話す内容を推測して…
	関心・意欲・態度	言葉を通しての世界のつながりに気付くと共に，日本語についての…

	第１時	第２時	第３時	第４時
評価規準	音の違いに気付き，意識して聞いたり，口にしたりしようとしている。	英語以外の言葉がもとになる外来語もたくさんあることに気付いている。		
評価方法	（行動観察，自己評価）	（発表観察，自己評価）		
佐賀　たろう	○	◎　発表		
福岡　はなこ	◎　進んで			

各時間の評価規準と主な評価方法を記入

個人名を記入

◎（とてもよい），○（よい）の評価を記入したり，特記すべき様子を短い言葉で書き留めたり，評価した方法を記号で記入したりする。

評価補助簿への評価は，短い言葉や記号などでごく簡単に記録できるようにしたいものです。この時間にはこの観点を中心に見ていこう，この時間にはこのグループを中心に見ていこう，など評価の内容や対象を絞り，無理のない評価を心掛けましょう。評価をすることに注意が向きすぎて，指導そのものがおろそかになっては本末転倒です。ティームティーチングで授業を行うことができる時間などには，単独で授業を行う場合よりも余裕をもって評価ができるような計画を立てるのもよいでしょう。

以下に，それぞれの観点について，「子どものこんな姿が見られたら」という具体的な姿を挙げています。普段から意識して，そのような子どもの姿を見ていくようにしましょう。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- 相手の話を一生懸命に聞こうとしている。
- 相手の話をよく聞き，うなずいたり反応したりしている。
- 進んで友だちや担任，ＡＬＴに話しかけようとしている。
- 相手の質問に積極的に答えようとしている。
- 言語や非言語（アイコンタクト，表情，ジェスチャー）などを使って，自分の伝えたいことを表現しようとしている。
- 進んで聞き返したり，質問をしたりしようとしている。
- 活動に進んで参加し，友だちと関わることを楽しんでいる。

外国語への慣れ親しみ

- 歌やチャンツに出てくる英語に親しみ，楽しんで口ずさんでいる。
- 英語のリズムを感じて楽しく聞いたり，口にしたりしている。
- 教師や音声教材の英語を聞いて，反応したり真似したりしている。
- まとまった話を聞いて，大まかな内容を理解し，反応している。
- 英語の一部を聞き取って，内容を類推している。
- 簡単な英語表現を使いながら，ゲームなどの活動を進めている。
- 音とものを結び付けながら活動している。
- 簡単な英語を使って，相手とのやりとりを楽しんで行っている。

言語や文化に関する気付き

- コミュニケーションのマナーを意識し，相手とのやりとりを楽しんでいる。
- 世界には，様々な言語や文化があることに気付いている。
- 様々な言語に関心をもち言葉の面白さや言語の大切さに気付いている。
- 友だちのよさに気付き，それを認める発言をしている。
- 自文化と異文化の違いや共通点に目を向けている。
- 自文化や異文化のよさに気付いている。
- 自文化や異文化のよさに気付き，それらを受け容れる気持ちをもっている。

ⓑ発表観察

例えば，単元の発展活動としての「紹介場面」や「発表場面」で，児童がどのように自分のことを表現しようとしているかを観察し評価していきます。その際，英語の流暢さや発音のよさなどの英語そのものの力を評価するのは適切ではなく，自分にできる方法を駆使して伝えたいことを表現している様子や，アイコンタクトを心掛けるなど関わる相手に対する積極的な態度等を評価します。

ⓒ制作した作品や英語ノートの書き込み

活動の中で，個人，あるいは，グループなどで作成した作品や英語ノートへの書き込みなどで，活動への意欲を評価することもできます。また，活動時に使用したワークシートなどでの評価も可能です。

ⓓ自己評価　ⓔ相互評価

活動のふり返りとして用いる「ふり返りカード」が中心になります。児童一人一人のポートフォリオとしてストックしていけば，自己評価の資料として用いることができます。ふり返りカードを用いる際には，まず，活動の目標に照らし合わせるなど，どんな観点で自己評価をさせるのかということを，目標に照らし，よく考えて作成しましょう。また，児童にも，どんなことをカードに記入していくのかを，十分に理解させてから取り組ませるようにしましょう。ふり返りカードに，友達について見つけた「よかったこと」などを記入する欄を設けておけば，相互評価の資料としても用いることができます。

評価規準の設定は？

評価規準については，例えば，「通知」において例示されている「コミュニケーションの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の３つの観点に沿うなどして，各学校において設定する必要があります。

また，「英語ノート」指導資料の各単元のねらいや内容を基にして，単元ごとに３観点別の評価規準を作成し，さらに，それを基に各時間の評価規準を作成していくこともできるでしょう。その際には，その時間で重点的に評価を行う観点を１つに絞るなど，効果的，効率的に評価を進め，評価のための評価に陥ることがないようにする配慮をしていくことが必要です。

○英語ノート指導資料（各Lessonの「本単元の内容」の部分）を参考にした評価規準の例

☆英語ノート２・Lesson ７「自分の１日を紹介しよう」の場合

評価の観点	評価規準の例
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	１日の生活表を作り，英語やジェスチャーなどを使って，友達と楽しみながら紹介し合うなど，進んでコミュニケーションを図ろうとしている。
外国語への慣れ親しみ	時刻や動作を表す表現を使って自分の１日を紹介したり，友達やＡＬＴの１日の生活を聞いて大まかな内容を理解したりしている。
言語や文化に関する気付き	世界には時差があることを知り，世界の広さを感じたり，他国の子どもの生活を知り，自分の生活との共通点や相違点などに気付いたりしている。

評価における留意点

○　評価においては，どの観点についても，定着を求めるものではありません。評価をするのは，児童の「関心・意欲・態度」「慣れ親しみ」「気付き」であり，よって，能力や技能(スキル)の定着状況を評価するようなことがないようにしましょう。

○　評文の文末に「～できる」という表現を使うと，できる・できないの線引きのようになり，中学校以降の外国語科教育の評価の考えになります。

→**「～している」「～する」「～しようとしている」**などの表現が望ましいでしょう。

また，目標に照らして「おおむね満足できる」状況にあるかどうかの評価を中心とします。

○　「これができていないから頑張りなさい」という捉えではなく，児童にとって英語は初めての言葉であり，“ Hello! ”と答えるだけでも十分にほめるに値するという見方で，形成的に，プラスの思考で評価を考えましょう。

小学校　外国語活動における評価事例　１

■　単元全体を通しての学習評価の進め方が分かる事例

事例１の単元では，３時間の学習計画を立て，バランスよく観点別評価を行うことにしました。ここでは１単位時間に１つの評価規準を設定しています。

１　単元名　「将来の夢を紹介しよう」　　【英語ノート２　Lesson９】

２　単元目標

職業を表す表現に親しみ，言葉についての関心を高めると共に，進んで自分の将来の夢について紹介したり，友だちの夢を聞き取ったりしようとする。

３　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
積極的に自分の将来の夢について紹介しようとしたり，友だちの夢を聞き取ろうとしたりしている。	職業を表す表現や職業を尋ねる表現を聞いて，その内容を理解したり，それらを使ってコミュニケーション活動を行ったりしている。	英語での職業の言い方について知り，日本語との違いや共通点に気付いたり，世界の子どもたちも，自分たちと同じように将来に夢を描いてることに気付いたりしている。

４　単元の指導と評価の計画（３時間）

目標・活動	関	慣	気	評価の方法の具体と自己評価カードの評価項目例文
第１時 様々な職業の英語表現に慣れ親しむ。 ○　Who am I？クイズで，様々な職業の英語表現に触れる。 ○　キーワードゲームなどで，職業の英語表現に慣れ親しむ。		○		**行動観察** 英語やジェスチャーのヒントを与え，何の職業かを推測させることにより，自分にできる方法で答えている様子を観察する。また，ゲームの中で，楽しみながら自然に職業を表す英語表現を使っている様子を観察する。 **自己評価カードの評価項目(例文)** **英語やジェスチャーを使って先生の質問に答えたり，ゲームの中で職業の名前を英語で言ってみたりしましたか。**
第２時 外国の子どもたちも，自分たちと同じように将来の夢を描いていることを知る。 ○　Let's　Listen の内容を基に，外国の子どもたちの夢について知ったり，ＡＬＴの国の子どもたちが憧れる職業のランキングを予想したりする。			○	**発表観察** 外国の子どもたちの夢についての話題から，活動中，また，ふり返りの場で，自分たちとの相違点や類似点に関する気付き，それぞれのよさに目を向けた気付きなど，発言の内容を聞き取って評価する。 **自己評価カードの評価項目(例文)** **外国の子どもたちの夢について，自分と比べて気付いたこと（似てるな，違うな）や，こんなところがいいな・おもしろいなと思ったことを書いてみましょう。**＜記述式＞
第３時 将来の夢の紹介カードを作り，友だちに将来の夢を伝えたり，友だちの夢を聞いたりする。 ○　インタビューゲームで，自分にできる方法を使いながら，友だちと将来の夢を伝え合う。	○			**行動観察，発表観察** 作成したカードを提示しながら，使える英語表現やジェスチャーなどを用いて，自分の夢やその理由を相手に何とかして伝えようとしていたり，相手の言うことを一生懸命に聞こうとしている様子を評価する。表現の正確さでなく，自分から進んで関わろうとする姿勢を見る。 **自己評価カードの評価項目(例文)** **自分の夢について友だちに進んで紹介したり，友だちの夢を聞いたりすることを楽しみましたか。**

小学校　外国語活動における評価事例　2

■　**「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価の進め方が分かる事例**

英語ノート２「友だちの誕生日を知ろう」の単元において，言語や非言語など自分にできる方法で，担任や友だちとの関わりを楽しむ活動を展開する場合の評価方法について示します。

単元名　「友だちの誕生日を知ろう」　【英語ノート２　Lesson３】

本単元は，３時間扱いの計画です。１時目は，ゲームなどの活動を通して，月名を表す英語表現や誕生日を尋ねる質問表現に慣れ親しませ，本時である２時目では，それらを聞いたり使ったりしながら担任や友だちとのコミュニケーションを楽しむ活動を行います。３時目は，コミュニケーション活動に文化理解の内容を絡めて，自文化・異文化への気付きをもたせます。

１　本時の目標（２／３）

○　聞いたり伝えたりするコミュニケーション活動に興味をもち，友達や担任，ＡＬＴと積極的に関わろうとする。

２　本時に位置付けた評価規準

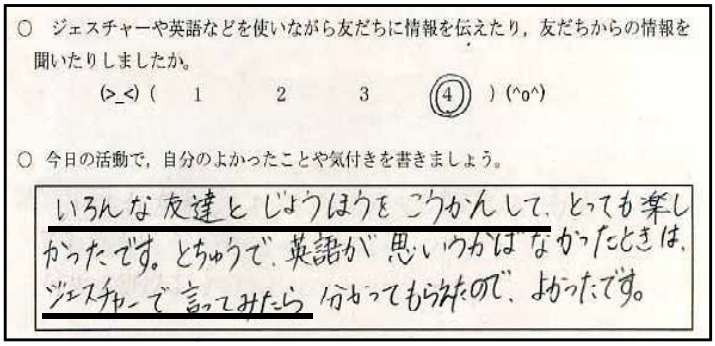
○　英語表現や身振りなどを使いながら，積極的に担任や友だちとのやりとりを楽しんでいる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

３　本時の指導と評価のポイント　　※ゴシック部分の活動について観察し，評価する

活動内容	評価の具体とポイント
１　♪ 12months song を歌う。 **２　担任のヒントを聞いたり見たりして，クイズを楽しみながら，前時で触れた表現に再度触れる。** **３　ゲームのルールを聞いて，友だちと「情報交換ゲーム」を行う。** ４　ゲームで分かったことを，みんなで共有する。 ５　活動のふり返りをする。	**行動観察**（２および３の活動において） まずは，どちらの活動においても，積極的に参加しようとしているか，つまり，担任のヒントを熱心に聞いて答えようとしていたり，自分から友だちに声を掛けて関わったりしているかを観察する。そして，３のように，児童が自由に相手と関わる活動では，より細かに活動を観察し，自分なりの表現を工夫して楽しんでいる場面や，友だちと協力して活動している場面などを見出し，評価補助簿に記入すると共に，その場でほめたり励ましたりする。 **※ふり返りについては，発表観察と自己評価カードで評価（下欄参照）**

＜児童ａの自己評価カードの一部＞


○　ジェスチャーや英語などを使いながら友だちに情報を伝えたり，友だちからの情報を聞いたりしましたか。

(>_<)（　1　　2　　3　　④　）(^o^)

○　今日の活動で，自分のよかったことや気付きを書きましょう。

いろんな友達とじょうほうをこうかんして，とっても楽しかったです。とちゅうで，英語が思いつかばなかったときは，ジェスチャーで言ってみたら分かってもらえたので，よかったです。

自己評価カードの項目は，その時間の評価規準をできるだけ具体的にした形で示します。また，記述させる前に，活動で良かった点をほめたり，振り返りで考えさせたいことについて触れたりすると，より具体的な評価ができます。児童の記述の中で，評価のポイントになるような部分は，特にしっかりチェックしましょう。

小学校　外国語活動における評価に関するQ&A

Ｑ１　外国語活動の目標にある「コミュニケーション能力の素地」とは，具体的にどのように捉えたらよいでしょうか？

「コミュニケーション能力の素地」とは，小学校段階で外国語活動を通して養われる，言語や文化についての体験的な理解，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度，外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものです。

人が相手とコミュニケーションを図る際には，音声として表れる言葉だけでなく，無意識に身振り手振り（ジェスチャー），顔の表情，視線などの非言語メッセージを，同時に発信しながら意志を伝えようとすることが多いものです。また，人と人とのコミュニケーションは，相手の話を聞きたい，相手に自分のことを伝えたいという思い，つまり，相手とコミュニケーションを図りたいという気持ちがない限り，いくら話す技術(スキル)を磨き，語彙を増やしたりしたとしても，相手との意思相通や相互理解はうまくいかないのではないでしょうか。

外国語活動では，言語・非言語を含めたコミュニケーションの手段の「素地」と，他者と積極的に関わろうとする情意的な面の「素地」を，活動を通して児童の中に育てていくことをねらいとしています。評価においても，この外国語活動の目標を十分に理解した上で，評価規準の設定を行っていくことが大切です。

Ｑ２　指導要録や通知表への評文の記入では，どのようなことに配慮すればよいでしょうか？

外国語活動の評価は，評定をつけるものではなく，あくまでも文書表記です。ですから，児童それぞれについて特徴的な点を明記する必要があります。そこで，評価の際に注意することは以下の通りです。

まず，１つ目は，他の児童と比較して評価するのではなく，その児童自身の資質・能力（主として，態度・意欲面）が，外国語活動によってどのように向上したかを表記します。人との関わりに消極的で，普段，声がなかなか出せない児童でも，外国語活動を通して，その児童なりに少し声を出せたという場面が見られたら，そこを見落とすことなく評価することが必要です。教師が作成した評価規準に照らし，一人一人の児童の現状を考慮して，児童がどれほど成長したかを評価していきます。つまり，その児童の形成的評価として，次につながる評価とすることが大切なのです。

２つ目は，児童のための評価，つまり，児童が「もっと人との関わりを楽しもう」と思える評価にすることです。関わりの中でよかったことをきちんと褒め，コミュニケーションに対して前向きになれるような文言の評価にすることです。そのために文言を精査する必要があります。

３つ目は，保護者への連絡を兼ねる通知表の評価についてです。ややもすると，通知表の文言が，教師にしか分からない抽象的な文言になっている場合や，例えば，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」という観点の表示の欄に「○」がついているだけの通知表を目にすることがよくあります。これでは正確に子どもの評価が伝わっているとは言えないと思います。コミュニケーション活動について，優れている点を，できるだけ具体的な分かりやすい文言で書いていく必要があります。

この手引きは，国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」（小学校）などを参考にして，作成しています。以下のＵＲＬをご参照ください。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

SPEC

佐賀県教育センター